

令和 6 年度使用義務教育諸学校教科用図書採択の件

令和 6 年度使用西宮市立義務教育諸学校教科用図書採択について、別添により審議の上、定める。

令和 5 年 7 月 20 日提出

西宮市教育委員会
教育長 重 松 司 郎

○ 採択項目

- (1) 令和 6 年度使用特別支援学級用一般図書
- (2) 令和 6 年度使用西宮市立小学校、義務教育学校前期課程教科用図書
- (3) 令和 6 年度使用西宮市立中学校、義務教育学校後期課程教科用図書

令和5年(2023年)7月20日

西宮市教育委員会 様

令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択について

(報 告)

義務教育諸学校教科用図書選定委員会

はじめに

当義務教育諸学校教科用図書選定委員会（以下「選定委員会」という）は、西宮市立小学校、中学校義務教育学校が使用する教科用図書について、西宮市教育委員会が採択するための調整及び審議を行う、西宮市教育委員会の附属機関である。

本年5月24日に委員委嘱を受けた9名の委員から構成される選定委員会は、以来、5月26日に教科別調査員会及び学校教育法附則第9条第1項の規定による特別支援学級用一般図書（以下「一般図書」という）調査員会を設置し、6月から7月にかけて教科用図書の調査研究を進めた。

6月30日の第2回選定委員会、7月5日の第3回選定委員会において、各調査員会より調査研究結果の報告を受け、選定委員会による審議を行い、報告をまとめた。

報告書を読むにあたって

◆報告書の構成

はじめに	1 - 2		
(1) 小学校、義務教育学校前期課程教科用図書の調査報告について	3 - 21		
1. 国語 (3)	2. 書写 (4)	3. 社会 (5)	4. 地図 (6)
5. 算数 (7-8)	6. 理科 (9-10)	7. 生活 (11-12)	
8. 音楽 (13)	9. 図画工作 (14)	10. 家庭 (15)	
11. 保健 (16-17)	12. 外国語 (18-19)	13. 特別の教科 道徳 (20-21)	
(2) 令和6年度使用中学校、義務教育学校後期課程教科用図書一覧	22		
(3) 特別支援学級用一般図書の調査報告	23 - 30		
(4) 義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員名簿	31		

◆小学校、義務教育学校前期課程教科用図書調査研究の観点について

調査研究を行うにあたり、11の観点（特別の教科 道徳は12の観点）を設け、観点ごとに、西宮の子供の学習活動の様子に照らして分析をした。観心の趣旨は次のとおりである。

I 全教科に共通に設定する観点

- ① 教科目標から見た編集の適切さ
 - ・ 資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫
- ② 主体的・対話的で深い学びについての工夫
 - ア. 言語活動を充実するための工夫
 - イ. ICTを活用した学習活動の工夫
 - ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫
 - エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫
 - オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫
- ③ 他教科との連携の工夫
- ④ 写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ
- ⑤ 表記・表現のわかりやすさ
- ⑥ 単元（教材の配列）の適切さ

⑦ 判・ページ数

II 特別の教科「道徳」に設定する追加観点

② 主体的・対話的で深い学びについての工夫

ア. 言語活動を充実するため工夫

イ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫

ウ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫

エ. 個々の考えを深めるための工夫

オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫

⑧ 現代的な課題への対応

◆小学校、義務教育学校前期課程教科用図書調査報告書内の発行者表記について

発行者番号及び報告書内において使用している発行者の正式名称は次のとおりである。

2	東京書籍	:	東京書籍株式会社
4	大日本	:	大日本図書株式会社
9	開隆堂	:	開隆堂出版株式会社
1 1	学校図書	:	学校図書株式会社
1 5	三省堂	:	株式会社三省堂
1 7	教育出版	:	教育出版株式会社
2 6	信 教	:	一般社団法人信州教育出版社
2 7	教育芸術社	:	株式会社教育芸術社
3 8	光村図書	:	光村図書出版株式会社
4 6	帝国書院	:	株式会社帝国書院
5 0	大修館	:	株式会社大修館書店
6 1	啓林館	:	株式会社新興出版社啓林館
1 1 6	日本文教出版	:	日本文教出版株式会社
2 0 7	文教社	:	株式会社文教社
2 0 8	光文書院	:	株式会社光文書院
2 2 4	学研	:	株式会社 Gakken

1 国語		2 東書	17 教出	38 光村
発行者・教科書名		新編 新しい国語	ひろがる言葉 小学国語	国語
観点				
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫		単元でつきたい力を冒頭で示し、各単元において「見通す、取り組む、ふり返る」の流れの中で自らの学習課題を明確にして、能力向上と主体的な学習態度を養うことができる。巻頭の「言葉の力を集めよう」では、1年間の学習を一覧で示し、見直しをもって学習することができる。単元ごとに育成する資質・能力を「ことばの力」で明確化して最初に示し、イラストや図解を取り入れて視覚的にも理解しやすい工夫をしている。巻末の「言葉の力のつながり」では、前学年で学習した内容とのつながりをふり返ることができる。	系統的な学習を意図して単元の目標やねらいを明確にし、言葉による見方、考え方を働かせて、児童が自ら学び、考える力を身につけられるように配慮している。教科書冒頭で、学年の学びの見直しを持つことができるように「〇年生で学ぶこと」を設定している。単元の最後では、「ここが大事」として、単元で習得すべき学びをまとめている。	単元の最後に「たいせつ」として、その単元で学ぶべきことが記され、その単元で習得すべき能力や教科目標について明記されている。また、振り返りの項目が「知る＝知識理解」「話す、聞く、書く、読む＝思考・判断・表現力」「つなぐ＝主体的に学びに向かう姿」と、3つの柱を意識したものとなっている。
②主体的・対話的で深い学びについての工夫	ア. 言語活動を充実するための工夫	1単元1領域を原則として指導事項を重点化している。「言葉相談室」「情報のとびら」では、文法理解や語彙の充実、引用の方法などを掲載し、言語活動の充実を図っている。各単元末の「こんな本もいっしょに」で関連する書籍を紹介するほか、読書単元として「本は友達」を年3回設定している。読書活動の1つとして「ブックトーク」(4年下P72)や、読んだ本を紹介する活動(3年下P64)を取り上げている。	単元末の「言葉をふやそう」や巻末付録「言葉の木」「言葉の道具箱」では、語彙の充実と定着や文法、文型の理解につながる情報をまとめて掲載している。各学年において読書活動を設定している。(例:おすすめカード作り(3年下P56)、ブックトーク(4年下P30))	巻末に、「たいせつのまとめ」(1年)「言葉の宝箱」「伝え合うための言葉」「学習に用いる言葉」(2～6年)を提示している。また、想像を広げたり他者と関わったりしながら語彙力を高めるよう、工夫された教材が多く設定されている。(例:あなたならどうする(4年上P120)、意見が対立したときには(5年P142))
	イ. ICTを活用した学習活動の工夫	図表などで思考を整理するために「デジタルノート」が用意されており、タブレットを活用して考えを視覚的にまとめることができる。「話す・聞く」単元では、話し合いの様子やエラーモデルを動画で確認することができる。全教材に記載されている二次元コードの中には、練習問題や学年に応じたキーボード練習なども収録されており、授業だけでなく家庭でもICTを活用した学習ができるよう配慮されている。	「まなびリンク」として、「写真」「動画」「資料」「ワークシート」「リンク」の5種類の二次元コンテンツが用意されている。二次元コードには動画・資料・WEBを表す記号を記載し、資料を分類し分かりやすくしている。「リンク」のコンテンツは、ネット上の情報にアクセスできる資料である。	各単元に二次元コードが設けられ、作者のインタビュー・教材に関連した映像や資料を見ることができるようになっている。特に「話す・聞く」の音声や映像は、本文と同じ内容の文章をどのように話しているかが分かりやすくなっている。
	ウ. 学習を見通したり振り返りするための工夫	各単元において「見通す、取り組む、ふり返る」という学習の流れが一貫している。学習の進め方については、簡易的な図表を教材の始めに、具体的な図表を教材の終わりに配置して分かりやすく示している。「ふり返る」では、ふり返りの観点を焦点化し、ポイントを示すことで「言葉の力」の定着を図っている。単元の扉は見開き1ページで構成し、新しい学習への期待に胸を膨らますことができるよう工夫している。	「読む」の単元では、「たしかめよう」「くわしくよう」「まとめよう」「つたえあおう」の4つの流れで構成され、見直しをもって学習に臨めるようになっている。「話す・聞く」「書く」の単元では、導入部分で学習の見通しが明示されている。「ふり返ろう」では指導事項と言語事項の2観点で学習を記述的に振り返ることができるようにしている。	単元ごとに「目標」が明示されており、単元末においては、単元ごとの「目標」に対する振り返りが「ふりかえろう」として設定されている。各単元末に「見直しをもとう」のページが設定されており、「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」の4つの学習過程に沿って課題が整理されている。
	エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	友達や周りの人とのやりとりやグループで資料作成・発表を行うなど、対話的な学びの場面を多く設定し、協働的な学びにつながるように工夫している。(例:ありがとうをつたえよう(2年下P42)、話し合って考えを深めよう(6年P116))	単元末では、自己の学びを言語化して表出する場が設定され、他者と学びを共有することで言葉の力に気づき、学びを実生活に生かそうという意欲を高める工夫がされている。他者と関わる必然性のある教材を設定し、身につけた言葉の力を使う場を設けている。(例:ディベート(5年上P116)、パネルディスカッション(6年P上52)など)	各単元に、学習で得た成果を伝え合う活動が設定されている。また、体験的な活動も設定されている。(例:ものの名まえ(1年下P90)、気持ちをこめて、「来てください」(3年上P66)、聞いて、考えを深めよう(6年P48))
	オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	身の回りで起きそうな出来事を取り上げて児童の問題解決への意欲を高めたり、情報を精査して発信する情報活用能力を育成したりすることが期待できる。(例:情報のとびら(3年上P54、6年P234)、インターネットの投稿を読み比べよう(6年P92))	日常の中で自らが感じた疑問や見つけた課題について調べたり、話し合ったりするなど、児童が必要感を持って主体的に取り組むことのできる活動を工夫している。(例:のりものカードでしらせよう(1年下P20)「クラスお楽しみ会」をひらこう(2年下P60))	単元の学習過程が問題解決型の展開になっている。単元冒頭の「問いをもとう」で、単元で学ぶ内容を自分事として捉えながら学習に向かえるように工夫され、児童の「どんなことをしてみたいか」が「目標」とつながるようになっている。
③他教科との連携の工夫	「言葉の力」の中の「生かそう」では、身に付けた言葉の力を他教科や日常生活に生かす視点を示している。(例:お願いやお礼の手紙を書こう(4年上P116)、和の文化を受けつぐ(5年P150)、発信しよう、私たちのSDGs(6年P170))	日常生活や学校生活(特に、生活科や理科、総合的な学習の時間)に関連した題材や話題、言語活動を設定し、学びを他教科の学習でも活用できるように配慮している。教材に関連のあるSDGsマークが示されている。	教科横断的に能力を伸ばせるような話題、題材、学習活動が設定されている。新聞を作る単元など、学習活動を他教科にも生かせるようにしている。「いかそう」を設け、他教科や日常生活にも活用できる指針を掲載している。(例:おおきくなった(1年上P64)、自然環境を守るために(5年P160))	
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	カラーユニバーサルデザインに配慮してデザインされている。また、すべての児童に見分けやすい配色になっている。「言葉の力」では、文章だけでなく図解を加えることでさらに理解を深める工夫がされている。	カラーユニバーサルデザインに配慮している。色調のバランスだけでなく、形でも区別しやすいように配慮したり、色による指示を含んだ設問や色に基づく活動を避けたりしている。「読む」「言葉」「文化」「漢字」「読書」「話す・聞く」「書く」の学習活動によって色分けし、統一されたアイコンを使用している。	カラーユニバーサルデザインに配慮し、色覚特性を考えた配色にしている。また、色の違いだけでなく、線の太さや種類などの識別の工夫があり、「話す・聞く」「読む」「書く」「言葉」「情報」の学習活動によって色とイラストが分けられている。	
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	独自に開発した教科書用の書体を使用している。硬筆文字に近い字形で、読みやすさだけでなく文字指導にも配慮している。物語・説明文の本文には、5行ごとの行数字に加え、1行ごとに行を示す「・」をつけ、行を見つけた指し示めしたりしやすいようになっている。	ユニバーサルデザインフォントを使用している。振り仮名を使用し、違和感のある交ぜ書きを避けている。ふきだし内の改行位置を工夫し、言葉をまとまりとして捉えられるように配慮している。原典をなるべくそのまま表記することを原則としている。物語・説明文の本文には5行ごとの行数字と、1行ごとに行を示す「・」をつけ、何行目か分かりやすいようにしている。	読みやすく、書き文字に近い教科書体を使用することで、字形を意識させるようになっている。また、着目させたい箇所や小さな箇所にはユニバーサルデザインフォントを使用している。交ぜ書きや単語、文節の途中では、改行を避けるよう配慮されている。	
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	各学年の学習内容(領域)の時期が揃えられており、螺旋的・反復的に学ぶことができるよう単元を配列している。SDGsに関する内容は全学年、プログラミング的思考に関する内容は5年で取り上げられている。	各学年で言語活動が系統的に配置されており、カリキュラムの系統化や重点化を図っている。SDGsに関する内容は全学年で取り上げられている。また、プログラミング的思考を必要とする単元も盛り込まれている。	低・中・高学年において、2学年にわたって習得と活用を繰り返しながら螺旋的に学ぶことができるように、単元を配列している。SDGsに関する内容は2年～5年、プログラミング的思考に関する内容は6年で取り上げられている。	
⑦判・ページ数	B5判 1年上146・下174、2年上162・下170、3年上170・下172、4年上170・下162、5年298、6年298	B5判 1年上137・下177、2年上165・下169、3年上165・下161、4年上177・下171、5年上161・下185、6年上161・下169	B5判 1年上133・下140、2年上164・下168、3年上164・下168、4年上160・下176、5年294、6年312	

2 書写

観点	発行者・教科書名	2 東 書	17 教 出	38 光 村
		新編 新しい 書写	小学 書写	書写
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫		各時間における目標が「書写のかぎ」として具体的に示されており、習得すべき知識技能を端的で分かりやすく説明している。また、振り返りの項目が「考えた＝学びに向かう力・人間性等」「分かった＝知識・技能」「書けた＝思考力・判断力・表現力等」と3観点を意識した構成になっている。	単元ごとに導入部で身に付けたい力を「めあて」で端的に示している。その「めあて」を「つかむ」→「考える」→「たしかめる」→「ふりかえる」の学習過程の中で、常に意識をしながら学習に向かうことができるよう、紙面が構成されている。	各教材に記載されている「たいせつ」では、書写の学習をする上で身に付けるべき字の特徴や整った文字の書き方が端的に述べられ、学習のポイントを視覚的に捉えるようになっている。
②主体的・対話的で深い学びについての工夫	ア. 言語活動を充実するための工夫	「実験したことを記録しよう」(3年P26)や「委員会活動を伝えるリーフレットを作ろう」(5年P24)など、書写で身に付けた力を他教科や学校生活に生かせるような題材や言語活動を具体的に例示し、児童が自らの生活と結び付けて取り組めるよう配慮されている。	ふりかえりでは、友達同士で書いた文字についてめあてと照らし合わせて話し合う活動を設けている。身に付けた力を言語活動に生かすため、「あさがおのかんさつカード」(1年P24)、「ありがとうカードをかこう」(1年P40)などの具体的な例示がある。お世話になった人に招待状を書く活動(2年)が設定されている。	「書写広げたい」では、日常生活や他の教科に書写の原理・原則を活用できる場面で設定されており、言語活動を通して日常生活に生きて働く書写の知識・技能を習得できる。また、6年の教科書では「書写ブック」が構成されており、全学年の学習内容の確かめを行うことができるようになっている。
	イ. ICTを活用した学習活動の工夫	全単元の導入に二次元コンテンツやアニメーションなどが用意されており、整った文字を書くためのポイントやナレーション付きの運筆動画を見ながら、繰り返し動きを確認することができる。	教科書の「まなびリンク」(二次元コード)と連動しており、授業で役立つ動画や資料が視聴できる。二次元コードの中心が色分けされており、用途が分かりやすい。	「二次元コード」で写真や動画、アニメーションなどのコンテンツが掲載され、書写の原理・原則を視覚的に捉えられるように工夫されている。また、「右手で書く人用」と「左手で書く人用」がそれぞれ用意されており、左手書きの児童にも配慮されている。
	ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫	「見つけよう」「確かめよう」「生かさう」「ふりかえろう」の学習過程が一貫しており、見通しを持って学習に臨むことができる。硬筆で気付いた課題等を毛筆で確認し、その成果を硬筆に生かす流れになっている。表紙裏のインデックスでは、6年間の書写の学びと単元のつながりが一目で分かるよう工夫されている。	学習の流れを児童が把握できるように、「学習の進め方」が設定されている。「つかむ・考える」「書く・たしかめる」「ふり返る」「生かす・広げる」と段階ごとに分類されており、児童が見通しをもって学習を進めることができる。試し書きとまとめ書きの欄を設け、授業で付けた力を自覚させ、自分の変容を視覚的に感じることができる。	「考えよう」→「たしかめよう」→「生かさう」の学習過程で単元が構成されており、見通しを持って学習に臨めるように工夫されている。また、振り返りのチェックボックスが配置されており、学習の目標と成果を視覚的に捉え、自己評価できるようになっている。
	エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	各単元に友達と話し合う活動場面で設定されており、コミュニケーションを図りながら本時の課題を意識することができる。「ありがとうをつたえよう」(2年P38)「年賀状を書こう」(4年P26)「インタビューのメモを取ろう」(6年P17)など、他者と関わることを目的とした活動が取り入れられている。	「ふり返り 伝え合おう」では書写の言葉の例をあげ、「どの部分が」「どうなったか」というふり返りの視点を示しながら、友達同士でめあてに対するふり返りをする場面が設定されている。「文字をくらべて話し合おう」(2年P19)や「書いてつたえ合おう」(2年P32)のように、学習の成果を表現し、他者に伝える活動が設定されている。「暑中見舞い」(3年)や地域の方に手紙を書く活動・敬老の日のはがき・恩師への礼状を書く活動(5年)など、日常にある字を書く体験を喚起させるページが掲載されている。	「手紙の書き方」(3年P24)は、正しい手紙の書き方や相手に気持ちが伝わるような書き方について学ぶとともに、「伝えるってどういうこと？」(6年P16)では、委員会活動におけるポスターの書き方について学ぶ。これらのように、相手を意識して文字を書く活動が設定されており、学習したことを実際の生活場面で活用することで、「何ができるようになったか」を捉えられるようになっている。
	オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	各単元の「見つけよう」には、課題提示の文章が示されている。文字の比較や位置の確認などを行う活動が仕組みれ、問題解決的な学習を通して主体的に学習に取り組むことができる。	「ふりかえろう」では、めあてに対する達成度を問いかけの形で示しており、自らの学習課題に目を向けるよう配慮されている。3～6年では全編において朱墨で徳先の通り道を示した図版と自らの字を見比べて考えることで、課題を意識しながら学習をすることができる。	各学習の導入部に、2つの文字を比較し、どちらがより整った字か考える活動が設定されている。また、その比較は見てすぐわかるものではなく、小さな違いであるものが多い。その比較を通して、学習課題を焦点化、明確化させた上で学習を進められることが期待できる。
③他教科との連携の工夫	「かんさつカードを書こう」(2年P25)、「調べたことを伝える新聞を作ろう」(4年P24)など、学びを他教科に生かせるような教材を取り上げ、関連する箇所をリンクマークで示している。他教科の学習や生活の中で使う例として、各学年に横書きの教材を設けている。	目次の下部にその教材で得た力を、他の学習や生活の中で生かす見通しが持てるように記載がなされている。さらに「レットライ」で、学習した内容を様々な学習や生活で生かす方法が詳しく示されている。	「書写広げたい」では、教科横断的な学習ができるよう設定されている。また、4年の教科書では「SDGsブック」が構成されており、SDGsの達成に向けた書写の活動が紹介されている。	
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	書き込み欄を上下や左右両方に配置することで、利き手に関わらず教材の文字が見えるように配置されている。挿し絵は、性別による極端な偏りがないよう配慮されている。専門家による色覚特性への検証をもとに、見やすい色が選択されている。	キャラクターのイラストを多用している。色覚特性をふまえた判読しやすい配色やレイアウトがなされている。左利きで持つ場合の鉛筆の持ち方や用具の置き方を掲載している。動画を通して、書き方について、音声とともに視覚的に理解することができる教材を掲載している。	文字や図表などに複数の色を用いる場合は、カラーユニバーサルデザインの観点から、誰もが明確に識別できる色の組み合わせを採用している。また、主たる学習要素は大きく丁寧に、それに付随する要素は小さく簡潔に示されているので、学習のねらいが明確で大切なことをつかみやすい。	
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	「書写のかぎ」や見出しの一部に、手書き文字になるべく近い字形を持ったユニバーサルデザインフォントを使用している。文章は、的確・簡潔で学年段階に応じて分かりやすい表現になっている。使用する漢字は、当該学年以下とし、当該学年の漢字には振り仮名をつけている。	手書き文字と近いユニバーサルデザインフォントが使用されている。見開きを基本とした見やすいレイアウトになっている。	単元名や教材名、「たいせつ」では、ユニバーサルデザイン書体が用いられている。硬筆文字、毛筆文字、教科書字体を使い分けている。	
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	1年間の学びを見通すイラストマップや「書写のかぎを見てみよう」を全学年に配列している。各単元の指導事項に適した字形を持つ文字や、学年段階に応じた語彙を選んでいる。	コラムには、2年で毛筆、6年で行書が発展教材として取り上げられている。	毛筆で学習したことを硬筆に生かせるよう、硬筆課題が設定されている。2年では毛筆、6年では行書が発展教材として設定されている。	
⑦判・ページ数	B5判変型 1年52、2年48、3年58、4年54、5年54、6年54	B5判 1年52、2年44、3年62、4年62、5年54、6年54	B5判変型 1年52、2年44、3年66、4年54、5年50、6年58	

3 社会		2 東 書	17 教 出	116 日 文
発行者・教科書名		新編 新しい社会	小学社会	小学社会
観点				
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	単元の構成が「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」として示されており、学習指導要領の教科目標である「公民的資質」を育てる「問題解決的な学習」をスムーズに進めることができるようにしている。(例:3年P24・P25、4年P18・P19)見開きの適所に「空間」「時間」「相互関係」の3つの視点と、「方法(考え方)」が示されており、「社会的な見方・考え方」を働かせて学習ができるようにしている。(例:4年P135、5年下P101、6年「歴史編」P10・P11)「まなび方コーナー」には「見る・聞く・ふれる」「読み取る」「表す・伝える」の3つの視点があり、学習の技能を習得したり、思考力や表現力を伸ばしたりすることができるようにしている。(例:3年P67、5年下P8、6年「歴史編」P62)5年においては上下、6年においては、「政治・国際編」「歴史編」と、教科書が2冊構成となっている。	単元の構成を「つかむ」「調べる」「まとめる」としており、どのように学習をするか、今、どこを学習しているのかが分かりやすく、「問題解決的な学習」の進め方が身に付けられるようにしている。(例:3年～6年P6・P7)学習場面に応じて、適宜「学びのてびき」のコーナーを設定し、学ぶべき事柄、資料やグラフの読み取り方、調べたことの表し方等を提示している。(例:4年P91、6年P81)	「問題を発見する力を身につけよう」「問題を追究・解決する力を身につけよう」「問題をほりさげ、よりよい未来をつくる力を身につけよう」の3つの学習過程による単元構成とし、問題解決的な学習の過程を分かりやすく示している。(例:3年P96・P97、P98～P109、P110・P111)子供たちの多様で素朴な問いから、学習問題をつかみ、焦点化された「考えたい問題」を追究することで考えを深め合い、解決していくという小単元の学習の流れを、図を用いてより分かりやすく提示している。(例:3年～6年P2・P3)学習問題を追究・解決する手立てとなる「見方・考え方コーナー」を設定し、社会科で求められる資質・能力が確実に身につくよう工夫している。(例:3年P101、6年P71)	
ア. 言語活動を充実するための工夫	主な見開きに「まなびのポイント」が例示されており、「主体的・対話的で深い学び」につながる学習活動を示している。(例:3年P32、6年「歴史編」P16)「まとめる」では、多様な表現活動が提示されており、調べたことをもとに考え、表現する力を育てることができるようにしている。(4年P86、6年「歴史編」P140)教科書に直接書き込みができるページが複数設けられており、積極的に言語活動が促されている。(例:3年P113、6年「歴史編」P98・P115)	「まとめる」では、「思考ツール」などで学習を整理して振り返り、考えを伝え合う対話的な学習を多様に提示している。(例:5年P45、6年P92・P93)社会的な選択・判断や、地域や社会のこれらからについて構想する学習場面を、「つなげる」として充実させている。(例:3年P112・P113、6年P48・P49)「SDGsとつなげて考えよう」では、地域や社会、暮らしのあり方のこれらからについて考えることを促している。(例:3年P162・P163、5年P103・P119、6年P66・P67)	「学び方・調べ方コーナー」には、「見る・調べる」「読み取る」「表現する」があり、発達の段階に応じて、観察力・資料の活用力、表現力がつくように工夫している。(例:6年P13・P25・P45)深め合いの活動では、単に考えるだけ、話し合うだけではなく、意見を2つ以上出して、その根拠をお互いに話し合い、質問や意見の交換を経て、そのよさを考えていくことで深い学びを獲得できるようにしている。(例:3年P48・P49、5年P132・P133)	
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	教科書の該当ページから二次元コードを読み取ることで、導入の動画、ワークシート、ウェブ資料、学び方の解説動画、クイズなどのQRコンテンツにアクセスできるようにしている。二次元コードからリンクするQRコンテンツ「コンピューターを学習に生かそう」では、様々な場面でのコンピューターの活用を促すとともに、情報モラルを含めた留意点についても学ぶことができるようにしている。	紙面に印刷された二次元コードから、動画、ワークシート、補助資料、クイズ式教材などのQRコンテンツにアクセスできるようにしている。タブレット型端末などICT機器の活用している学習の様子や学習の例が掲載されている。(例:3年～6年P2・P3)	二次元コードを示している箇所には、ICTを活用して学習を効果的に進められるようにQRコンテンツが用意されており、写真や動画、ワークシート、関連するウェブサイトへのリンクなどにアクセスできるようにしている。歴史の学習では、重要な資料である屏風図や想像図について、気になる箇所を二次元コードで示されている図をクリックすると、詳しい説明が表れるようにしている。(例:6年P148)QRコンテンツとして用意しているワークシートは、WordやGoogleドキュメントの形式となっており、ダウンロードした後、直接入力することができる。(例:4年P131、6年P118)	
② 主体的・対話的で深い学びについての工夫	ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫 教科書紙面の基本的なつくりを示した「この教科書のつくりを見てみよう」と問題解決的な学習の流れが分かる「学習の進め方」により、学習の流れが児童にも教師に分かりやすく示されている。(例:5年上P2・P3、P24・P25)「学習計画ワークシート」では、学習問題について予想し、学習計画を立てることで、学習の見通しを持つことができるようにしている。主に各単元の終わりには学習段階「いかす」が設けられており、学習したことをふまえて自分たちにできることなどを考えたり、様々な立場で多角的に考えたりすることができるようにしている。(例:4年P88・P89、6年「政治・国際編」P58・P59)	巻頭に「社会科で使う見方・考え方」が掲載されており、「時間」「空間」「関係」の視点や、「比較」「関連」「総合」の考え方について、具体的に分かりやすく説明している。(例:3年～6年P5)巻頭のモデル図では、「学習の進め方」を振り返る視点が例示されており、学び方の改善につなげられるようにしている。(例:3～6年P7)見開きページの右下には、「次につなげよう」が設けられおり、各時間の「問い」や「予想」をつなげることで、単元を通して問題解決的な追究を進められるようにしている。(例:3年P19、4年P87、5年P133、6年P83)	「社会科の学習の進め方」のページを設定し、学年を通して社会科の学習をどのように進めていけばよいかを、いつでも確認できるようになっており、本教科書の効果的な使い方が分かるようにしている。(例:3～6年P2・P3)「学習問題」について考え、「学習の計画」を立てる場面を設定することで、解決への見通しを持って学ぶことができるようにしている。(例:5年P71、6年P70)「学び方・調べ方コーナー」における「ワークシートの書き方」には、学習したことをまとめるだけでなく、「新たな問い」について友達と対話し、その内容について振り返るという活動が示されている。(例:3年P155、4年P95)	
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	「つかむ」の段階には主体的な学習活動を中心に、「調べる」の段階には対話的な学習活動を中心に、「まとめる」の段階には(深く)考える学習活動を中心に例示することで、小単元を通して主体的・対話的で深い学びにつながるようにしている。地域や学校の実態に応じて学習できるように、「まとめる」の場面では多様な表現活動を提示している。(例:3年P132・P133、4年P86・P87、5年上P15、P90・P91、6年「政治・国際編」P54、「歴史編」P23・P41)「いかす」の場面では、多様な意見をまとめていくことについて考えたり、学んだことや友達と話し合ったことをもとに、自分にできることを考えたりする活動を提示している。(例:3年P134・P135、5年上P122・P123、6年「政治・国際編」P106・P107)	体験的な活動や、生活体験とつなげる考え方を重視して編集されており、興味や関心を高めながら学習に臨めるようにしている。「まとめる」のページでは、文章にまとめる、発表する、話し合うなどの多様に対話的な学習活動の例を紹介し、活発な表現活動につなげている。(例:3年P21、4年P122・P123、6年P32・P33)「つなげる」のページでは、社会的な選択・判断をしたり、地域や社会のこれらからについて構想したりする、取り組みやすくて多様に対話的な活動の例を紹介している。(例:5年P201、6年P48・P49)	追究していく中で、個が集団と関わりながら問題を解決していく学び方について、キャラクターを用いながら例示されている。(例:4年P48・P49、6年P30・P31)「学び方・調べ方コーナー」には、話し合い・深め合いの進め方や提案の仕方、表現の仕方について分かりやすくまとめられている。(例:3年P40、4年P48、5年P19、6年P45)単元末には、学習問題について話し合う場面を設定したり、まとめた作品をもとに考えを深め合ったりして表現する場面が設けられており、他者と関わる中で、考えを深め合う社会科の学習を行うことができるようにしている。(例:3年P124・P125、5年P132・P133)	
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	単元の「めあて」や見開きごとの本時の「めあて」、「学習問題」をはっきりと見やすく示すとともに、見開き側注欄の本時の「めあて」に学習段階(つかむ、調べる、まとめる、いかす)を目立たせるよう紙面構成されており、問題解決的な学習を促している。見開きの適所に、ドラえもんが目印の囲みを提示し、「空間」「時間」「相互関係」の3つの視点と、方法(考え方)の合わせて四つの囲みを使い分けることにより、「見方・考え方」を働かせて学習を進めることができるようにしている。(例:5年下P30、6年「歴史編」P19)映像などをもとに学ぶことができる特設サイトとして「SDGsわたしたちがつくる未来」を設けている。また、6年「政治・国際編」の「世界の未来と日本の役割」では、世界の様々な課題をSDGsと関連づけて学習できるようにしている。(P96～P107)	小単元ごとに、「みんなでつくった学習問題」、単位時間ごとに、各見開きの左ページに「この時間の問い」として例示しており、教科書の流れに即して問題解決的な学習を進められるようにしている。(例:3年P99、6年P83)「SDGsとつなげて考えよう」や「つなげる」において、地域や社会、暮らしのあり方のこれらからについて考えることを促し、「持続可能な社会」の実現に向けた「選択・判断」や「構想」などの場面を充実させている。(例:4年P49・P68、5年P119、6年P66・P67)	「わたし(たち)の問題」「学習問題」「さらに考えたい問題」の3つの要素をもとに学習を展開することで、学習問題の質的な広がりや深まりが分かるように工夫している。(例:6年P30・P31)問題解決的な学習の過程と対応した「脚注インデックス」を設定し、社会科の学習を進める上で、主にどのような力をつけるページか分かるように示している。特設ページ「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」では、単元の学習を終えて、もっと詳しく調べてみたいことや、気になったことをSDGsと関連付けて取り上げられており、巻末綴じ込みの目標シールを使いながら、SDGsとどのように関連があるか考えを深められるようにしている。(例:5年P66・P67)	
③他教科との連携の工夫	他教科の学習内容と関連する箇所は、「教科関連マーク」と学習内容を関連するページの欄外に示されており、関連を図ることができるようにしている。(例:3年P49、4年P72、5年上P71)	社会科と他の教科等との学習連携を示した「他の教科などとの関わり」が巻頭に掲載されており、横断的に学習を進めていくことが意識されるようになっていく。(例:3年～6年P5)	特設ページ「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」では、総合的な学習への関連づけとなるような学習内容を掲載している。また、新しい教育課題に対応したSDGs関連教材も多く掲載している。(例:4年P118、5年P134、6年P194)	
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	本文と資料が区別できるようにレイアウトし、注目させたい本時の「めあて」や「学習問題」が目立つようにしている。図表などは、色調の違いだけでなく、模様や形などでも判別できるように配慮されている。鮮明な挿絵、写真などにより資料を読み取りやすくしている。	色覚の個人差を問わず、見やすい配色にしている。また、図版などは色だけでなく形や模様でも判別できるようにしている。白黒写真をカラー化しており、当時の出来事をより身近に捉えることができるようにしている。(例:6年P174、P176、P204・P205)	グラフ・地図については、色調や色の組み合わせの区別だけではなく、斜線やドットなども使用するなどの配慮がされている。グラフは、要素ごとに黒色の境界線を施し、確実に数値を読み取ることができるようにしている。AB判を採用し、写真やイラストが大きく配置されている。	
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	教科書の一部にユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用している。教科書本文は、書き文字に近い教科書体を使用している。当該学年以上の配当漢字にはふりがなを付けている。一文が短く、全体の文章量が過多にならないよう簡潔な文章表現となっている。	本文には、ロービジョン(弱視)や読みに困難さがある学習障がいの子供にも読みやすく配慮した「UDデジタル教科書体」を使用している。資料のネームには、カタカナの記号を付けられており共通理解を図りやすくしている。折り返しの多い文章は、読みやすさを考慮して改行している。前学年までの配当漢字は、漢字による表記を基本としている。当該学年以上の配当漢字や固有名詞、社会科用語等には、見開きごとにふりがなを付けている。	本文には、誰にでも見やすく読みやすい「ユニバーサルフォント(UDデザイン教科書体)」を使用している。当該学年以上の配当漢字には、全てにふりがなを付けている。	
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	学習指導要領の目標・内容・内容の取扱いに準拠しており、内容をもれなく扱い、適切に単元が構成・配列されている。小単元ごとに学習問題を設けて紙面を展開しており、「課題を追究したり解決したりする活動」ができるようにしている。	学習指導要領の目標・内容・内容の取扱いに準拠しており、内容をもれなく扱い、適切に単元が構成・配列されている。社会の変化や課題に自ら対応していく資質や能力を育成するために、問題解決的な学習を基調として編集されている。「わたしたちの県のまちづくり」(4年)の単元では、西宮市の副読本「わたしたちの西宮」で取り上げている丹波焼と同様に、焼き物づくりとして小石原焼を取り上げている。	学習指導要領の目標・内容・内容の取扱いに準拠しており、社会的現象を適切に教材化した単元構成になっている。「自然災害から人々を守る活動」(4年)の単元では、選択として阪神・淡路大震災を取り上げている。「地いきと伝統や文化と、先人のはたらき」(4年)では、学習資料として、兵庫県出身の教育学者である東井義雄を取り上げている。「わたしたちの住んでいる県」(4年)の単元では、西宮市の副読本「わたしたちの西宮」で取り上げている丹波焼と同様に、焼き物づくりとして備前焼を取り上げている。	
⑦判・ページ数	AB版 3年142、4年170、5年上126、5年下134、6年上114、6年下166	AB版 3年179、4年225、5年265、6年307	AB版 3年174、4年220、5年296、6年296	

4 地図		2 東 書	46 帝 国
発行者・教科書名		新編 新しい地図帳	楽しく学ぶ 小学生の地図帳
観点			
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	「子供が開きたくなる」「様々な場面で活用できる」「全ての子供が使いやすい」の3点を柱として、教育基本法に示された教育の目標を達成し、日本や世界の諸事情に目を向け、課題を解決しようとする、これからの社会の担い手である子供たちの成長に寄与することを旨として編修している。第3学年からの使用をふまえ、地図のしくみを分かりやすく解説した、地図の学習ページがある。(P7～P14) 問いと作業のコーナー「ホップ↑ステップ↑マップでジャンプ↑」には、地図に書かれている情報を読み取ることから一歩進んで、考えを深める問いの問題も設けられている。(例:P66、P82)	「国土を知り、未来を切り拓くための学びを育む」「全ての子供が使いやすく親しみやすい」「資料活用能力を高め、主体的な学びの力を伸ばす」を3つの基本方針として、生涯に渡って地図帳を活用し、日本と世界について幅広い教養を自分のものにするための基礎・基本を親しみながら身に付けることを目指して編修している。第3学年からの使用に対応し、大きなイラストや方位、地図記号などの地図帳の使い方を示した「地図のやくそく」がある。(P11～P16) また、4年間を通じて使用する教材のため、児童の発達段階に応じた地図表現・配列を行っている。(例:P1～P3、P4～P6、P21～P30、P83～P94、P128・P129、P130～P132) 主体的な学びを促す「地図マスターへの道」コーナーが各所に配置されている。(例:P30、P90)	
ア. 言語活動を充実するための工夫	地図記号、索引、方位、縮尺、地形表現、土地利用といった基礎的・基本的な地図の読み方を丁寧に解説している。男女の児童のキャラクターのほか、ソーヤ博士やボラリスなどのキャラクターを随所に置いて、地図の仕組みや意味、地図活用の手掛かりなどを丁寧に解説している。	地図を使って「社会的な見方・考え方」を働かせるように、地図を見る視点を示唆したり、ワイドな紙面で情報が読み取りやすい紙面を心がけたりしている。また、活用を促すキャラクターを適宜配置している。	
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	二次元コードを教科書の該当ページに配置し、白地図や都市圏、地形が分かるドローン動画、クイズなどの多様なコンテンツを掲載し、様々な学習や活動などで活用できるようにしている。1人1台端末の実現に伴い、二次元コードからリンクするQRコンテンツとして「コンピューターを学習に活かそう」を設け、様々な場面での活用を促すとともに、情報モラルを含めた留意点についても学ぶことができるようにしている。	学習を支援する二次元コードでは、デジタル地図、アニメーションによる解説やクイズ、地図のなりたちへの理解が深まるドローン動画やVR画像など、タブレットやパソコンなどのデジタル端末を活用した主体的な学びにつながるQRコンテンツを豊富に設置している。	
②主体的・対話的で深い学びについて工夫	巻頭で、「地図のきまり」として、方位、地図記号、凡例、距離等について解説をしている。(P9～P12) また、「地図帳の使い方」として、凡例、索引、縮尺について説明している。(P13・P14) 導入では親しみやすいキャラクターがガイドしながら、地図の基本を丁寧に学ぶことができるように工夫されている。(P7～P14) 問いと作業の「ホップ↑ステップ↑マップでジャンプ↑」には、到達度を図ることができるように、二次元コードからアクセスする「がんばりシート」を用意している。	巻頭で、「地図のやくそく」として、方位、地図記号、色(土地利用)について解説をしている。(P11～P16) また、「地図帳の使い方」として、記号と色(凡例)、索引・縮尺・距離について説明している。(P17～P20) 地図の見方を示唆したり、活用を促したりするキャラクターを用いて、子供自らが着目したり考えたりできるようにしている。(例:P28、P88) 教師役のキャラクターによる「問いかけ」によって、「地図マスターへの道」への学習活動をさらに深められるようにしている。(例:P57、P95)	
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	問いと作業のコーナー「ホップ↑ステップ↑ジャンプ↑」のコーナーには、地図を見ながら取り組むクイズや作業を全体で70点掲載し、地図への関心を高めるとともに、楽しみながら地図学習に取り組むことができるようにしている。	地図帳の導入部分には、3年向けの地図に親しめる問いを全11問配置している。(P7～P20) また、21ページ以降の「地図マスターの道」では、それぞれの学年に対応した問いを全100問配置している。(例:P25・P26、P77・P78)	
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	日本列島全体の自然災害地図と主な災害写真を掲載している。また、ハザードマップ(防災マップ)の例を示して、自分の地域における防災について理解を深められるようにしている。(P97～P99) 「自動車工場と関連工場の分布」のページを設け、5年の自動車産業の学習と関連付けられるよう、関連工場等の位置を示している。(P40) 日本の歴史について世界との関わりを観点から学べるページを設けており、日本の歴史を学びながら、同時代の世界の様子が見える、世界スケールの地図も掲載している。(P77～P80) キャラクターが児童の視点に立って、問いかけや気付きを誘う言葉を話すことによって、深い学びの展開を手助けできるようにしている。	日本で起こる自然災害の事例と、防災・減災に取り組む人々の努力を知り、防災意識を高められるようにするとともに、学校のまわりの「防災マップ」の具体的な作り方を掲載し、自らの身を守るために何ができるかを考えられるようにしている。(P99～P102) 「自動車産業のさかんな愛知県」のページを設け、5年の自動車産業の学習と関連付けられるよう、部品ごとの関連工場の位置でできるテーマ地図や資料図を掲載し、歴史事象を地理的な空間の広がり結びつけて考えられるようにしている。(P55・P56、P69・P70、P109・P110、P127) 地図の見方を示唆したり、活用を促したりするキャラクターを用いて、児童自らが着目したり考えたりできるようにしている。	
③他教科との連携の工夫	外国語での活用ができるよう、世界地図に国名の欧文表記を併記している。(例:P55・P56) 日本地図、世界地図の中に、国語や音楽などの学習に役立つ人物の記念館などを掲載している。(例:P24「滝廉太郎記念館」、P39「新美南吉記念館」、P49「石川啄木記念館」) 目次の下には世界の国の「ありがとう」の言葉と民族衣装を着た各国の人々をイラストで掲載している。持続可能な開発目標(SDGs)について、映像などをもとに学ことができるサイトとして「SDGs わたしたちがつくる未来」を設けている。世界の色々な料理を紹介し、食と生活文化に目を向けさせるようにしている。(P62)	外国語活動・外国語の学習に対応し、世界地図では英語表記を付記したほか、世界の挨拶を二次元コードの音声コンテンツと合わせて設置している。(P1～P3) 国語科や音楽科でも活用できる特殊凡例を設けている。(例:P47「赤とんぼ」、P89「はたの光」、P92「ロビンソンクルーソー」) インクルーシブ教育に配慮し、「手話で表す都道府県」コーナーを設置している。(例:P128) 持続可能な社会を実現するための考え方を育てるように、SDGsの特設ページを設けている。(P125・P126) また、全編を通して、SDGsに関連する写真や図表にSDGsのアイコンを設置している。(例:P70、P90)	
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	カラーユニバーサルデザインの観点から、配色やデザインについて、専門家による検証を行っている。色のみによる文字や図形の判別を避け、形を変えて区分するようにしている。(例:P77・P8、P85) A4サイズの判型を生かして地図を大きく提示している。小学校段階で必要な地図情報を厳選するとともに、文字や記号を大きく示し、はっきりと見やすい地図にしている。これまでの地図帳で用いていた地形の陰影の表現をなくし、必要な情報をすっきりと見やすく改善している。日本の100万分の1の地図には、田、畑、果樹園などの地図記号を入れて各地の土地の姿が分かるようにしている。主題図には、地形、気候、歴史、伝統文化などの多様な地図を掲載している。また、それぞれの主題図については、できる限りページ単位で図を区切り、見やすくなるようにレイアウトを工夫している。(例:P69・P70) 主な歴史の舞台(青い枠囲み)、世界遺産、ラムサール条約や世界ジオパークの登録地などについて、個別の記号を設けて注目させるようにしている。発色が良く、光の反射を適度に抑えたマット調の用紙を用いることで、見やすいだけでなく、児童が書き込みしやすいようにしている。	色覚特性のある子供も見やすいように、田や畑、果樹園には色の下に紋様(地紋)などの表現を工夫している。(例:P79・P80) A4サイズの判型を生かし、地理的な位置関係や地域間の結びつきを的確に捉えやすくするとともに紙面の情報を読み取りやすくしている。「日本の各地方を見る地図(縮尺1/100万、1/50万)」は、生活の舞台が読み取れるように、土地の高さによる色分け(等高段彩表現)と、土地の使われ方による色分け(土地利用表現)を組み合わせた地図表現にしている。(例:P49・P50) 伝統と文化を尊重する態度を育てることができるよう、地図中の歴史地名や世界遺産には、それぞれの青色と緑色の反転文字を使用して目立たせている。(例:P33・P58) 独自のクサ色(黄緑色)を加えた5色で印刷し、土地の様子を鮮やかに表現している。	
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	文字はできる限り大きく示し、ゴシック系のユニバーサルデザイン(UD) 書体を採用して、地名などを読み取りやすくしている。説明文などは意味の切れ目で改行して、読みやすくなるように配慮している。使用頻度の高い統計資料、索引に十分なページをとり、行間を空けて見やすくしている。地名は全てに、その他の文章などは3年配当以上の漢字にふりがなを付けられている。	UDフォントを地図中に使用しており、特に都道府県と都道府県庁所在地名には、「とめ・はね・はらい」が正確な独自開発したUD学参フォントを使用している。重要な地名は大きく、文字の周りに縁取りを付けるなどして、見やすくしている。地名の漢字は、各自治体が定めた正式な字を採用し、全ての地名に漢字と対応する位置にふりがなが付けられている。	
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	地図帳のイントロダクションとなる世界地図と日本地図に始まり、日本列島を見渡す地図、日本の地方図と都市圏図、世界地図、世界の州ごとの地図、資料図、統計資料、索引と系統的に配列されている。日本の国土を広域的に見る「日本地図」(P17～P19)は縮尺1/500万、「日本の各地方を見る地図」(P19～P52)は原則として縮尺1/100万、1/50万で統一し、地域の様子を比較しやすくしている。世界の州別地図は、「南極大陸」「オセアニア」も含めている。都道府県庁所在地の人口、面積、都道府県の人口、人口密度のデータは、2020年のものを使用している。	「日本の各地方を見る地図(縮尺1/100万、1/50万)」(P33～P80)で日本全国をカバーし、すべての都道府県を途切れることなく見ることができるよう構成している。日本の国土を広域的に見る「広く見わたす地図」(P21～P30)は縮尺1/160万、「日本の各地方を見る地図」(P33～P80)は原則として縮尺1/100万、1/50万で統一し、地域の様子を比較しやすくしている。世界の州別地図(P83～P94)は、赤道の真上からの視点で捉えた縮尺1/4000万の土地の高さによる色分け(等高段彩表現)の地図で統一している。都道府県庁所在地の人口、面積、都道府県の人口、人口密度のデータは、2021年のものを使用している。	
⑦判・ページ数	A4版 102	A4版 132	

5 算数	2 東 書	4 大日本	11 学 校
発行者・教科書名 観点	新編 新しい算数	新版 たのしい算数	みんなと学ぶ 小学校 算数
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	日常生活の中で興味関心が持てる内容から単元が始まっている。数学的な見方・考え方を働かせるため、補助発問や吹き出しが設定されている。どの学年においても単元の最後に「つないでいこう算数の目～大切な見方・考え方～」が設定されており、数学的に表現・処理したことを振り返ることができるようになっている。	思考力・表現力を育むことができるよう、問題解決の流れが具体的に提示されている。答え方や考え方の一部を見せないことで、学習者の気づきを促す場面を多く設けている。巻頭に「算数の大切な考え方」がまとめられている。	どのように筋道を立てて考えたらよいか、既習内容の再確認とスモールステップの設問で道筋が示されている。「数学的な見方・考え方」を「考え方モンスター」としてキャラクター化し、楽しみながら「数学的な見方・考え方」を養うことができるようにしている。単元末の「考え方モンスターでふりかえろう！」の頁下部には、単元で学習した内容が他の学習に繋がられるようにしている。
ア. 言語活動を充実するための工夫	各学年の単元の中に、児童に説明を促す問いが設けられている。単元の終わりに「つないでいこう算数の目～大切な見方・考え方」という頁が用意されており、適応問題を解くだけでなく、その単元で学んだことを説明する良い機会になる。毎単元、毎時、まとめて重要な算数用語を示している。	単元ごとに学習者に話し合いや説明を促す発問が設けられている。単元末に数学的な見方・考え方(思考力・判断力・表現力)を深める問題が準備されており、その単元で学んだことを説明する機会になる。	「算数パトロール隊」では用語について説明されており、学習の理解を促している。単元末の「考え方モンスターでふりかえろう」では、モンスターを手がかりに自分の言葉で学んだことを説明し振り返ることができるようにしている。
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	ほぼ全てのページにQRコードがあり、各内容を解説する簡単な解説動画や習熟を図るための練習問題、展開図など図形領域におけるシミュレーション動画など充実しており、学習者が答え合わせをする時にも使用できる。筆算の確認動画や繰り返し練習問題などのQRコードが多く設定されている。プログラミングを体験できる頁が設けられている。	教師や保護者が使用できる説明動画などのQRコンテンツが多くページに設定されている。文章による説明では理解しにくいところに、Webコンテンツの動画が準備されており、視覚的に捉えやすい。算数と関連させながらプログラミングの基礎を学ぶことができる。(1年②P132)練習問題コンテンツ、アニメーションコンテンツを含む、QRコードが多く設定されている。	これまでの学びを振り返りながら学ぶことができるよう、QRコンテンツが設けられている。プログラミングを体験できるような頁が設けられている。(例:どうしたら重さの違うものを探ることができるかな4年下P154)QRコードが、半分以上の頁に示されており、操作・説明・資料・復習にQRコンテンツが大まかに分類されている。
②主体的・対話的で深い学びについての工夫 ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫	単元末に設定されている「学習のしあげ」ページでは、既習の学習のまとめが分かりやすく記されており、振り返りやすい。巻頭の「学びのとびら」で、数学的な考え方(思考力・判断力・表現力)を高めるための学習のポイントが提示されている。単元内に登場人物のコメントがあり、学びを進めるヒントとして活用できる。また、ノートづくりの工夫が示されている。「今日のふかい学び」では、ノート活用の仕方が示されている。	巻頭に「算数の学び方」が提示されており、学びの流れが分かりやすくなっている。単元内と単元末において、単元における数学的な見方・考え方を気づかせ、さらに深めるといった、繋がりの設定がされている。また、実生活ではどのような場面で活用できるのかもわかりやすい。	導入場面は会話文で始められており、単元で学ぶことと既習内容が繋がるようにしている。各単元に「考え方モンスターでふりかえろう」が設けられており、計算などの復習ではなく考え方の振り返りができるようにしている。単元初めの「？を発見」では、身のまわりの生活の中から問題を発見できるよう工夫されている。(6年P106など)
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	複数の登場人物が考え方を示しており、多様な考え方に気づいたり、自分の考えを深めたりできるよう工夫されている。巻末に学習者が作業できるキットが付いている。また、単元の導入で、学習者が体験することで学習への興味関心を高める頁が設定されている。	「算数の学び方」では、自分の考えを順序よく説明したり、他者の考えを読み取って代わりに説明したり、考えを比べて話し合ったりするモデルが示されている。巻末に学習者が作業できるキットが付いている。また、単元の導入で実際に体験を促す設問が用意されている。(4年)	身のまわりに目が向けられるような問題が設定されており、体験的な活動を取り入れやすい。(例:4年上P58など)「プログラミングのプ」(例:6年P226など)や「ふかめよう」では、体験的に活動できるようカード類が付属している。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	学習の仕上げで日常と学習内容をつなぐ活動が複数設定されている。「同じように考えると」「それなら」「それなら次は？」の吹き出しを設定することで、既習事項を活かして考える態度や自立的に学ぼうとする態度を育てるようにしている。	SDGsと繋げて大きな数について考える頁が設けられている。(3年P149)「算数たまたまばこ」(1年②P65)「学んだことを生かそう」等、習得した知識を活用して考えを深めたり、今後どのような問題を解決できるのかを考えさせたりしている。	「考え方モンスター」を用いて、既習の見方・考え方で問題を解決し、個人の能力を伸ばしたり、創造性を培ったりできるよう、ポイントを示している。「つなげたいな」では、学習内容を次の単元や次学年へ繋げられるようにしている。(例:4年上P24など)「学びを活かそう」の頁では、生活に即した課題設定により日常に目が向くように工夫されている。(2年など)
③他教科との連携の工夫	「私と算数」のコラムで仕事とのつながりを意識した話題や体力テストのデータ、社会科の防災学習と関連した内容(例:4年下P116)など、学習者にとって身近な題材や教科横断的な話題をテーマにしている。	「リンク＋教科名」(4年P18)が明記されていて、他教科にも活用できる指針を掲載している。キャラクターやイラストに外国の子供や盲導犬などを取り入れ(例:2年P90、P94など)、異文化や障害者に対する理解が促されている。掃除(1年①P8)や音楽(1年①P21)に繋がる絵をもとにした出題になっており、想像しやすくなっている。	「節水について」の小単元では、生活科に繋がる題材が扱われている。(2年下P58)数の学習の発展として、理科や社会と繋げることで考えが深まるよう工夫されている。(例:4年上P110)
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	カラーユニバーサルデザインを採用している。頁表示が上部にあり、見やすくなっている。導入や問題など多くの場所に写真が使用されている。	カラーユニバーサルデザインを採用している。淡くて見やすい色使いである。問題解決の段階を示すタグが付けられている。	カラーユニバーサルデザインを採用している。問題にはイラストが添えてあり、必要に応じて写真が使用されている。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	自社開発のUD教科書体を採用し、視認性を向上させている。算数用語は太字で強調されている。問題文が大きく、問いを捉えやすい。	UDフォントを採用し、読みやすい位置での改行がされている。学習の繋がりが捉えやすいよう、領域別単元カラーが用いられている。漢字やカタカナにルビ打ちしている。(1年)1年生以外は上下巻等ではなく、1冊で構成されている。	UDフォントを採用している。文字数が少なく、読みやすい。文字が少し大きめで、算数用語はさらに大きく太文字で強調されている。問題文の文字が大きく、問いを捉えやすい。情報量を厳選しており、混乱しにくい。漢字やカタカナには、ルビ打ちしている。(1年)
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	スパイラルに学習することを重視し、加減計算など確実な習熟、定着が求められる内容の指導の学期を分ける、測定領域など同一領域の内容は適切に単元を分けて共通する原理に繰り返し触れることができるようにするなど、単元構成、配列を工夫している。練習問題は、本時の学習内容を適用して理解の確認や技能の確実な習熟・定着がはかれるよう、内容と時間を考慮して適切な分量を扱うようにしている。	学習内容の系統性、領域のバランス、他教科との連携を総合的に考慮し、適切な単元配列を組んでいる。単元の学習は必要かつ十分なものを取り上げ、年間の授業時数も十分に確保している。単元内の問題は、授業時間を考慮しながら、知識・技能を定着させるために豊富に用意されている。	連続して扱うことで身につく学習内容と、スパイラルを意識することで身につく学習内容を選別し、より児童が学びやすいよう単元が配列されている。本文と練習問題の分量のバランスや、無理のない時数配分に配慮し、児童が学習内容を確実に身につけることができるようにするとともに、つまづきやすい内容にも十分に配慮した配列になっている。
⑦判・ページ数	1年①A4判 1年①以外B5判 1年①42、1年②132、2年上134、2年下118 3年上152、3年下128、4年上156、4年下152 5年上150、5年下146、6年270	1年①A4判 1年①以外B5判 1年①41、1年②141、2年251、3年271 4年295、5年293、6年273	AB判 1年上104、1年下110、2年上170、2年下146、3年上154 3年下176、4年上164、4年下186、5年上180、5年下184 6年264、6年中学校へのかけ橋52

5 算数	発行者・教科書名	17 教 出	61 啓林館	116 日 文
		小学算数	わくわく算数	小学算数
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	問題発見力(問題への気づき重視)・問題解決力(問いの深まりと振り返りを重視)・問題追求力(発展的な問いを重視)という3つの力に焦点をあてたモデル単元がそれぞれ設定されており、「?」→「!」→「! ?」のマークを手がかりにしてスパイラル的に学習を進められるようにしている。単元末に獲得した知識や技能を他に活かすことができるよう、学んだことを使う頁があり、習得した資質・能力を実感できるようになっている。	各単元の流れが「知識の習得」→「その知識を用いて思考」「技能の鍛錬」→「新たな知識の習得」→「学んだことを使って、さらに思考」となっており、学びの繋がりを重視している。どのような考え方をを用いて課題を克服するかが明確であり、学びに向かいやすい。	「次の学習のために」では、既習の「数学的な見方・考え方」を振り返るとともに、新しい単元と繋がりがやすくなるようにしている。「思考力・判断力・表現力等」に多くの頁を費やしており、考え方に触れる手がかりや活動がたくさん設定されている。	
ア. 言語活動を充実するための工夫	単元末の「学んだことを使おう」には、学んだことを基にした応用問題があり、その解を導いた過程について説明する活動が多く設定されている。重要な算数用語はオレンジで示している。「?」を自分の考える機会として多く設定している。	SDGs単元(4年下P106)が設けられており、まとめは学習者の言葉に委ねられ、考えを表現することが求められている。巻末にある「考えの進め方」では、既習事項を分類して載せており、振り返ることができる。重要な算数用語は、黒太字で記載されている。	「自分でみんなで」(例:4年上P27など)では、答えを出すだけでなく、答えの導き方を考えたり、示された考え方について説明したりする活動が設けられている。板書の例を用いて、どのような言語を用いれば分かりやすいのかが掲載されており、実際の授業の参考となる。重要な算数用語を黒字で太く記載している。	
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	QRコンテンツとして、解説動画が豊富に用意されている。毎時の知識・技能をまとめたアニメーションや作図、測定の動画・シミュレーションのリンクとして、QRコードが多くの頁に示されている。プログラミングを体験できる頁が設定されている。	文章による説明だけでは理解しにくいところには、視覚的に捉えられるように、動画がQRコンテンツとして設けられている。QRコンテンツには、具体物の操作で複雑なものや時間がかかるもの、「よくある間違い」も動画化されている。頁下部ではなく、内容との繋がりが分かるよう横にQRコードが示されている。プログラミングを体験できる頁が設定されている。	教師や保護者向けのQRコンテンツが設けられている。自分に適した学習を進められるように、単元前の復習問題を中心にして、ヒントとなるQRコンテンツが設けられている。「レッツ プログラミング」(4年下P134)では、フローチャートやアルゴリズム、プログラミングについて学ぶことができる。	
② 主体的・対話的で深い学びについての工夫	単元末の振り返りの頁では、自分の課題を観点別に把握できるよう、知識・技能と思考に分けて振り返ることができるようになっている。単元末には、イラストの4コマ漫画が設けられ、学んだことの良さや見方・考え方を楽しみながら振り返ることができるようにしている。巻末の「学びマップ」(例:2年上P148、下P120など)では、学年を超えて既習事項を振り返ることができるようにしている。	巻頭の「算数のとびら」には、学習の進め方に関する解説動画のQRコンテンツが設定されている。学習者の発達段階に合わせたノートづくりや思考ツールが紹介されている。	巻末の「学び方ガイド」をもとに教科書での学習を進めていくことができるようになっている。単元末の「たしかめよう」の頁では、つまづいている部分に気付くことができるよう間違いやすい問題が紹介されている。「学びの4ステップ」「見方・考え方」の下敷きシートが付属されている。	
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	巻頭の「みんなで算数をはじめよう」では、友達の考えと似ている点や異なる点に着眼できるよう話し合い方のポイントが示されている。単元の導入では、実際に体験を促す設問が用意されている。(例:4年上P11など)	「やってみよう エネルギーを使いすぎているかな」(5年P244、245)では、算数的な視点で生活問題を考える課題が設定されている。「おうぎを開いてみよう」(4年上P49)や「算数の自由研究」(4年上P98)では、実際に制作したり測定したりする活動が設定されている。複数で楽しみながら数に親しめるよう、巻末にすぐろくが付属している。(1年)	巻末の「学び方ガイド」には、学習過程における学び合いの学習活動が取り上げられており、詳しい活動方法が掲載されている。「算数ジャンプ」や「なるほど算数」、単元末「つかってみよう」には(例:5年P146など)、既習内容を活用したり、生活場面に活かしたりできるような課題が設けられている。	
⑥ 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	複数の単元末の「学んだことをつかおう」や「算数ワールド」(例:2年上P104など)では、生活から算数を見つけたり、算数を使って日常の問題を解決したりする活動が取り上げられている。(例:2年上P29など)	「学びをいかそう」の頁では、学んだことを実際にどう使えばよいか考えられるよう、生活に即した問題や学びを組み合わせる問題が設けられている。	単元冒頭に「次の学習のために」(例:4年P11など)というコーナーを設け、これからの学ぶ単元と既習内容との繋がりが分かるようにしている。巻末「算数マイトライ」にある「しっかりチェック」、「ぐっとチャレンジ」、「もっとジャンプ」では、自分に合った問題を選択し挑戦できるようになっている。	
③他教科との連携の工夫	巻末にある「算数を使って考えよう」のコーナーでは、社会科のごみの学習と関連した内容が記載されている。(4年下P132)夏休みの生活時間を考える活動が設定されている。(2年上P102)	問題文に地図や人口、SDGsなど、社会との繋がる資料が挙げられている。金魚すくいやどんぐり拾いでの場面など、季節に関わる文章問題が出題され、四季を味わう生活科と関連付けられている。(1年)	体育の学習でチーム分けする場面を用いた課題や人口密度・収穫量等の社会科の題材、ゴミに関わる社会問題、和算を通じた伝統文化の紹介、仕事に繋がる題材など様々な他教科と連携した課題や題材が設定されている。(例:5年P254、P255など)「20より大きい数」では、実生活の写真を用いられ、身の回りの物と関連付けて考えられるように工夫されている。(1年②P111)	
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	カラーユニバーサルデザインを採用している。どの単元においても、イラストや写真、図が大きく示されている。	カラーユニバーサルデザインを採用している。シンプルな色使いで、項目ごとに色が統一されている。	カラーユニバーサルデザインを採用している。目に優しい色合いが使われている。計算の手順などの説明を色分けしている。	
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	UDフォントを採用している。問題文と児童の思考や表現を表す文において、文字のフォントを変えて、違いを分かりやすくしている。	UDフォントが採用され、問題文は極力シンプルに短く表現されている。	UDフォントを採用している。キーワードや大事な言葉はカラーだけでなく太字にして分かりやすくしている。	
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	系統性や習熟期間などを考慮し、最適な学習効果が得られるよう単元が配列されている。基礎・基本の内容と、選択的な内容を分け、標準時数内で無理なく習得できるようにするとともに、単元の学習や家庭学習において、定着を図るための十分な分量の問題が用意されている。	学びの繋がりを重視しスパイラル化した構成で学びやすくしている。年間配当時数が標準時数よりも少ない時間数となるように工夫されており、時間数に余裕を持たせた構成となっている。各時間の学習のねらいとなる「めあて・まとめ」を例示したり、価値づけたい「数学的な見方・考え方」にマーカーを入れ強調したりした工夫がみられる。	1年①は巻頭を絵本仕立てにすることで、就学前の経験から無理なく自然に算数の世界へと導き、小学校への円滑な接続に努めている。巻末「算数マイトライ」の「しっかりチェック」では、理解の段階に応じて問題が選択できるよう、難易度別に配列している。(5年生上P140～147、下P122～129など)子供たちが主体的に学べるように問題解決型の学習過程を明確にし、大切なことは繰り返して取り上げ、学習の定着を図っている。	
⑦判・ページ数	B5判 1年190、2年上156、2年下130 3年上162、3年下148、4年上180、4年下178 5年314、6年292	B5判、1年すたあとぶつのみA4判 1年すたあとぶつ50、1年146、2年上138、2年下138 3年上150、3年下132、4年上164、4年下134 5年284、6年274	B5判 1年①48、1年②150、2年上166、2年下142 3年上174、3年下150、4年上172、4年下174 5年330、6年300	

6 理科	2 東 書	4 大日本	11 学 校
発行者・教科書名 観点	新編 新しい理科	新版 たのしい理科	みんなと学ぶ 小学校 理科
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	理科の問題解決の流れが巻頭「理科の学び方」で示され、本文でもその流れに基づいて書かれている。単元ごとに「学ぶ前に」「学んだあとに」が設定されており、自身の学びの変容を振り返ることができる。単元末の「ふりかえろう」で単元で学んだことが整理され、「確かめよう」では、知識の定着や思考力の向上につながるよう配慮されている。巻頭の見開きでは、学年における理科の見方・考え方を、大きく分かりやすい写真で示し、年間を通して意識しやすい導入の工夫がされている。また、巻頭にSDGsについての説明が数ページにわたってなされ、学習内容が具体的にどのようによりよい未来のために生かされていくのかを学年当初に意識できる工夫がされている。	高学年では、理科の問題解決の流れが巻頭「理科の学び方」で示され、その流れに基づいて書かれている。さらに冒頭では、該当学年の重点が示されている。単元末の「確かめよう」「学んだことを生かそう」では、知識の定着や思考力の向上につながるよう配慮されている。中学年では、問題解決の流れが分かりやすく配列されており、「わかったこと」で知識を確かめるだけでなく、「深めよう」「作ってみよう」につなげることで、思考力や表現力へのつながりも意識されている。また、単元末の「ふり返ろう」では、何ができるようになったか、生活に生かしたいことは何かについて問いかけられていて、学びに向かう力の涵養にもつなげられる。巻頭の見開きでは、学年における理科の見方・考え方を、大きく分かりやすい写真で示し、年間を通して意識しやすい導入の工夫がされている。	理科の問題解決の流れが巻頭「科学の芽を育てよう」で示され、本文でもその流れに基づいて書かれている。さらに、冒頭で紹介されているキャラクター（理科モンスター）により学習に親しみをもたせるとともに、本文中に登場させ、問題解決のポイントを紹介している。単元冒頭の「できるようになりたい」では、付けたい力を示し、単元末の「ふりかえろう」では、知識の定着と思考力の向上につながるよう配慮されており、見直しをもちながら学習を進めることができる。実験等のページには写真が多く掲載されており、引きや寄りの写真を使い分けながら、注目すべき点や注意点が分かりやすくなるよう工夫されている。
ア. 言語活動を充実するための工夫	単元導入では、対話的な学びを促す問いかけが多い。巻末資料だけでなく、QRコンテンツによっても、話し合いの方法やノートへのまとめ方を学ぶことができる。キャラクターのセリフが多く、言語活動への入りやすさが重視されている。	単元導入の問題を見つける段階、結果から考察を考える場面など、問題解決の過程の中で話し合いが設定されていることが多い。(例:3年P68) 単元末のまとめ問題は「説明しましょう」という記述問題が多く、考えて書かせることが重視されている。	巻末の「伝える・聞く」では、説明するときの表現の文型、記録の仕方が掲載されている。各問題解決の場面では、文章として言語活動を促す記述があり、具体的な指示のもとで話し合いが設定されている。単元末の「ふりかえろう」や「作ってみよう」では、説明活動を通して深い理解ができるよう、活用問題が設定されている。
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	QRコンテンツとして、ワークシートや既習事項をふり返る動画、自分の考えをまとめるコンテンツ、デジタルワークシート、実験の手順、器具の使い方を確認できるコンテンツ、デジタル問題などが取められている。関連する写真やイラスト、項目タイトルの近くにQRコードが設定されており、場面に応じたICTの活用がしやすくなっている。	単元末の問題演習の答えはQRコードで読み取るようになっており、安易に答えが分からないように設定されている。QRコードはページ下部にまとめられて、実験の準備物や操作の仕方といった読み取れる項目も書いてあるため、児童の集中を妨げず、指導しやすい工夫がされている。	単元冒頭のQRコードを読みとることで既習事項をふり返ることができる。単元末のふり返りは、読みとることで問題を解きながら1問ずつ答え合わせができる。(5年P78) ICT機器を用いた学習が効果的な箇所に「ICTマーク」が設定されており、場面に応じたICTの活用がしやすくなっている。関連する写真やイラスト、項目タイトルの近くにQRコードが設定されている。巻末資料「調べる」ではタブレットを用いた調べ活動の具体例に紙面が割かれている。スクラッチに合わせたブロックで気軽にプログラミング体験をすることができる。(6年電気と私たちの生活P199)
② 主体的・対話的で深い学びについての工夫 ウ. 学習を見通し振り返りするための工夫	各教材を「問題」→「予想」→「計画」→「観察・実験」→「考察(考えよう)」→「まとめ」→「広げよう・次の問題を見つけよう」という学習の流れで構成している単元が多い。単元冒頭と単元末に同じ問いが投げかけられており、学習してきたことがふり返られるようになっている。(5年P94、P112) 単元の初めには「思い出そう」のコーナーがあり、系統性を意識して学習に取り組むことができる。「問題をつかもう」の設定によって、見直しをもって単元に入ることができる。	各教材を「問題を見つける」→「問題」→「予想」→「計画」→「観察・実験・調べる」→「結果」→「考察(かんがえよう)」→「結論(わかったこと)」という学習の流れで構成している。単元末のふり返りでは、どの単元でも学習して分かったこと、できるようになったことを問うだけでなく、「学んだことで生活に生かせそうなことはあるか」という、共通の問いが提示されている。(例:5年P19)	各教材を「問題を見つけよう」→「問題」→「予想」→「計画」→「実験・観察」→「結果」→「考察」→「わかったこと」という学習の流れで構成しているが、単元によっては「予想」と「計画」が入れ替わっている。該当学年で育成すべき資質・能力や見方・考え方を「理科モンスター」として表現して、単元末にふり返ることができるようになっている。巻末では、単元一覧で上記の理科モンスターを登場させ、どのような力が付けられたかを振り返る紙面が用意されている。単元初めと単元末で「できるようになりたい」「できるようになった」が毎回設定されており資質能力に関する見直しをもちやすく、ふり返りがしやすい構成となっている。
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	「観察・実験」の他、単元導入の「レットライ！」などで、身近な自然の中で生き物を観察したり、植物や昆虫を栽培、飼育したりする場面が設けられている。それらの活動によって知的好奇心や探究心を高め、その性質や規則性について実感できるよう構成されている。(例:6年P60・P61)	自然の事物・現象に対し、児童が五感で感じられるよう全身を使った体験活動を取り上げている。主たる活動である観察・実験などだけでなく、「深めよう」や「作ってみよう」、資料などで自然体験や科学体験を行う機会が数多く設定されている。	巻末の「考えよう調べよう」では、協働的な学びに生かせる活動の例などを紹介し、「みんな」というマークで示されている。(例:4年P195) 自然に親しみ、自然の事物・現象に直接触れる場や機会を積極的に設定し、五感に基づく活動が取り上げられている。それらの活動によって知的好奇心や探究心を高め、その性質や規則性について実感できるよう構成されている。(例:5年P103)
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	単元導入のページでは、自然現象や身近な生活場面の写真を基に課題発見的に学習できる構成となっている。問題解決の過程が1本の線で結ばれ、学びの流れが可視化できる。問題解決に向けステップが設けられ、区切りを分かりやすくしている。	単元導入のページでは、自然現象や身近な生活場面の写真を基に課題発見的に学習できる構成となっている。問題解決の過程を1本のラインでつなぎ、学びの流れを色分けして分かりやすく示している。考察場面のイラストの吹き出しでは、意図的に会話の途中で終わらせ、自身の気付きを促す工夫がされている。	単元導入のページでは、自然現象や身近な生活場面の写真を基に課題発見的に学習できる構成となっている。課題発見のヒントとなるよう、ページ右側にキャラクターのセリフを設け、児童の思考を整理することができる内容となっている。問題と分かったこと(まとめ)が明確に対応していて、論理的な思考力を身に付けることができる。
③他教科との連携の工夫	これまでの履修内容や、他教科での既習内容を想起させる「思い出そう」が配置されている。(例:4年P16) 巻末に「算数科で学んだことを活用しよう」があり、算数科と関連づけることができる。「こんなところにも！理科の世界探検部」では、関連するSDGsが示されている。(例:4年P49)。「思い出そう」のコーナーでは生活科での学びの振り返りが促されている。(例:3年P42)	巻末に「算数科とつなげよう」「ほかの教科とつなげよう」を設け、関連する教科の内容をまとめている。各単元の中に、他教科との関連内容がある時は、「〇〇とのつながり」マークで図示されている。「サイエンスワールド」SDGsが示されている。(例:5年P101・P137)	グラフの描き方や方位の説明など、当該学年において他教科での履修時期のずれが予想される内容に関して、未習であっても分かるよう丁寧な説明を行い、積極的に理科で扱うことができるようになっている。(例:3年P31)「もっと知りたい」では、関連するSDGsや仕事という言葉が明記されている。(例:5年P52、6年P74) SDGsについては、全学年にわたり裏表紙に説明が書かれている。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	カラーユニバーサルデザインを基に、見やすさに配慮した配色やレイアウトがなされている。色の違いで判断する場面は、色の名前を併記している。一部の単元導入では、漫画による状況説明がなされている。写真が多く、実際の自然現象を大切に構成となっている。まとめやノート例、話し合い場面など、取り組み方について、イラストを多用して分かりやすくしている。	カラーユニバーサルデザインを基に、見やすさに配慮した配色やレイアウトがなされている。色の違いで結果を見る場面では、色の名前を併記している。写真そのものに注目できるよう背景の映り込みやコントラストに注意して撮影されており、分かりやすい。	カラーユニバーサルデザインを基に、見やすさに配慮した配色やレイアウトがなされている。色の違いで結果を見る場面では、色の名前を併記している。自然現象について、視覚的に分かりやすい写真が用いられている。児童が実験する場面や話し合う場面の写真もあり、実際の活動がイメージしやすくなっている。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	UDフォントを使用している。また、単語のまとまりを崩さないよう改行されている。問題解決場面の区切りとなる箇所では、大きな字でインパクトのある構成となっている。文字の大きさにメリハリがあり、注目しやすい工夫がされている。	UDフォントを使用している。また、単語のまとまりを崩さないよう改行されている。問題解決の流れごとに決まった配色で構成されている。	UDフォントを使用している。また、単語のまとまりを意識して改行されている。重要な語句は太字で強調している。実験器具の準備物やつけたい力、問題解決の流れを示す項目名(問題、結果など)を視覚化できるよう「理科モンスター」やチェックマークが設けられており、児童が問題を解決する流れを自身で確認できる紙面の構成となっている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	単元配列は、基礎となる単元を先行させるとともに、季節的に適当な時期に扱うことができるように配慮されている。年間で予備時数を確保できるよう、単元配列や観察・実験の方法などを工夫されている。巻末の「1年間をふりかえろう」では、領域ごとに学習内容をまとめており、中学校の学習内容を記載することで、その後の見直しをもちながら、系統立てて理解することができるように工夫されている。	生物分野は、生物を飼育・栽培、観察するのに適した学習時期を考慮している。その他の領域は、系統性や他教科との関連、学年ごとの理科室の使用時期などを総合的に考慮し、バランスよく配列されている。各単元の学習は、必要かつ十分なものをとり上げられており、年間の予備時数も確保できるように配慮されている。	単元配列は、基礎となる内容から順に学習できるようにしており、効果的かつ柔軟に扱うことができるよう季節や気温なども配慮した構成となっている。巻頭「理科の世界をぼうけんしよう」「科学の芽を育てよう」で年間の見直しをもち、巻末「理科の世界をふりかえろう」では、どのような力を身に付けたか自身で確かめることができるようになっている。
⑦判・ページ数	A4版 3年178、4年202、5年170、6年202	A4版 3年205、4年229、5年197、6年233	A4版 3年188、4年208、5年196、6年236

6 理科		17 教出	61 啓林館
発行者・教科書名		未来をひらく 小学理科	わくわく理科
観点			
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	理科の問題解決の流れが、巻頭「学習の進め方」で示され、その流れに基づいて書かれている。さらに、該当学年で身に付けたい問題解決の力を各単元の該当する問題解決場面で細かく示されている。単元末の「ふり返ろう」では単元で学んだことが整理され、「学んだことを生かそう」「チャレンジ問題」では、知識の定着や思考力の向上につながるよう配慮されている。実験器具の使い方を巻末に掲載することで、どの単元からでもふり返りに取り組みやすくなっている。各単元で学習前と後の姿を具体的に例示することで、学びに向かう力の高め方が理解できる構成となっている。	理科の問題解決の流れが巻頭「学びのサイクル&ライン」で示され、本文でもその流れに基づいて書かれている。さらに冒頭では、該当学年での重点が示されている。単元末の「まとめノート」では単元で学んだことが整理されている。「活用しよう」や「これまでの学習をつなげよう」といった項目が準備され、知識の定着や思考力の向上につながるよう配慮されている。高学年では「はじめに考えよう」「もう一度考えよう」を利用し、単元を通した自己調整や学びの変容を見取る工夫がされている。	
ア. 言語活動を充実するための工夫	巻頭に話し合いで使う言葉やノートの書き方がまとめられている。単元導入の問題を見つける段階で話し合いが設定されている。(例:6年P25、P51)キャラクターのコメントにより、言語活動の例示がされており、当該学年で付けたい力に関わる言葉は色付きで強調され、資質能力につながる言語活動となるよう工夫されている。	予想場面や、結果から考える場面で、「話し合おう」という活動が設定がされている。(例:4年P174)巻末には、記録カードの書き方やノートのまとめ方、話し合い、発表方法などが記載されている。また、ICTを用いた話し合いの仕方なども多く紹介されている。	
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	月の観察など実際に実験することが難しい単元においては、QRコンテンツが実験動画が設定されており、学校で実験することが想定されている単元には、単元前の学習のつながりや資料のページにQRコンテンツが用意されている。(例:6年P147)関連する写真やイラスト、項目タイトルの近くにQRコードが設定されており、場面に応じたICTの活用がしやすくなっている。	裏表紙には、「WaCBT ワクビット」についての紙面が掲載されており、状況を読みといて設問に答えるCBT教材に取り組むことができる。巻頭近くに見開きで「学びの中でICTを活用してみよう」というページを設けている。ICT機器の活用が効果的な場面では、「ICT」マークをつけて、具体的な目的や活用方法を示している。(例:5年P71)さらに、QRコードを読み取ると問題がフラッシュカードのように出てくる。器具の扱い方にもQRコンテンツがあり、動画でも扱い方が確認できる。	
②主体的・対話的で深い学びについての工夫 ウ. 学習を見通し振り返りするための工夫	各教材を「見つけよう」→「問題」→「予想」→「計画」→「観察・実験・資料調べ」→「考察」→「結論」→「学びを広げよう」という流れで構成している単元が多い。単元末のふり返りでは、どの単元でも学習前と学習後で自分の考えの変化をふり返るように設定している。(例:5年P46)単元のはじめに「学習のつながり」として、本年度と次年度の学習事項の系統性を示し、今から行う学習がどこに位置づけられるのか、見通しやふり返りがしやすいく工夫されている。	各教材を「問題をつかもう」→「問題」→「予想」→「計画」→「観察・実験・資料調べ」→「結果」→「考察」→「まとめ」という流れで構成している。高学年では単元冒頭と単元末に同じ問いが投げかけられており、学習してきたことがふり返られるようになっている。(例:5年P33、P49)単元導入部で「思い出そう」が設定されており、QRコードでの確認ができる。単元末では、ページ下部にある「新しく学習した言葉」でキーワードをふり返ることができる。単元導入で「はじめに考えよう」、単元末で「もう一度考えよう」と同じ問いを再考することでメタ認知を促している。	
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	児童が主体的に関われるよう、直接体験を重視し、五感を働かせた観察や体感的な活動が積極的に取り入れられている。地域の自然について、児童が体験的に調査する学習活動が数多く取り入れられている。(例:4年P67)	児童が主体的に関われるよう、直接体験を重視し、五感を働かせた観察や体感的な活動が積極的に取り入れられている。それらの活動によって知的好奇心や探究心を高め、その性質や規則性について実感できるよう構成されている。(例:6年P99)	
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	単元導入のページでは、自然事象や身近な生活場面の写真を基に課題発見的に学習できる構成となっている。また、写真から考えたことにくわえ、「さらに見つけよう」の体験的な活動を通して得られた気づきをもとに課題設定する単元もみられる。(例:4年P129)問題解決の過程を1本のラインでつなぎ学びの流れを分かりやすく示している。問題解決のステップごとに区切りがはっきりしている。	単元導入のページでは自然事象や身近な生活場面の写真から課題発見的な学習を促す構成となっている。単元途中の「まとめ」では「もっと知りたい」につなげて課題発見を促す単元もある。「まとめ」の後に「もっと知りたい」が設定されており、新たな問題発見への意欲を高められるようにしている。問題解決の過程を1本のラインでつなぎ学びの流れを分かりやすく示している。	
③他教科との連携の工夫	算数で学習する内容については、「算数とのつながり」と明示されており、教科間の関連をはかりやすいよう、グラフの書き方を理科の事象に合わせて紹介するなどして工夫されている。(例:4年P26)資料や「科学のまど」では、関連するSDGsが示されている。(例:4年P87、6年P198)	適所に「他教科」マークを表示し、他教科との関連を意識できるようにしている。巻末にある「理科につながる算数のまど」では、既習の算数の内容を理科の学習の具体例で取り上げ、理科での再確認ができるようにしている。(例:4年P22)「理科の広場」では関連する教科やSDGsが示されている。(例:5年P43)。「思い出そう」のコーナーではQRコードを用いて生活科での学びの振り返りが促されている。(例:3年P19)「くらしとリンク」というトピックで、STEAM教育や実生活とのつながりも示されている。(例:5年P121、6年P113)「ヒトの体のつくりと運動」では、導入部と「くらしとリンク」において、体育との連携が掲載されている。(例:4年P101)	
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	カラーユニバーサルデザインを基に、見やすさに配慮した配色やレイアウトがなされている。色の違いで結果を見る場面では、色の名前を併記している。理科の見方・考え方に関する情報には、赤色のマーカーとカギマークにより要点を説明している。自然事象の流れが分かりやすいよう、工夫して撮影されている。挿絵などもシンプルなものが多く、複雑な実験も分かりやすくまとめられている。	カラーユニバーサルデザインを基に、見やすさに配慮した配色やレイアウトがなされている。色の違いで結果を見る場面では、色の名前を併記している。MUD協会の承認を申請している。理科の見方・考え方に関する情報について、緑色のマーカーにより要点を説明している。児童のノートやワークシート風のイラストが多い。児童にとって興味関心をもちやすい身近なものが写真に選ばれている。	
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさなど)	UDフォントを使用している。また、単語のまとまりを崩さないよう改行されている。問題解決の流れに沿って、場面ごとの項目が線でつながれており、思考の流れを意識できるレイアウトとなっている。	UDフォントを使用している。また、単語のまとまりを崩さないよう改行されている。重要な語句を太字で強調している。フォントや文字サイズを変えることで重要な言葉に意識が向くようにしている。	
⑥単元(教材の配列)の適切さ (関連付け、時期など)	児童や教師にがゆとりをもって問題解決学習を進めることができるよう適切な時数が配分されている。1学期末の単元には「私の研究」が設けられ、夏季休業に向けて自由研究に生かすことができる内容を記載している。	児童が十分な問題解決学習が行えるよう、標準時数に対し各学年において予備時数を設けている。系統性及び順序性を基に野外観察や飼育・栽培に適した時期に単元が配置されている。	
⑦判・ページ数	A4変型 3年193、4年233、5年209、6年225	AB版 3年190、4年202、5年194、6年218	

7 生活	2 東 書	4 大日本	11 学 園
発行者・教科書名 観点	新編 新しい 生活	新版 たのしいせいかつ	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	小單元ごとに、主に育成を目指す資質・能力を、本文とマーク(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)で明示し、指導と評価の一体化を目指すように配慮してある。具体的な活動のイメージがもてるように多様な表現の例が示されている。学習内容や発達の段階に合わせた方法や内容が例示され、徐々に活動の質が高まるように配慮されている。(上巻P21・P49)	上下巻とも、巻頭に「やってみようせいかつか」の項目が載せてあり、その中に生活科の学びのプロセスを分かりやすく表現している。見開きごとに活動内容が整理され、そのページで何をすればよいかを端的に分かりやすい言葉で示されている。児童・教師は目的意識をもって活動に取り組むことができる。	単元導入において、児童が自ら主体的に学習に入れるように、自分の思いや願いを大切に、自己決定ができるような場面を教科書で設定している。(上巻P26・P27) 全単元を通して、身近な人々・社会・自然と直接かかわる活動や体験を多く取り入れている。「まちたんけん」では、身近なまちのよさに気づかせ、「あの人に会いたいな」では出会った人々へと視点を広げることで学びが深まるように構成されている。(下巻P4・P22)
ア. 言語活動を充実するための工夫	上巻P34・35では、観察カードの書き方を分かりやすく示している。児童の気づきを引き出し、言葉で表現させる工夫がされている。活動を振り返ったり気づいたことを交流したりする言語活動が充実している。「学びをふかめる(下巻P50・P51)」など、言語活動を通して気づきを関連付けたり、視点を変えて捉え直したりしながら気づきの質が高まる姿を具体的に示している。	下巻P2・P3の「やってみよう生活科」では、知りたいことを見つれるときや、やってみる・ためすなど、活動の中で大切になるキーワードを最初に示していることで、気づきを表出させたり、質を高めたりさせようとしている。「せいかつことば」で生活で使うことばや、「きらきらことば」で児童同士の交流を支えることばを紹介し、児童の語彙力を向上させている。	下巻P44・P45では、「ものしりノート」で、観察カードの書き方を示す。気づきが引き出されるように説明を示している。対話したり記録したりすることを重視している。巻末資料では、「話す」「聞く」「書く」などの学ぶ力をつける技を示している。また「書く」については多様な活動例を示している。
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	上下合わせて691点の豊富なQRコンテンツがあり、デジタルいきものずかんや、生活科に関わる道具の使い方のやくそくなど、ICTを積極的に活用のできる工夫がされている。ICT機器が適切に活用できるよう、正しい使い方をまとめた「コンピューターを使おう」(上巻P119)や、ICTを活用して表現する方法も掲載した「まとめようつたえよう」(下巻P120)が設定されている。	生物単元で、観察対象をアップで見ると、デジタル機器の特性を生かす方法が提示されている。2年の「楽しさひろがれわたしのおもちゃ」では、おもちゃの作り方一覧(下巻P91)に、QRコードが表示されており、作り方動画を見ることができる。個々にあった丁寧な進め方が可能になっている。写真だけでなく、動画も豊富で、困った時の助けになるものも多い。「Webがくしゅうどうぐばこ」と位置付けられたQRコードから、児童が調べることができるようになっている。	上巻と下巻で、児童の発達段階に合わせたICT機器の活用方法が提示されている。また、情報モラルの意識づけがはかられた内容も掲載されている。(下巻P125)「ものしり図かん」の中にQRコードがあり、さらに詳しい情報や教科書の内容の補足等の情報が多数載っている。
ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫	上巻P48・P49では、単元の終わりに「夏のおすすめはなにかな」と問いかけ、活動を振り返る場を設定することで、何を目標に活動をするのか分かりやすく示している。気づきを確かなものとしたり、表現したりするために、学習をまとめてふりかえったり、発表して交流する活動が随所に掲載されている。また、気づいたことを整理し、表現する方法を例示した「まとめようつたえよう」(下巻P118・P119)が設けられている。下巻では、3単元において「単元扉」「導入」「学びのプロセス」「深い学び」「振り返り・表現」という流れで学習が進められている。	下巻P20・P21の育てたい野菜を選ぶ活動において、野菜が料理された写真を掲載することで、育てた後の見通しをもちやすくしている。めあてや振り返りを書き込む欄を設け、自分の成長を記入することができる。入学直後の児童でも「きもちマーク」で振り返ることができる。	「ものしりのうと」や「ものしりずかん」には、植物や生き物の名前とイラストが詳しく書かれているため、見つけてみたい、もっと知りたいという気持ちを持たせてくれる。単元ごとに主となるキャラクターを設定し、イラストや吹き出しで変容を追えるようになっている。単元の最後には「もっと○○したい」を設け、学習を生かしてさらなる活動や課題につながるようになっている。
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	様々な活動例が提示されており、試行錯誤がしやすくなっている。学習のまとめなどで協働的な学びの場づくりができるように構成されている。下巻において、活動の終末には、学んだことを伝える方法を新聞や、デジタル図鑑、まきものなど、様々な方法を紹介している。児童がやってみたくなる工夫がされている。	写真や挿絵に友達と協働しているものが多く、児童がイメージしやすい。地域の人と関わり、学んだことを自分のキャリア形成に役立てられる構成になっている。上巻P58・P59では、夏の遊びにおいて、友達と協力する遊び方を多く掲載している。友達とやってみたいという思いを引き出している。	単元ごとに、挿絵の登場人物のつぶやきを追うと、他者との関わりや自己の変容が見て取れるよう構成されている。上巻P58・P59では、「ものしりのうと」において、みんなで遊べる鬼ごっこなどを紹介して、児童たちが友達と関わりたくなる工夫をしている。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	各単元において、「まなびい」「ずかんちゃん」の吹き出しは問題解決に必要なヒントやアドバイス、考えを引き出す問いかけとなっており、児童が自ら問題解決するためのきっかけ作りができており、試行錯誤しながら思いや願いを実現する学習活動で構成されている。学習活動に即して活用する「ずかん」や、習慣や技能、学び方を身につけるための「かつどうべんりちよう」、原寸大の動物図鑑「ほんとうのおおきさ いきものずかん」などが豊富に掲載されているので、児童の知的好奇心を高め、学習を深めたり広げたりできるような資料が充実している。	下巻P2・P3「やってみよう生活科」では、やりたいことをみつける(自ら問題を発見・設定)→やってみる・ためす→もっと○○になるように考える(試行錯誤)→つたえ合う・生かす(課題解決)という学びのモデルが示されており、自分の生活をよりよくしていくとする学びのプロセスが自ずと成立するように構成されている。2年の「おいしくそだってね」(下巻P22)では、メインキャラクターに疑問や問題を提起させ、各キャラクターがそれに対応するヒントや解決の手がかりをふきだして話すなど、児童が解決へのきっかけを掴みやすい構成になっている。	上下巻末には学習ポイントが分かりやすく示された「学び方図かん」があり、学習活動がスムーズに進められるように工夫されている。2年の「野さいをそだてよう」(下巻P51)では、児童が出会う問題のヒントを、「学び方図かん」のP118や、「ものしりノート」のP52に載せており、児童が他のページを開いて調べることができるような構成になっている。児童に自ら気づかせる場面と、教師が教える場面とを分けるような工夫があり、「ものしりノート」や「ものしり図鑑」が児童の活動の補助となっている。
③他教科との連携の工夫	上巻P4～P9では、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と小学校生活のつながりを想起できるような写真を入れて、指導に生かせるようにしている。下巻P14・P15「野さいのようすをつたえ合おう」では、国語科で学んだスキルを活用する「話をつなごう」が記載されている。他教科で身につけた資質・能力を生活科の学習の中で生かす場面が例示されている。	上巻P6・P7「わくわくすることいっぱいだね」では、他教科との関連が分かるマークが入っており、生活科の活動や体験が、他教科の学習へ広がり発展するだけでなく、他教科の学習成果が生活科に生かされるよう相互の関連に配慮されている。	全ての単元で国語的要素「話す」「聞く」「書く」などの学ぶ力をつけるわざが示されている。上巻P58・P59「ものしりのうと」では体を使ってたくさん遊ぶ活動が設定されている。下巻P69では、生き物の様子を体を使って表現する様子が示されている。
④写真・挿絵・記号・図等の分かりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	小単元、本文、手洗いマーク、やくそくなどを全ての単元で同じ位置に配置するなど、全ての児童にとって分かりやすい教科書となっている。活動の要旨が分かる大きな写真が多い。写真の縁が白抜きであることが多く、見やすい。スタートカリキュラムのページが少し小さめに作られており、「ここから学習が始まる」ことがすぐに分かるようになっている。	見分けやすい配色や、コントラストへの配慮がある。色の名前を用いたコミュニケーションが想定される場合には、色の名前をはじめとした文字情報を記載しており、色の見分けにくさがあっても学習に必要な情報が保証されるような工夫がしてある。(上巻P87)また、あえてモノクロのページを挟むなど、興味を引く工夫がある。(上巻P82)	各単元にメインキャラクターを設定し、単元を通して成長する姿を明確にしている。キャラクターマップが設定しており、そのキャラクターに感情移入して読み進めることができるようにしてある。また、メインキャラクターのふきだしのみ、他のキャラクターとは明確に違いが分かるように統一しており、読みやすくなっている。「ものしりずかん」という資料ページでは、多様な生物、遊びが並列して掲載されており、比較しやすい。
⑤表記・表現の分かりやすさ(字体、文字の大きさなど)	ユニバーサルデザインフォントが使用されている。文節で改行されたり分かち書きがされたりするなど読みやすさに配慮されている。また、国語科の学習に合わせて上巻のはじめはひらがなのみ、夏休み以降からカタカナが使用されている。下巻では2学期までの配当漢字にふりがなが書かれており、全ての児童が学びやすいように工夫されている。	ユニバーサルデザインフォントが使用されている。文節で改行されたり分かち書きがされたりするなど読みやすさに配慮されている。また、国語科の学習に合わせて上巻のはじめはひらがなのみ、夏休み以降からカタカナが使用されている。下巻では配当漢字にふりがなが書かれており、全ての児童が学びやすいように工夫されている。	ユニバーサルデザインフォントが使用されている。文節で改行されたり分かち書きがされたりするなど読みやすさに配慮されている。また、国語科の学習に合わせて上巻のはじめはひらがなのみ、夏休み以降からカタカナが使用されている。下巻では配当漢字にふりがなが書かれており、全ての児童が学びやすいように工夫されている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	季節の流れに沿った単元構成となっており、生活と密着したスムーズな学習展開となっている。スタートカリキュラムでは「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が入学当初の学習で発揮されている主な例をイラストと保護者向けのメッセージで示されている。(上巻P4～P11) 中学年以降の理科や社会科、総合的な学習等につながるような工夫がある。(下巻P14)(上巻)9単元(下巻)9単元	季節の流れに沿った単元構成となっており、生活と密着したスムーズな学習展開となっている。入学式から最初の3日間を表したスタートカリキュラム対応ページが設けられている。(上巻P4～P5)(上巻)4単元(下巻)6単元	季節の流れに沿った単元構成となっており、生活と密着したスムーズな学習展開となっている。生活科の内容を「探検」「栽培」「飼育」「遊び」「家族・成長」の5つの活動領域に整理し、それぞれを大単元として構成し、巻頭に内容とカレンダー(時期)を示している。上巻頭に特設ページ「はじまるよ しょうがっこう」を設けて「スタートカリキュラム」を意識づけるページとなっている。(上巻)9単元(下巻)6単元
⑦判・ページ数	A4判 (上巻)130(下巻)122	A4判 (上巻)140(下巻)128	A4判変型 (上巻)140 (下巻)132

7 生活	17 教 出	38 光 村	61 啓林館
発行者・教科書名 観点	せいかつ	せいかつ たんけんたい	せいかつ
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	小単元の見開き左上には、学習活動において特に重点をおいて発揮すると効果的な力が「サイコロ」で示され、全ての児童に学習の「めあて」をつかませることができる。単元の中には、「はっけんロード」があり、なぞっていくことで、生活科の目標を達成しつつ、協働的な学習を進めることができる。	小単元は活動が一覧できるよう、見開き完結の構成となっている。「見通し」「深める」「振り返り・つなげる」と学習の進め方が分かりやすく、具体的な活動や体験を通した学習が展開できるようになっている。単元ごとに、学習指導要領で示された学習活動を分析した14の観点が設定されており、どの単元でどの観点を重視して学ぶかが見やすくなっている。(下巻P26・P27)別冊資料「ひろがるせいかつてん」は、児童が必要に応じて持ち歩いたり自発的に確認したりできるように取り外せるようになっている。また、資料が豊富で、児童一人ひとりが知りたい内容に応じて活用することができる。	教科書全体を通して、単元は導入「わくわく」、活動「いきいき」、ふりかえり「ぐんぐん」の3段階構成となっており、その3段階の学びの深まりが左上のマークで可視化されることで、児童自身が学習の流れを見通すことができる。2年の「みんなであそぼう」では、できるかな、できたかな?の項目で、知識及び技能の基礎・思考力、判断力、表現力等の基礎・学びに向かう力、人間性等とリンクさせた内容が掲載されている。(下巻P9)児童にとって自己評価の視点が持ちやすく、また教師にとっても指導と評価の手がかりにしやすくなっている。
ア. 言語活動を充実するための工夫	上巻P20・P21では、学校探検で感じたことを「?」「!」というマークを使って示し、伝え合う様子を写真で具体的に表している。「学びのポケット」では、各教科との関連について記載され、生活科で身に付けたい知識や技能の習得を促している。	「こんなこともあるかもね」「こんなのもいいかもよ」では、様々な場面を言葉とイラストで表している。児童が自分の思いを引き出しやすいようにしている。相手や目的に応じて、学んだことを伝えるための表現方法を具体的に示し、選択できるよう工夫している。(下巻P92・P93)	どの単元においても、児童の思考が見えやすい板書を掲載している。児童の言語活動を支えるうえで、教師にとって良い手立てである。発達段階や各教科との関連を意識しながら多様な表現活動を設定している。
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	上下巻ともに、最後の見開きページに、「コンピュータをつかうとき」というタイトルで、情報機器の利用手段や目的、使い方のヒントやマナーなどがまとめて載っている。単元学習の際に、何度も開いて確認することが可能になっている。QRコードの位置がページの四隅に揃えられ、かつ何の資料かも誌面に明示されている。そのため、自主学習等の場面でも使いやすい。	あんぜん・けんこう・どうぐ・ちかづかないの4観点に分かれたQRコードが表示されている。道具の使い方等、写真では伝わりにくい事柄を、動画やアニメーションで分かりやすく伝えることができている。巻末にデジタル機器の活用方法の説明がある。	日々の授業で活用できる「学びウェブ」と、児童のもっと知りたいをサポートする「デジタルたんけんブック」の2種類のQRコードがあり、コンテンツも豊富である。デジタルたんけんブックでは、キーワード検索も可能で、使用してある表記も教科書と同じでよみやすく、適切な情報量なので、無理なく学びやすい教材となっている。屋外で撮った写真を室内で提示するなど、低学年に合わせたICT機器の活用方法が提示されている。動画、音声等、多様なQRコンテンツがある。
②主体的・対話的で深い学びについての工夫 ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫	上巻P52では、「入学してからをふりかえろう」という活動を設定し、1学期の活動を振り返り、自分の成長を自覚する手立てとなっている。各単元の最初に「わくわくスイッチ」を設け、期待感をもって学習できる工夫がある。また、学習活動のページに「はっけんロード」を押し、キャラクターと共に学習を進めることができる。単元末には、「なにをかんじたかな」で学んだことを共有する活動が設定されている。	写真と吹き出しを使って、学習の過程を提示しているの、順に見ていくことで、どのように学習を進めていくのかイメージしやすい。振り返りの場面では、「これまでにしたことを思い出そう」→「今のあなたの気持ちを書こう」→「楽しい毎日につなげよう」と示し、活動を普段の生活につなげる振り返りができるように工夫されている。	1つの単元を「わくわくたいむ」「いきいきたいむ」「ぐんぐんたいむ」の3つの活動に分けて掲載している。「わくわくたいむ」では、児童がやってみたくなるような仕掛けがあり、「ぐんぐんたいむ」では、自分の成長を振り返る手立てが詳しく掲載されている。上巻P113では、この1年でできるようになったことを「学校のこと」「家のこと」「大きくなったこと」「友達から」と、4つの視点で述べるように示すことで、自分の成長の気づきを引き出しやすくしている。また、「できるかなできたかな?」では、学習過程や成果を振り返ることができるように工夫されている。
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	試行錯誤する体験を積めるよう配慮されている。(下巻P84など)友達との協働により成立するような遊びや発表が提示されている。児童の写真と、吹き出しを見れば、どんなことをするとより楽しくなるか、学ぶことができるか分かりやすいため、友達と関わるヒントとなり得る。	試行錯誤する過程が、写真やコミカルなイラストのつぶやきで示されている。発表会、交流会等、協働的な学習形態が提示されている。児童の写真と、吹き出しから、活動を想像しやすくしている。	「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」という学習の流れを紙面に明示することで、体験活動と他者との交流・表現活動が円滑に接続されるよう構成されている。イラストと吹き出しの内容が、一方通行ではなく、返事も書かれているため、どんなことを聞いたらいかがが分かりやすいし、想像しやすい。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	2年の「野さいのせ話をしよう」(下巻P10)では、単元の中で出会う疑問が「?」のマークを付けて明確に表示されている。また、それに繋がるヒントも、同じページにはっきりと書かれている。下巻P21資料がクイズになっていることや下巻P37「もしも」のように創造力や想像力を必要とするページが設けられており、考えたくなる工夫が随所に見られる。「はてな」キャラクターが児童に「なぜ」「どうしたい」と具体的に問いを投げかける。それに対して、「ヒント」が設けられ、見つける、比べる、例える、試す、見通す、工夫するなどの学習方法が行える工夫がされている。	小単元の全ページに、学びを深めるための「ヒント」が六角形で囲まれて示されている。児童がつまずいたときや試行錯誤するときに大切になるヒントであり、児童が自ら考え、学びを深める手がかりとなっている。2年の「やさしい作りにちようせんしよう」(下巻P26)では、問題解決的な学習へのヒントやアドバイスが、左下に書かれており、児童が自ら考えやすい教科書になっている。	導入「わくわく」、活動「いきいき」、ふりかえり「ぐんぐん」の3段階構成により学びが連続的・発展的に繰り返されることで、学びを深めていけるように工夫がされている。2年の「たねやなえをうえよう」(下巻P16)では、どんな準備が必要かという問題を自覚し、解決のためにどんなことをしなくてはいけないかというヒント(育て方を調べる、分からないことを聞いてみるなど)が、キャラクターの台詞の中に書かれている。
③他教科との連携の工夫	上巻P6・P7では、スタートカリキュラムと教科の学習がつながるように、教科名を入れて分かりやすく示している。下巻では、「社会科への窓」や「理科への窓」等で、3年の学習につながるヒントを掲載している。(例:下巻P43)上下巻の「学びのポケット」は関連する教科が明記されており、適宜、それらの知識や技能を使って学習できる工夫がなされている。	上巻P40「たねができたよ」では、たくさんとれたたねがいくつとれたかを数えるため、写真では10ずつに分けられている。相互の学習効果が高まるよう、他教科との合科的・関連的な指導のヒントが示されている。	上巻のうち、特に1学期の活動において、単元の初めに「幼稚園や保育所ではどうだったか」と教師が問う挿絵を入れることで、小学校生活への滑らかな接続を意識している。(上巻P38)他教科との関連がある活動には、合科的・関連的な学習活動を示すマークが付けられている。上巻P46などでは、国語科や図画工作科など他教科等との関連を図った学習活動の例が豊富に掲載されており、カリキュラムを編成する際の参考にできる。
④写真・挿絵・記号・図等の分かりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	単元ごとの節目のページに、単元インデックスが1年間にわたって掲載されており、年間を通した学習を見通すことを助けている。同ページ内の写真の位置や大きさがそろえられていることが多く、視認しやすい。	色覚の多様性に配慮し、挿絵では誰もが明確に識別できる配色を採用している。注意すべき点のはっきりと示されている。(下巻別冊P24)表情豊かで活動内容が思い描きやすい写真や絵本作家「ヨシタケシンスケ」の親しみやすいイラストがあり、楽しみながら読むことができ、児童の意欲を引き出す工夫がある。スタートカリキュラムのページが少し小さめに作られており、「ここから学習が始まる」ことがすぐに分かるようになっている。	紙面の左上に、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階の展開を示すツメが書かれており、配色にも配慮されている。各紙面の構成要素は、役割と掲載位置が固定されており、見やすくなっている。「びっくりずかんLIVE」という、ダイナミックな写真を用いた図鑑ページがあり、児童の興味をかき立てる。セミの鳴き声等、五感に訴える資料が充実している。(上巻P50等)スタートカリキュラムのページが少し小さめに作られており、「ここから学習が始まる」ことがすぐに分かるようになっている。
⑤表記・表現の分かりやすさ(字体、文字の大きさなど)	ユニバーサルデザインフォントが使用されている。文節で改行されたり分かち書きがされたりするなど読みやすさに配慮されている。また、国語科の学習に合わせて上巻のはじめはひらがなのみ、2学期より漢字(ルビ付き)とカタカナが書かれており、全ての児童が学びやすいように工夫されている。	ユニバーサルデザインフォントが使用されている。文節で改行されたり分かち書きがされたりするなど読みやすさに配慮されている。また、国語科の学習に合わせて上巻のはじめはひらがなのみ、2学期より漢字(ルビ付き)とカタカナが書かれており、全ての児童が学びやすいように工夫されている。	ユニバーサルデザインフォントが使用されている。文節で改行されたり分かち書きがされたりするなど読みやすさに配慮されている。また、国語科の学習に合わせて上巻のはじめはひらがなのみ、2学期より漢字(ルビ付き)とカタカナが書かれており、全ての児童が学びやすいように工夫されている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	季節の流れに沿った単元構成となっており、生活と密着したスムーズな学習展開となっている。幼児期の総合的な学びを下段にイラストで、それを生かして学習している姿を上段に写真で掲載し、「スタートカリキュラム」の姿を表している(上巻P4～P9)。巻末「学びのポケット」で、生活科と各教科を結び付け、カリキュラムマネジメントが見える構成されている(上巻P117～、下巻P109～)。(上巻)9単元(下巻)7単元	季節の流れに沿った単元構成となっており、生活と密着したスムーズな学習展開となっている。幼保で身につけてきた育ちや学びを生かしながら、児童が主体的に小学校での学習をスタートできるようにしている。(上巻P17)下巻末には中学年への期待を高めるコーナーを位置付けている。(下巻P97)(上巻)9単元(下巻)9単元	季節の流れに沿った単元構成となっており、生活と密着したスムーズな学習展開となっている。幼児期の学びや育ちを大切に「スタートカリキュラム」が充実している。(上巻頭)3年生以降への接続を丁寧に示した「ステップブック」で自信と意欲をもって進級できるように配慮している。(上巻)9単元(下巻)8単元
⑦判・ページ数	A4判 (上巻)130 (下巻)130	A4判 (上巻)137 (下巻)127 (別冊)17	AB4判 (上巻)148 (下巻)138

8 音楽		17 教出	27 教芸
観点	発行者・教科書名	小学音楽 音楽のおくりもの	小学生の音楽
	①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫		音楽科の目標「表現及び鑑賞の活動を通して音楽的な見方・考え方を働かせ生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成」が達成できるようになっている。教材、学習活動が充実しており、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解しやすい教材が掲載されている。
ア. 言語活動を充実するための工夫		曲の魅力について気付いたことを書き留めたり意見を交換したりするような学習が設定されており、言語力を活用した学習や協働的な学習に配慮されている。(例:3年P57、4年P55など)まなびマークが設定されている。2年以上の巻末には「音楽をあらわすいろいろなことば」として聴いた音楽から感じたことを言語化するための手助けとなる言葉の例が掲載されている。	グループ活動時の会話を想定した吹き出しが例示されており、児童が表現に対して思いや意図を持ち音楽の良さを味わいながら聞くために必要な情報が示されている。対話的な学習を通して気付いた価値など、友達の見つけた良さを尊重し合えるように工夫されている。
イ. ICTを活用した学習活動の工夫		「まなびリンク」のマークが示され、学習に対応した動画等の資料がWEB上に豊富に用意されている。演奏と楽譜がアニメーションで旋律の動きを捉える動画が視聴できるコンテンツが多数ある。	二次元コードですべての音楽が聴けたり、音楽作りの教材が用意されていたりする。二次元コードを読み取ると持ち方や鳴らし方などの楽器を紹介する動画を掲載している。(例:おとさがし(トライアングル)1年P52)
ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫		見開きごとに学習のねらいとまなび方を示唆する「学びナビ」が示されるとともに、主体的に学んだり学習を深めたりできるように配慮されている。(5年P26)各学年の学習も以前の学習を振り返るマークが施され丁寧なステップアップができる。	巻頭に「学習マップ」があり、学習の見通しが持てるようになっている。(6年P4・P5)巻末には「ふり返りのページ」(6年P82・P83)で、題材のまとめごとに学習を振り返って確認、関連付けることができる。音楽作りでは学習の手順が分かりやすくだのように工夫すればよいかという見通しが持つことができるため、作品作りに繋がりやすい。
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫		心を通わせながら、学習活動やアンサンブル活動をすすめていけるような設定や示唆が工夫されている。(4年P41)3年以上は巻末折り込みにリコーダーの運指図が配置されているので教科書のどのページを学習しているときも開いて児童が自ら指使いを確認できる。鑑賞では身体性を取り入れた学習活動により聞き取る力の育成や主体的な鑑賞活動に配慮されている。(例:1年P54、2年P49、4年P55など)	グループ学習を通して友達と協働しながら音楽作りができる。学習の目標や具体的な活動例、ヒントや資料が豊富に用意されている。自分でめあてを持つことができるようマークが示されており、キャラクターの吹き出しや専門家のメッセージが掲載されている。歌い方を真似るといった体験型学習を通して、地域に伝わる音楽に親しむことができる。(4年P27)また、調べ学習ができる資料ページも設けられている。(4年P28・P29)
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	SDGsに関連する教材が掲載されている。(5年P65、6年P46)中学校で学ぶ内容を発展的に扱ったところでは、マークでその旨が示されている他、高学年では、雅楽や日本の作曲家の歌曲作品など中学で学ぶ内容が導入的に扱われている。(5年P82、6年P79)	題材内の他の教材と関連させることにより、学びに繋がる工夫がされている。SDGsにつながる視点をもった教材が掲載されている。(5年P70)震災を体験した方のメッセージや復興がきっかけで歌が生まれたことを伝えるコラムなど、「音楽に何ができるか」という観点から児童が考えることができるよう配慮されている。(6年P43)	
③他教科との連携の工夫	巻末に「short time learning」のコーナーで既習曲の英語の歌、5年で国語との関連教材(5年P49)、3年で算数・理科と関連させている。(3年P73)	社会科、道徳教材(4年P28)、低学年の生活科(1年P32・P33)と関連付けられている。英語の歌が掲載されていたり、日本の古典芸能(6年P80・P81)を使って国語科などと関連付けられたりしている。	
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	歌唱共通教材では、特に写真や資料が充実している。色覚等の特性を踏まえ判読しやすい配色やレイアウト、表現方法がなされている。紙面全体の色の組み合わせや濃淡の工夫、また罫線や記号・番号を施すなど、色覚の多様性に問わず、より多くの人に見やすいように配慮されている。	ユニバーサルデザインに配慮し、写真の上の文字の大きさ、色にも工夫が見られる。カラーの写真が豊富に取り入れられている。レイアウトも見やすく、統一感が感じられる。題材ごとに通し番号がふられるとともに、インデックスにより題材のまとめが分かりやすい。紙面が大きくよりシンプルなデザインが採用されている。	
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	文章は適切な文字量でわかりやすい。楽譜や文字は適度に大きさと、また鮮明で読みやすい。発達段階に合わせて、低学年用の図譜、使用する言葉等に配慮が見られる。ユニバーサルデザインフォントの使用など細部に工夫がみられる。学習のめあてなど重要な言葉を大きくするなどの配慮がなされている。	ユニバーサルデザインフォントが全体の9割に使われ、タイトルや文字だけでなく、楽譜中の歌詞にも使用されていて可読性や可視性が高まっている。楽譜や縦書き歌詞、活動文は無地や単色の部分に配置するなど読みやすさを確保している。	
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	系統性のある題材の配列がされており、多くの児童が楽しめる内容を提供している。また、資質・能力を育みながら、学びが深まるように構成されている。 【歌唱教材の例】 1年 P40 ひのまる 2年 P30 にじのクレヨン 3年 P8 春の小川 4年 P18 エーデルワイス 5年 P10 こいのぼり 6年 P10 おぼろ月夜 【鑑賞教材の例】 1年 P6 サンダーバード 2年 P8 「天国と地ごく」から 3年 P34 ユモレスク 4年 P20 「サウンドオブミュージック」から 5年 P32 組曲「カレリア」から 6年 P15 ハンガリー舞曲第5番	題材は、学年内での学習のバランスを考慮して構成されており、児童の発達段階に応じて「音楽的な見方・考え方」を働かせながら学習を積み重ねていくことができる。 【歌唱教材の例】 1年 P70 あいあい 2年 P68 はるがきた 3年 P16 ドレミで歌おう 4年 P30 ゆかいに歩けば 5年 P40 夢の世界を 6年 P10 ペガサス 【鑑賞教材の例】 1年 P76 クシコスボスト 2年 P66 エンターテイナー 3年 P38 メヌエット 4年 P68 山の魔王の宮殿にて 5年 P20 アイネ クライネ ナハトムジーク 第1楽章 6年 P16 木星	
⑦判・ページ数	AB変型 1年82、2年82、3年86、4年88、5年88、6年88	AB変型 1年82、2年82、3年86、4年86、5年86、6年86	

9 図画工作

発行者・教科書名		9 開隆堂	116 日 文
観点		図画工作	図画工作
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫		各ページに設けられている学習のめあてで3つの観点が分かりやすく示されている。各観点到キャラクターが設定されており、学習を深めるヒントとなっている。	各題材で学習のめあてと3つの観点が分かりやすく示されている。特に大切な観点は、マークを付けて児童に分かりやすい言葉で大きく示されている。
②主体的・対話的で深い学びについての工夫	ア. 言語活動を充実するための工夫	「絵のお話しでプレゼント」(5・6年下P10・P11)では、1年生に絵を使い伝えるための話し合いを題材とし、活動の様子を写真で表し、言語活動を充実させる内容となっている。	「形に命をふきこんで」(5・6年上P12・P13)では、動きのキーワードとして「集まる、広がる、回るなど」と明示され、児童が言語から考えを広げられるきっかけとなっている。
	イ. ICTを活用した学習活動の工夫	各ページ左下にQRコードが掲載されており、ICTの活用によって学習を支える意図がみられる。一律にQRコードのみを表示しているのではなく、QRコンテンツの内容が端的に示されており、学習の見通しを持ちやすくする配慮が施されている。	教科書掲載外の作品紹介がQRコードを読み取ることで見られるようになっている。また、「形に命をふきこんで」(5・6年上P12・P13)では、コマ撮りのためのWEBアプリケーションが使えるようになっている。
	ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫	題材名の下のリード文で、どのような学習をするのか見通しを持つことができる。全題材において、ICTを活用した活動の振り返りができるよう「ふりかえりシート」が設定されている。	題材名の下のリード文により、どのような学習をするのか見通しを持つことができる。多くの題材で、左ページに手順等が、右ページに作例が掲載されており、見通しを持った活動につながりやすい工夫がされている。
	エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	「はことはこをくみあわせて」(1・2年上P52・P53)のように相手を思い浮かべながら力を合わせて活動する題材があり、社会へのつながりや意識を高めたり、態度を育てたりすることができるようにしている。	デジタルのアートカードを使い、対話的な鑑賞に取り組むことができるよう構成されている。どの学年もアートカードを気軽に利用できる仕組みがある。(1・2年上P66、1・2年下P64、3・4年上下P64、5・6年上下P68)
	オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	作り方が分かりやすく載せられており、作品を制作するときのヒントになるよう構成されている。「たいせつなめあて」には下線が引いてあり、課題解決へつながる工夫がなされている。別の題材を隣接ページに配置し、それぞれの学習を関連付けることで、学んだ資質・能力を次の学習に生かしたり、生活の中の場面に応用したりすることが考えられる。(1・2年上P40・P41・P42・P43など)	工作と鑑賞を合わせた題材として「笑顔が生まれるしかけ」(5・6年上P38・P39)では、身の回りのものに一工夫加えることで、人を笑顔にさせることを目標としており、どうすれば笑顔を導き出せるか考えられる題材となっている。各題材には、考えたり工夫したりするキーワードが記載されている。特に、「カラフルいみず」(1・2年上P20・P21)では、鑑賞のヒントが問題解決への糸口となっている。
③他教科との連携の工夫		各題材のページに「あわせて まなぼう」が設けられており、どの教科と関連があり、どのような活動をするかについて示されている。また、プログラミングやSDGsと関連させて考えられる工夫がある。	「つながるまなび」にて、他教科との関連が示されており、他教科の学習を生かしたり関連づけたりした題材を多く取り入れている。また、プログラミングやSDGsと関連させて考えられる工夫がある。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)		児童が活動する場面が多く使われている。それぞれの題材を学習する際の主な材料や用具等が、各ページ上部にイラストレーションで示されており、準備場面でのつまづきが減ることが考えられる。「えのぐじま」(1・2年下P28・P29)のように、児童が関心を示しやすい写真やイラストレーションを多用することにより、楽しい雰囲気を出している。	学習活動の一場面や作品の写真がふんだんに取り入れられ、見通しを持たせたり作品づくりのヒントとなったりする仕掛けが多い。色の濃淡だけでなく、斜線や地紋で識別の工夫があるなど、カラーUD以上の工夫が感じられる。また、写真だけで示すのではなく、作り方や仕組みの理解を促す場面でイラストも多く使われており、分かりやすく親しみやすさがある。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)		UDフォントの表記でまとまっている。文字の大きさは、児童の発達段階に即して、低・中・高学年で差をつけている。作品写真には番号がふられており、誰にでも分かりやすく確認できる。	最も分かりやすいUDフォントのゴシック体で統一されており、文字の大きさや色、太さなどで変化をつけ強弱を表している。小見出しを印象的なデザインで仕上げ配置し、目にとまりやすい誌面構成となっている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)		「造形遊びをする」「絵に表す」「立体に表す」「工作に表す」「鑑賞する」の5つの分野について、各ページに学習活動の内容を把握しやすいようにしており、また目次では内容を色とマークで表している。SDGsに関連した内容が取り上げられている。(5・6年上P54、P55)	「造形遊びをする」「絵に表す」「立体に表す」「工作に表す」を全て「鑑賞する」と関連付けて表しており、各ページや目次でも学習内容を一目で把握することができるように表している。SDGsに関連した内容が取り上げられている。(5・6年上P36・P37)
⑦判・ページ数		A4版 1・2年上64、1・2年下64、3・4年上64 3・4年下64、5・6年上64、5・6年下68	A4版 1・2年上68、1・2年下64、3・4年上64 3・4年下64、5・6年上70、5・6年下68

10 家庭	2 東 書	9 開隆堂
①教科目標から見た編集の適切さ・教育・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	<p>時数・学期・学年配分に偏りは無い。また、5, 6年ともに、活動例、実習例が多く、基本的な内容から応用、発展的な内容へと、系統立てて学習できるようになっている。"家庭科の窓"という形で、各単元にマークをつけ、学習する視点を明確にするとともに、学習の流れが示されており、見直しを持って学習ができるよう工夫されている。巻頭に、実習前の注意点として、体調の確認、身支度、手洗いなどが確かめられるようになっている。また、「地震が起こったとき」では、非常時に気をつけなければならない点を示されている。</p>	<p>2年間を見通した学習の流れが紹介されていて、系統的な学習ができるようにされている。生活の見方・考え方の4つの視点をクローバーのマークで示し、各単元で最初にどの視点で見つめていくのかがわかりやすく示されている。また同時に、学習のめあても単元の最初に示されており、児童が見直しを持って学習できるようになっている。5年はスモールステップで反復学習をし、基礎基本の定着を図る題材設定になっている。6年は5年で学習した技能を生かした題材もある。</p>
ア. 言語活動を充実するための工夫	<p>ステップ1「見つめよう」や、ステップ2「計画しよう・実践しよう」の場面で、児童がお互いの日常生活をふり返り、話し合う場面が設けられており、言語活動を充実させるための工夫がされている。単元ごとに「考えよう」「話し合おう」「深めよう」といった活動内容が示され、話し合ったり発表したりする機会が設けられている。基本的な用語を理解できるよう、重要語句は太字になっている。レポートの記入例がある。</p>	<p>各単元で『話し合おう』『考えよう』というポイントが示され、児童が課題解決に向けて話し合う場面が設定されている。話し合いや意見を発表する場面があり、書き込みカードで意見の共有もできる。また、単元の終わりに「生活に生かそう」という項目があり、これからの生活に生かしたいことが記入できるようになっている。</p>
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	<p>各ページ見開きの右上にQRコードがつけられており、スキャンすることで、そのページの学習内容に関するワークシートや写真、野菜の洗い方や切り方など、基本となる技能の動画を見ることができ、児童が自ら学習を深められるようになっている。</p>	<p>各ページ見開きの右上にQRコードがつけられており、スキャンするとその単元全体の動画やワークシート、野菜の洗い方や切り方など、基本となる技能の動画が表示され、自分が必要なものを選んで見ることができるようになっている。(各ページにQRコードがあるが、同じ単元では、同じページが示される。)</p>
②主体的・対話的で深い学びについての工夫	<p>各単元すべてが、ステップ1「見つめよう」ステップ2「計画しよう・実践しよう」ステップ3「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」という構成になっており、児童が自分で課題を見つけ、解決しやすいよう工夫がされている。活動ごとに「できたかな」というチェック項目があり、毎回ふり返って基本を確認することができるようになっている。また、巻頭および巻末には、実習時の注意点が、『いつも確かめよう』という形で、一覧になっており、児童がいつでも確認できる工夫がされている。</p>	<p>単元のはじめに、「学習のめあて」のチェック項目があり、単元の終わりに達成できたのかふり返ることができる。各単元が、1気づく・見つける、2わかる・できる、3生かす・深めるの主体的、対話的な深い学びを実現する三つのステップになっており、課題を見つけ、解決しやすいよう工夫されている。そして活動ごとに「できたかな」というチェック項目があり、毎回ふり返って基本を確認することができるようになっている。また、巻末には、『安全と衛生に気をつけて実習しよう』や『実習に役立つワンポイント』というページが設けられており、児童がいつでも確認できる工夫がされている。</p>
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	<p>各単元の中で『プロに聞く』といったコラムが挿入されており、単元内容に関わる仕事について、収納の専門家や調理師などのインタビューを載せている。プロの生の声から、問題点を見出し、課題解決に導くことができるよう工夫されている。そのほか、『日本の伝統』といったコラムや写真も挿入されており、発展的な学習につなげられるような工夫がされている。伝え合う活動があり、家族や地域の人々への気持ちを伝えることを促し、コミュニケーション力をアップさせようとしている。</p>	<p>随所に『キャリアインタビュー』というコラムが挿入されており、単元内容に関わる仕事について野菜の生産者や消費生活アドバイザーなどのインタビューを載せている。プロの目線での考え方が示されており、児童がいろいろな角度から、考えを深めることができるようになっている。また、『伝統』というマークで、日本の伝統文化について発展的な学習につなげられるような内容が盛り込まれている。対話の活動があり、児童同士、家族、身近な人たちとの会話を通して考えを明確にできる仕組みがある。</p>
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	<p>活動や学習したことを生活に生かすための具体的な方法例が掲載されている。単元の間に、『夏休みにチャレンジ』や冬休み前と2年間の学習の最後に『生活をかえるチャンス(生活の課題と実践)』を設定し、学習したことを実践へとつなげられるようになっており、児童が自分で学習内容と生活を結びつけ、日常生活の問題を見出し、解決できるよう考えられている。</p>	<p>マイめあてがあり、自らの変容が見える記入カードがある。単元の間に『生活の課題と実践』といったページが設けられ、児童が自分で、学習内容と結びつけた日常生活の問題を見つけ、解決するための手立てが示されている。</p>
③他教科との連携の工夫	<p>他教科との関連がある内容は、関連マークで示している。英単語がページの横に記入されている。第4大題材『持続可能な社会へ ものやお金の使い方』では、SDGsや環境問題とも関連させて考えられるよう構成されている。</p>	<p>他教科との関連がある内容は、関連マークで示している。英単語がページの横に記入されている。SDGsや消費者教育の視点などを取り入れ、実生活につなげられるように工夫されている。</p>
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	<p>写真も多く使われており、児童が実際の様子をイメージしやすくなっている。学習内容のテーマカラーを設定し、めあてや振り返りなど、各ポイントが同じマークで示されており、わかりやすい工夫がされている。色のみによって区別せず黄、赤などの文字を付す配慮がある。また1冊を通じて、見開きで実習できるようになっている。そして、カラーユニバーサルデザインに配慮した紙面になっている。巻末には利き手ごとに包丁、針、ハサミの使い方など作業の仕方が写真で掲載されており、個々に応じて対応しやすくなっている。</p>	<p>写真のほか、イラストも多く使用されており、児童がなじみやすい工夫がされている。実習の手順が横流れで示されており、色が見にくいところは白い線を作るなど見やすくする工夫がされていると同時に、児童と同じ目線の写真(実習や製作)が多く取り入れられている。また、『安全』や『環境』など、考える視点ごとに統一されたマークで示されており、児童が考える視点がわかりやすくなっている。1冊を通して、カラーユニバーサルデザインに配慮した紙面になっている。巻末の見開きに実物大の写真に掲載し、野菜を切る時の目安となるように工夫されている。そして、利き手ごとに包丁、針、ハサミの使い方など作業の仕方も写真で掲載されており、個々に応じて対応しやすくなっている。</p>
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	<p>ユニバーサルデザインフォントを使用しており、児童が読みやすい工夫されているほか、題字と本文中で字の大きさや太さを変え、読みやすくなっている。</p>	<p>題字と本文中で字体や太さを変え、わかりやすくなっている。文の意味をつかみやすくするために1つの単語が行をまたがないように工夫されている。</p>
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	<p>4年生までの学習を踏まえ、2学年の家庭科の学習の見直しを立てられるよう、巻頭ページに目次とガイダンスを設置している。さらにガイダンスには、4年生までの学習内容と5年生から始まる家庭科の学習との関わりを示している。5年生と6年生の最後に「まとめ」のページを設定し、学年間・中学校への接続がスムーズになるように配慮している。4年生までの学習をふくむ他教科の学習内容と家庭科の学習内容の関連、さらに、中学校技術・家庭との関連は、関連マークを付けて示している。小学校英語と関連して家庭科に關係のある英単語とその日本語訳を脚注に掲載している。</p>	<p>各学年のテーマの下、ストーリー性を考慮した題材配列がなされ、見直しや目標をもって学習できる。題材の組替えもしやすく、地域や学校事情等に適合した使い方ができる。家庭生活や家族の題材が各学年の最初にあり、いずれも生活を見つめ直すことから学習を始めることができる。衣食住の題材は易から難へと、さらに季節等を考慮して配列され、最終題材には他者との共生、持続可能な社会の構築につながる題材が配置されている。調理実習を早期に設定して興味づけを図り、学校行事や総合的な学習との関連が図れるように、「ご飯とみそ汁」の調理が5学年に配置されている。最後に見開きで「2年間の学習を中学校につなげよう」と書かれており、小学校の家庭科と中学校技術・家庭「家庭分野」の学習のつながりが掲載されている。</p>
⑦判・ページ数	A4判・150ページ	A4判・154ページ

11 保健	2 東 書	4 大日本	50 大修館
発行者・教科書名	新編 新しい保健	新版 たのしい保健	新 小学校保健
観点	健康についての課題を「自分ごと」として捉え、主体的に学習ができるように4つのステップで構成されている。各ステップには記入スペースが用意されており、思考・判断したことを表現できるようになっている。記入スペースも豊富に設けられており、QRコンテンツも充実している。ワークシートの機能も併せ持ち、ノートもデジタルもこの教科書1冊で対応できるようになっている。	児童が自分の生活や身の回りを振り返って主体的に課題を設定しやすい構成になっている。児童が思考・判断し、表現力を高める活動が設定しやすくなっている。挿絵で分かりやすく示すことにより、知識の定着も図ることができるようにしている。「つかもう」「話し合おう」「活かそう」などは、主体的に活動しやすくなっており、記入欄があることにより客観的にも捉えられるようになっている。	身近な生活の中から課題を発見することに主眼を置かれており、授業の導入に工夫がみられる。3ステップのシンプルな学習過程で構成されている。対話的な活動を促すよう、キャラクターにより思考のきっかけを提供している。
①教科目標から見た編集の適切さ ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	健康についての課題を「自分ごと」として捉え、主体的に学習ができるように4つのステップで構成されている。特に、ステップ1「気づく・見つける」では、自分の健康課題を見つける活動が導入に取り入れられており、児童自身が自分の健康課題について気付いたり、見つけたりすることができる。(例:3・4年P17・P18) また、ステップ3でも習得した知識を基に、さらに考えたり、意見やその理由を相互に表現し合ったりする活動が取り入れられている。(例:3・4年P14・P15)	全ての単元で、自らの課題を発見し、主体的に取り組み、資料から読み取る、友達と話し合うなど対話を通して思考を広げて深めていく活動により、深い学びが実現できるように計画されている。(例:5・6年P26・P27) 「考えよう」、「話し合おう」、「調べよう」などの活動では、児童が協働して学ぶことができるようになっている。また、折り込みページを開いておくことで、ヒントを見ながら活動に取り組むこともできる。(例:3・4年P18・P19)	著名人を取り上げられており(例:5・6年P7)、キャラクターによって思考のきっかけを促している。(例:5・6年P8) 友達と話し合い、互いの考えを共有する対話的な活動が豊富に用意されており、思考力・判断力・表現力を育成できるようにしている。(例:5・6年P29) 最初に自分で考えた上で、対話を行い思考を広げる活動が設定されている。(例:3・4年P12)
②主体的・対話的で深い学びについての工夫	QRコンテンツには、動画やシミュレーションの質と量が充実しており、学びを深め、広げることができるようにしている。1人1台端末環境を意識し、QRコードからリンクする特設コンテンツが設けられている。(例:3・4年P42)	時間ごとにデジタルコンテンツが豊富に用意され、分かりやすいようにマークが設けられている。また情報活用能力、プログラミング教育に対応した活動や資料も設けられている。(例:5・6年P33)	動画やシミュレーション、ウェブクイズなどのデジタルコンテンツが豊富に用意されている。急速に変化する社会に対応した資料が多数扱われており、スマートフォンやタブレットと健康の関係について、各所で取り上げられている。(例:3・4年P15)
③他教科との連携の工夫	各項では、ステップ1で児童の気付きを引き出した後で、次ページの学習の課題を確認するよう構成されており、学習の課題を自分のこととして捉えられるようになっている。(例:3・4年P17・P18) 章末には、学習をふりかえろう(ワークシート)のQRコンテンツが用意されており、章の学習を終えて、もっと知りたい、調べたいと思ったことを書くことができるようになっているなど、さらなる学びへの意欲を喚起するよう工夫されている。(例:3・4年P20)	導入の活動「つかもう」では、児童に身近な題材を取り上げられており、主体的に学習に取り組むことができるようになっている。(例:5・6年P42) 「活かそう」では、身近な話題を考え、それを実生活に活かす学習展開により、自ら考えて行動する習慣が身に付くようにしている。(例:5・6年P43) 各時間の活動に記入欄を多く設定したり、単元の終わりに問題を設定したりして、ふりかえりができるようにしている。(例:5・6年P42・P43)	「章とびら」では、著名人を取り上げられており、キャラクターとの対話を通して健康の大切さや健康についての考え方に触れることで、主体的な学びをスタートさせることができるようになっている。(例:3・4年P9、P10) 3ステップのシンプルな学習過程で構成することで、流れが分かりやすくなり、主体的に学習を進めることができる。「まとめ 生かそう 伝えよう」の活動では、学んだことを整理し、よりよく課題を解決する深い学びを促す内容となっている。(例:5・6年P47)
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	ステップ2、ステップ3では、「ほかの人の意見を聞いて、考えたことやわかったことを書く」活動が設定されており、仲間と対話的に課題を解決していくことができるようにしている。(例:3・4年P19)	全ての単元で友達と話し合う活動が設けられている。家庭や地域において、学習したことが活用できるようにしている。(例:5・6年P22・P23)	友達との話し合いを通して、互いの考えを共有したり、思考を広げたり深めたりする対話的な活動が豊富に設けられている。(例:5・6年P29、P32)
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさなど)	健康についての課題を「自分ごと」として捉えられるように、「気づく・見つける」→「調べる・解決する」→「深める・伝える」→「まとめる・生かす」で各項が構成されている。また、児童の気付きを大切に「ステップ1」で問題意識を高めたのち、「学習の課題」が提示されており、より主体的に取り組むことができる。	課題に対して切実感や興味・関心をもてるように、実生活・実社会であるような場面を想定している。健康や安全に関して、具体的・体験的な解決が図れるように、「見つける」で課題を確認し、「考える・やってみる」で友達との課題解決活動を行い、「まとめる」の後に「広げる・深める」という流れとなっており、学習したことをこれからの生活につなげることができるようになっている。	身近な生活の中から課題を発見することに主眼が置かれており、「保健の見方・考え方」を働かせて、主体的な学びをスタートできるようにしている。また、STEP2では、対話的な活動が豊富に用意されており、課題解決活動を進める工夫がされている。STEP3では、学習したことを活かして考えたり、友達と考えを比較したりして、学習をまとめるようになっている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ (関連付け、時期など)	章とびらや本文側注欄などに他教科との関連が示されている。	他教科に関連した題材を適宜扱われており、該当箇所にはマークを示している。また、学習内容に関連した、英語のことわざが紹介されている。	随所に他教科との連携をマークとともに示されており、教科横断的な学習ができるようにしている。
⑦判・ページ数	挿絵を中心に紙面が構成されており、必要なところでは写真を用いて具体性を高められている。色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から配色およびデザインについて全ページにわたって専門家による検証が行われている。	特別支援教育の観点はもちろん、全ての児童やユニバーサルデザインへの配慮がされている。専門家の監修のもと、全面的にカラーユニバーサルデザインで、色覚の特性によらず情報が読み取れるよう配色に配慮されている。	カラーユニバーサルデザインの専門家が全ページの紙面を検証している。様々な色覚特性にも対応し、全ての児童が学習の流れを把握しやすく、可読性の高い紙面レイアウトになっている。写真やイラストの登場人物は、性・国籍・障害の有無に基づく差別や偏見につながらないよう配慮されている。
⑧単元(教材の配列)の適切さ (関連付け、時期など)	書体は、独自に新開発されたUD教科書体を採用されており、従来の教科書に比べ太く、視認性がいっそう向上しているため見やすく、読み間違えにくいデザインとなっている。	全面的にUDフォントが使用され、読みやすい位置で改行が行われている。「つかもう」には、折り込みカードを付されており、取り組みやすくなっている。	UDフォントを採用し、視認性と可読性を高めている。文章内容を理解する前段階での不要なつまづきを防ぐため、単語や文が行をまたがないように文節改行を行っている。
⑨単元(教材の配列)の適切さ (関連付け、時期など)	各学年とも学習指導要領に合わせて内容が配列され、示された所定配当数内での指導が可能のように構成されている。小学校保健の他学年の内容との関連がマークとともに示されており、系統性のある指導ができるように配慮されている。運動に関する内容が随所に掲載され、運動領域との関連が図られている。	教科書全体で、学習指導要領に則り、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を分かりやすく、より実践的に学習できるように配列されている。学習内容の系統性、領域のバランス、他教科との連携を総合的に考慮し、適切な単元配列となっている。各章、小単元の学習は発達段階と学年に応じて精選している。	学習指導要領に示された配当授業時数内で目標及び内容がもれなく指導できるよう単元を配列し、教材を選定している。随所に他学年の保健の学習との関連をマークとともに示し、系統性のある指導ができるようにしている。「体育の窓」を中心に運動領域の学習内容が積極的に取り上げられており、運動と健康との関連について具体的な考えをもてるようにしている。
⑩判・ページ数	A4版 3・4年46 5・6年78	A4版 3・4年46 5・6年70	A4版変形 3・4年50 5・6年74

11 保健			
発行者・教科書名	207 文教社	208 光文	224 学研
観点	新わたしたちの保健	小学保健	新・みんなの保健
①教科目標から見た編集の適切さ ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	日々の生活の中でより実践的に学習することができるよう、児童の目線や思考から捉えられる構成になっている。「もう一歩先の自分へ」では、自分自身の課題を整理し、自分の生活に活かすことができるように単元のまとめを設けている。	自分の健康課題に気付き、解決に向かって学びやすい構成になっている。協働学習の設定がされており、対話を通して自分の考えを広げたり、深めたりできるようになっている。現代的な課題が重視されており、健康・安全についての知識と技能について身に付けることができるようになっている。	個人差や多様性に触れられており、自分自身を見つめたり、それぞれの違いを大切に思うことができるような構成となっている。3つのピースを完成させる学習の流れを繰り返すことで、思考力・判断力・表現力を身に付けることができるようになっている。日常生活において様々な気付きを促すことができるように、資料が充実している。
ア. 言語活動を充実するための工夫	ちょっと思うこととして、タイトルからより自分事として捉え、共感できるように吹き出しが設けられている。(例:3・4年P29)各目標達成のために、自分にとって何が必要なのか、理解した内容を基に、より主体的に対話的な活動を通して、自ら実践していくことができる内容になっている。(例3・4年P8)	単元は5つの学習過程で構成されている。「話し合おう」という学習活動や「学んだことを生かそう」の項目で他者に伝える活動が設けられており、対話的な学習となるよう促されている。(例:5・6年P20)また、協働学習として話し合いを通して考える活動や、自分の考えを他者に伝えたり、説明したりする活動には、マークで示されている。(例:3・4年P18)	順序立てて進めていく構成になっており、学習の流れが分かりやすくなっている。(例:3・4年P8・P9)また、「話し合ってみましょう」などと課題文が明示されており、協働的に活動する学習活動を促している。(例:3・4年P10・P11)
イ. ICTを活用した学習活動の工夫	QRコードでリンク先へアクセスでき、より多くの情報を得ることで、学習の充実を図れるようにしている。脚注には、豆知識や気付いてほしいこと、動画、デジタルの資料が示されている。(例:3・4年P33)	各ページにQRコードが掲載されており、QRコンテンツには動画や画像、外部リンクなどが資料として用意されている。また、デジタルマークが配置されており、資料を扱うタイミングが分かりやすくなっている。(例:5・6年P14～P16)	デジタル教材を活用した学習を適材適所に豊富に取り入れられている。(例:3・4年P6)また、「ふり返りシート」も各時間に用意されている。
②主体的・対話的で深い学びについての工夫	各学年の始めは見開き2ページで構成されており、イメージしやすい写真や単元の目標、4時間(6年は8時間)の見通しを掲載することで、興味を引きつけるとともに見通しが持てるようになっている。(例:3・4年P20・P21)各単元の中で、自分の生活を振り返る欄が設けられており、自分自身の生活を振り返ることで、より自分事としてとらえることができるようになっている。(例:3・4年P35・P36)	各章ごとの扉には、学習内容のイメージがつかめる漫画が掲載されており、児童の学習意欲や学びに向かう力を高めるように工夫されている。(例:3・4年P2、P7)各単元は、「1自分の生活をふりかえる」「2学習の課題をつかむ」「3課題解決に向けて学習活動をする」「4学習をまとめる」「5自分の生活に生かす」の学習過程で構成している。(例:3・4年p16・P17)「学んだことを生かそう」では、自分の生活を振り返って見直す活動を行うことで実生活で学びを生かせるようにしている。(例:3・4年P22)	各項目のはじめには、「学習の進め方」「学習の課題」が明示されており、見通しを持って学習を進めることができるようになっている。(例:3・4年P8・P9)各項目の最後に、学習の進め方や自ら工夫したことをふり返る記入欄が設けられており、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度が育成されるよう工夫されている。(例:3・4年P11)
エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	各学年の最後には、より実践につながる「宣言ページ」が設けられている。4時間(6年は8時間)で理解したことを宣言することと、その理由を意識して友達と伝え合う活動が設けられている。(例:3・4年P37)	伝え合う活動が重視されており、全単元に児童が思考・判断・表現したことを書くための記入欄を豊富に設けられている。(例:5・6年P31・P43)	随所に実験や実習などが設けられている。(例:5・6年P18、P39)学習したことを家庭や地域で確かめたり調べたりすることができるように、家庭や地域で取り組みたい活動として、「おうちで」や「ちいきで」が設けられている。(例:5・6年P48、P68)
オ. 課題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	1時間の学習をいくつかのStage(学習活動)で構成されており、最後にまとめへと繋がる流れとなっている。そして、各時間の最後に「もう一歩先の自分へ」というページでより実践的な内容へとつなげるように構成されている。また、「各学年の始め」では、健康や生命がイメージできる見開き2ページで構成されており、学習の動機づけが図られている。	学習の導入として毎時間「見つけよう」の項目で、これまでの経験をもとに考えたり、自分の生活を振り返って健康課題に気付いたりすることができる活動を設定されており、これから学ぶ内容を自分のこととして捉えられるようになっている。また、「学んだことを生かそう」では、学習した知識を実生活で活用できる実践力を育てられるように構成されている。	学校の様子を写した大きな写真を通して、生活と健康の関係を身近に感じ、課題をつかめるように構成されている。また、巻末で、学習したことを生活につなげるような工夫として、「学びにつながる みらいへつながる」というページが設けられている。
③他教科との連携の工夫	保健での学習内容における、学年間でのつながりが重視されており、関連する単元が豊富に掲載されている。	体育科の運動領域をはじめ、他教科・他領域の学習との関連が図れるように、マークが示されている。	「つなぐ」には、カリキュラム・マネジメントを実現しやすくなるよう、他教科との関連を示している。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ (大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	特別支援教育の専門家が検証し、全ての児童に対して、カラーユニバーサルデザインの観点に配慮したレイアウトも含め、読みやすく分かりやすい紙面になっている。より前向きな学習を促すために挿絵は児童たちが親しみやすい表現やタッチになっている。また、固定的な考えにとらわれず、より自由度の高い表現や色使いに配慮されている。	カラーユニバーサルデザインの視点から全ページの配色や色に関わる表現において専門家の指導のもと編集されている。文や資料が混同しないよう、間に余白を設けたり、線を引いたりしている。登場人物の性別や国籍、それぞれの役割に隔たりがないように見直されており、児童たちが自己肯定感を持って学習に取り組めるよう配慮している。	全ての児童が読みやすいよう、紙面全体をユニバーサルデザインに配慮して作成している。レイアウトやデザイン、配色について、専門家による検証が行われている。イラストや写真の使用にあたっては、内容や掲載点数ともに学習上の効果に十分配慮されている。挿絵や図は性や国籍を尊重し、人数や役割、配色などで固定的なイメージとならないように配慮されている。
⑤表記・表現のわかりやすさ (字体、文字の大きさなど)	書体や文字の大きさも読みやすく分かりやすくしている。漢字は該当学年までの教育漢字を使用し、新常用漢字は実態に即して対応している。配当漢字以外の読んでほしい漢字には、ルビ表記している。	全ての文字に読みやすいユニバーサルデザインフォントを用いられている。文節の切れ目で改行し読解しやすくなっている。基礎的基本的な事項には、大切な用語や文が目立つよう文頭に★マークをつけられている。	書体は、UDデジタル教科書体を採用し、視認性を高めている。無用な交ぜ書きをせず当該学年以降の配当漢字全てにふりがなが付されている。A4版を採用し、詳しく豊富な内容とゆったりとした紙面を両立し、書き込むスペースが十分に設けられている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ (関連付け、時期など)	学習指導要領に示された各単元について、配当時間数を通して理解するまでの内容を示し、学習の見通しを持ちながら指導できるように配列されている。保健領域との関連性を重視し、随所で運動領域の学習内容にふれたり、職業に関する専門性の高い内容を取り上げたりしながら構成されている。	全学年において、学習指導要領に示された内容が所定配当時数内で指導できるように各単元を配列されている。学習内容を精選し、資料や知識を確認したい場合は、デジタル資料で確認することができるようになっている。保健の内容について、児童の発達段階や興味・関心に応じて身近な生活との関連を図り、日常生活での実践に結びつけることができるように活動や発問が設定されている。	学習指導要領の配列に合わせて各学年の内容を配列するとともに、示された配当授業時数内で指導ができるように構成されている。健康との関わりに必要な内容については、「つなぐ 体育とつなげる」を設け、運動領域との関連を図るよう取り上げている。各内容は、児童の心身の発育・発達段階に適応しており、身近な課題・自らの課題として取り組むことができるようにしている。
⑦判・ページ数	A4版 3・4年38 5・6年84	A4版 3・4年42 5・6年66	A4版 3・4年50 5・6年90

12 外国語(英語)		2 東 書	9 開隆堂	15 三省堂
発行者・教科書名		NEW HORIZON Elementary English Course	Junior Sunshine	CROWN Jr.
観点				
①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫		スモールステップで繰り返し学習を積み重ねる単元構成により、4技能5領域をバランスよく扱い、「知識・技能」が身につくようにしている。児童が主体的に取り組むことができる目的・場面・状況を伴った言語活動が充実しており、「思考力・判断力・表現力」を育てられる。「英語を使ってお互いを知る」「世界をより深く知る」という相互理解や国際理解につながれるようになっている。また、単元目標と評価の3観点を単元冒頭に明示し、振り返りスペースを適宜紙面に掲載して、児童の自己調整力を育成できるようになっている。	音声から文字への学習をスモールステップでスムーズに行うことで、4技能5領域の「知識・技能」をバランスよく育成できるようになっている。他教科・キャリア教育・SDGsなどと関連させて、学習したことを実生活・実社会に活かせるよう配慮されている。また、各単元に相手意識、目的意識をもって取り組む言語活動が設定されており、「思考力・判断力・表現力」を育成できるようになっている。	1年間に3つの大きな言語活動の目標を設定し、自ら立てた目標に向け学習を積み重ねていくことで、スパイラルに学びが深まっていく構成となっている。豊富なインプットと児童が「英語で言いたくなる活動」をスモールステップで積み重ねていくことで、「知識・技能」を身につけられるようにしている。また、目的や場面、状況に応じ考えながらコミュニケーションを図る力を養う活動により「思考力・判断力・表現力」を育成できるよう工夫されている。
	ア. 言語活動を充実するための工夫	単元の内容に関わる既習事項を復習できるように、見開きごとに「Small Talk」が設定されている。単元末の「Enjoy Communication」では、既習の語彙や表現をコミュニケーションに活用しやすいよう、例文や説明が載せられている。「Watch and Think」は、登場する人物に向かって伝えたい内容を考える構成であり、容易に目的・場面・状況の設定ができるようになっている。	「Let's Try」や「Activity」などでは、児童がやりとりで使うキーワードが的確に提示されている。また、よりよいコミュニケーションを図ることができるよう、活動のアレンジアイデアも提示されている。	大単元末の「JUMP」では、活動の流れが丁寧に示されている。目的のためにどのようなことを伝えたいか、目標を立て、既習表現の確認・言語活動に向けた準備や修正、ふりかえりなどを紙面に沿って進めることができるよう構成されている。
	イ. ICTを活用した学習活動の工夫	各ページにQRコードがついており、語彙や表現を中心に音声面でのサポートが得られるよう工夫されている。各単元の冒頭「Starting Out」では、推測しながら聞いたり単元の目標をつかんだりしやすいよう、キャラクターや世界の子供達が話している映像が用意されている。別冊の「My Picture Dictionary」にもQRコードがついていて、音声の確認も容易にできるようになっている。	項目ごとにQRコードがついており、教師や児童が読み込みたい項目にアクセスしやすくなっている。各単元の冒頭「Let's Watch and Think」では、推測しながら聞いたり単元の目標をつかんだりしやすいよう、キャラクターや世界の子供達が話している映像が用意されている。別冊の「Word Book」にもQRコードがついていて、音声の確認も容易にできるようになっている。	項目ごとにQRコードがついており、教師や児童が読み込みたい項目にアクセスしやすくなっている。別冊の「My Dictionary」にもQRコードがついていて、音声の確認も容易にできるようになっている。
	ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫	各単元の冒頭「Our Goal」では、単元目標が示されており、見通しを持って学習を進めることができる。言語活動に向かって見通しを持つことができるよう、各ページには単元における学習活動が示されている。「Your Goal」では、活動前に会話や発表で気をつけたいことや活動後の振り返りを記入することができるようになっており、その内容が別冊の「CAN-DOの樹」と連動するようになっている。	各単元の冒頭に設定されている「GOAL」では、見通しを持って言語活動に向かえるよう単元目標の提示や学習内容が示されている。各単元後には、巻末の「CAN-DOチェック」の振り返りを行うことで、技能・領域ごとに身につけた力の自覚と達成感が積み重ねられるよう工夫されている。「Let's Try」や「Activity」などでは、それぞれの活動で身につく能力について児童が意識できるように提示されている。	各Unitは、「HOP」で見通しをもち、「STEP」で練習を重ね、「JUMP」で目的・場面・状況に応じて発表するという構成で、学ぶプロセスを「見える化」している。見通しを持って学習を進めたり、どんな発表をするかイメージを持ったりできるよう、児童が単元目標を立てる手助けとして「HOP」では、3つの動画が用意されている。
	エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	「Enjoy Communication」では、会話を続ける表現例が1つずつ紹介されていて、年間を通してやりとりを充実させるあいづちがスモールステップで獲得できる作りになっている。友達とやりとりをしたり発表したりする活動の際に、よりよい話し方や聞き方になるようなヒントがTipsの項目で示されている。	「Let's Watch and Think」「Around the World」「Our World」には、自分と世界の友達との共通点や相違点を見つけながら聞くことができるよう、世界中の子供達の単元の内容に関わる動画が用意されている。「Activity2」では英語を使った反応の例が1つずつ紹介されていて、年間を通してやりとりを充実させるあいづちがスモールステップで獲得できるよう工夫されている。	「JUMP」では、相手を意識しながら発表内容を充実させることができるよう、手順や表現について具体的に示されている。よりよい話し方や聞き方を意識できるようなポイントが随所に示されている。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	単元末の「Check Your Steps」は、これまでの活動に修正なども加えながら、さらに発展させてスピーチに挑戦できる仕組みとなっている。別冊の「My Picture Dictionary」は、これまでの既習表現が一覧で確認できる構成となっている。	「Let's Try」や「Activity」では、課題解決の手助けとなるよう活動の参考になるコメントが示されている。別冊の「Word Book」は、これまでの既習の表現が一覧で確認できる構成になっている。単元末の「Around the World」の一部では、日本を含む世界の国々のフードロス解消に向けた取り組みを紹介している。	「JUMP」では発表や聞き方のポイントが示されており、Lessonごとの振り返りを通して身に付けた力をどう「JUMP」で活かしていくか、常に児童が考えられるような構成となっている。別冊の「My Dictionary」は、これまでの既習の表現が一覧で確認できる構成になっている。	
③他教科との連携の工夫	社会科や国語科などに関連する単元が組まれており、他教科と関連付けて英語を学習できるよう工夫されている。また、「Over the Horizon」では、世界の国々の文化や慣習に加え、キャリア教育にも通じる様々な職業について知るきっかけともなる、日本で働く外国出身者のインタビューが設けられている。「日本探検」では、日本の伝統や文化、歴史などへの理解も深められるようになっており、国際理解教育や多文化共生教育の観点も取り入れられている。	社会科や道徳などに関連する単元が組まれており、各単元の見開きページ右下には他教科等やその他教育課題との関連がアイコンで示されている。「Let's Watch and Think」「Around the World」「Our World」では、世界の国々の文化や慣習について取り扱っている。「Story Time」では、日本の文化や伝統に関する内容を取り扱っている。兵庫県に関して、5年P43ではそろばん、6年P24では姫路城が紹介されている。	Lesson6では、社会科と連携できるように県庁所在地クイズや名所紹介をする構成になっている。(例:「It is in Fukui.」5年P82)巻末にプログラミング学習と関連した項目が設定されており、他教科と関連付けて英語を学習できるよう工夫されている。SDGsへの理解を深めることができる題材が設けられている。5年P93で、日本の名所・名物紹介として、兵庫県からは明石だこが示されている。	
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	図や写真などは、はっきりとした色使いや適度な大きさとなっている。Unit1「Sounds and Letters」では、左利きの人も手本を確認しながら文字練習ができるよう工夫されている。紙面に用いられているイラストには、統一感があり見やすくなっている。	図や写真などは、はっきりとした色使いや適度な大きさとなっている。5年P114でアルファベットを書く際には、点をつないで書きやすくする、左利きの人も手本を見やすくする等、配慮されている。	図や写真などは、やさしい色使いや適度な大きさとなっている。	
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	ユニバーサルデザインフォントが使われている。絵の中に文字を示す際は、白い文字の上に文字が書かれており、文字がよく見えるように工夫されている。ページの数字だけでなく、全てのページに英語表記でページが示されている。	日本語はユニバーサルデザインフォント、英語は視認性の高いフォントが使われている。ページの数字だけでなく、全てのページに英語表記でページを示している。	ユニバーサルデザインに配慮した独自の専用フォントが使われている。「Panorama」では、絵の中に文字を示す際、白い背景の上に文字が書かれており、文字がよく見えるように工夫されている。	
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	「Unit」(1単元)の時間数は8時間となっており、学期末には2時間のまとめの時間を配置している。各単元の発表・やりとりで使用する文の数として4文が例示されている。学期末のまとめには例示されていない。	「Lesson」(1単元)の時間数は8時間となっており、学期末には2時間のまとめの時間を配置している。各単元の発表・やりとりで使用する文の数として、2文～7文が例示されている。学期末のまとめには例示されていない。	「Lesson」(1単元)の時間数には、5時間のものと7時間のものがあり、学期末には2時間のまとめの時間を配置している。各単元の発表・やりとりで使用する文の数は2文程度が例示されている。学期末のまとめには4文～6文が例示されている。	
⑦判・ページ数	A4判 5年106、6年106、5・6年(別冊)50	A4判 5年138、6年138、5・6年(別冊)34	A4判 5年122、6年122 AB判 5・6年(別冊)50	

12 外国語(英語)		17 教 出	38 光 村	61 啓林館
発行者・教科書名		ONE WORLD Smiles	Here We Go!	Blue Sky elementary
観点				
19	①教科目標から見た編集の適切さ・資質・能力の3つの柱の育成に向けた工夫	シンプルな紙面と単元構成にして、見る、聞く、歌うなどの慣れ親しむ活動から徐々に話す、書く活動へつなぐことで、4技能5領域別に設定された目標を無理なく達成できるよう、内容が選択・配列されている。実際の使用に即した場面設定、興味を喚起する話題、他者と関わり合いながら進めていく活動を豊富に配置し、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成できるようになっている。	学年ごとに行えるようになることを明確にするために、学年目標を設定している。Unitごとに重点的に扱う領域が設定されており、学習の目標が明確になっている。また、各単元末のまとめでは、4技能5領域の活動で発信できるように構成されている。既習表現を意図的に扱うことで定着を図ったり、扱った話題を友達に伝えるなど自分なりに活用したりする活動を通して「思考力・判断力・表現力」が培われるよう工夫されている。	「言語材料に慣れ親しむためのインプット活動から、慣れ親しんだ語彙や表現を用いたミニアウトプット活動に進む」を繰り返すことで、少しずつ「わかった」を積み重ねることができる構成になっている。たくさん考える場面に出会うことで思考力を養うことができるようになっていく。世界の様々な人々の生活や考え、文化を紹介するコーナーを設けることで、多様な価値観を知り、「相手に配慮できるこころ」を育てることができるよう工夫されている。
	ア. 言語活動を充実するための工夫	単元末の「Final Activity」では、児童がやりとりで使うキーフレーズが的確に提示されている。また、よりよいコミュニケーションを図るための、活動のアレンジアイデアも提示されている。	「Jump!」の中の「Let's speak.」では、既習表現を使ってやりとりをしたり発表したりする例が提示されている。	「Activity」では、言語活動の場面設定にしたがって、教科書に記録しながら活動を進めていく構成になっている。各学期末の「REVIEW」では、Unitごとに学んだ表現を目的に合わせて選んだり使ったりして、発表する活動が設定されている。
	イ. ICTを活用した学習活動の工夫	項目ごとにQRコードがついており、教師や児童が読み込みたい項目にアクセスしやすくなっている。各単元冒頭の「Let's Watch」でキャラクターや世界の子供達が話している映像を見ることで、推測しながら聞いたり単元の目標をつかんだりしやすい。	各ページにQRコードが設けられており、語彙や表現を中心に音声面でのサポートが得られるQRコンテンツが用意されている。各単元の「Jump!」内にある「Let's watch and think.」では、内容を推測しながら聞くことができるよう、世界の子供達が単元の内容に関わる話をしていく映像が用意されている。「You can do it!」や「ICTを活用しよう」(5年P89)では、ICTを使ってできる活動が記載されている。別冊の「Picture Dictionary」にもQRコードがついており、音声の確認も容易にできるようになっている。	項目ごとにQRコードがついており、教師や児童が読み込みたい項目にアクセスしやすくなっている。各単元内にある「Friends around the World」や「Did you know?」では、推測しながら聞く練習をすることができるよう、世界の子供達が単元の内容に関わる話をしていく映像が用意されている。
	ウ. 学習を見通したり振り返ったりするための工夫	児童が英語でできるようになりたいことを書けるように、教科書の冒頭には1年間の学習目標が提示されている。単元の冒頭には、教科目標に立ち返ることができるよう単元目標が示されており、単元末には、単元を通して自身に付いた力やまだ足りない力を把握できるよう振り返りが設定されている。	教科書の冒頭に設けている「CAN-DO リスト」では、学習を通じた目標が示されている。単元の冒頭に設けているHop! step Jump!では、見通しをもって学習を進めることができるよう学習内容や単元目標が示されている。単元末に設けている「Jump!」の「ふりかえろう」では、児童が活動を振り返ることができるよう、工夫したことや次に生かしたいことを記述できるようにしている。	単元の冒頭では、見通しをもって学習を進めることができるよう、「GOAL」として単元目標が示され、「Step」には学習内容が示されている。学期の終わりには、既習事項を用いた振り返りや発展学習が設けられている。教科書の巻末には、学年を通して「Can-Do List」が示されている。
	エ. 自ら進んで他者と関わる力をつけるための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫	単元冒頭の「Think」には、単元末にどんなこと伝えたいか考える際、友達と話し合っ考えるように示されている。各単元内の「Activity」では、友達とやりとりをしたり友達に発表したりする活動が示されている。	各単元末の「Jump!」では、話す時や聞く時に気をつけるポイントが示されている。「Let's watch and think.」や「世界の友達」では、自分と世界の子供達との共通点や相違点を見つけられるよう、単元の内容に関わる世界の子供達の動画が用意されている。	教科書冒頭部分には「コミュニケーションで大切なこと」、付録シートには「会話を楽しむフレーズ集」が設けられており、発表場面ややりとりの場面における工夫のポイントが示されている。「Activity」で友達とやりとりをしたり発表する活動の際の、よりよい話し方や聞き方のためのヒントがTipsの項目で示されている。各単元の「Friends around the World」や「Did you know?」には、自分と世界の子供達との共通点や相違点を見つけながら聞くことができるよう、世界中の子供達の単元の内容に関わる動画が用意されている。
オ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	単元末の「Final Activity」では、既習事項を使って友達とやりとりをしたり、発表をしたりするような作りになっており、児童が必要なポイントを意識できるようアドバイスが記載されている。	別冊の「Picture Dictionary」は、これまでの既習表現が一覧で確認できる構成になっている。「言葉について考えよう」では、日本語と英語を比較した際、語順や語彙について様々な発見ができるようにつくりになっている。	単元末の「Activity」には、課題解決に向けた手助けとなるよう参考となるコメントが示されている。	
③他教科との連携の工夫	「Read and Act」(5年P40)には、地震災害の際、活用することができる簡単な英語の指示が示されている。「Let's Look at the World」(5年P87)には、アメリカの手話が紹介されている。SDGsに関わる題材では、17のゴールとの関連がアイコンで示されている。5年P67では、兵庫の名所・名物としてコウノトリ、神戸牛、甲子園球場、淡路島が掲載されている。	他教科等との関連が教科マークで示されている。「言葉の準備運動」(5・6年P10)や「言葉について考えよう」(5年P66・P88 6年P30・P60・P82)では、英語と日本語を比べて共通点や相違点に注目し、国語科と関連づけられている。SDGsに関わる題材では、17のゴールとの関連がアイコンで示されている。6年P26で姫路城、P83では阪神淡路大震災や「しあわせ運べるように」が紹介されている。	Unit6では、家庭科と連携してオリジナルランチメニューを作る構成となっている。(例:「I'd like pizza.」5年P66)では、理科と連携して空の色や太陽などを観察して、天気の変化について考えることができる題材が取り上げられている。(例:「Look at the Sky」5年P104・P105) SDGsに関わる題材では、17のゴールとの関連がアイコンで示されている。	
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	図や写真などは、はっきりとした色使いや適度な大きさとなっている。	図や写真などは、はっきりとした色使いや適度な大きさとなっている。	図や写真などは、やさしい色使いや適度な大きさとなっている。	
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	ユニバーサルデザインフォントが使われている。絵の中に文字を示す際は、白い文字の上に文字が書かれており、文字がよく見えるように工夫されている。ページの数字だけでなく、すべてのページに英語表記でページを示している。	日本語はユニバーサルデザインフォント、英語は独自の専用フォントが使われている。絵や写真の中に文字を示す際は、白い背景の上に文字が書かれており、文字がよく見えるように工夫されている。	UDデジタル教科書体が使われている。ページの数字だけでなく、全てのページに英語表記でページを示している。	
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	音声と文字、復習と振り返りのコーナーが配置されている。「Lesson」(1単元)の時間数は、7時間配当を基本としている。各単元の発表・やりとりで使用する文の数は、2～6文が例示されている。	「Unit」(1単元)の時間数は、7時間配当を基本としている。各単元の発表・やりとりで使用する文の数は、2～6文が例示されている。	「Unit」(1単元)の時間数は、全7時間配当を基本としている。単元末には、異文化理解を促す豊富な情報が盛り込まれている。各単元の発表・やりとりで使用する文の数は、2～6文が例示されている。	
⑦判・ページ数	A B判 5年140、6年140	A B判 5年153、6年145	A 4判 5年152、6年152	

13 道徳	2 東 書	17 教 出	38 光 村
発行名・教科書名 観点	新編 新しい道徳 教材末の「考えよう」では、道徳的価値について理解することができるように、中心発問には◎が付されて掲載されている。はじめに「どんな学びをするのかな」、巻末には教材一覧表が設けられている。「どんな学びをするのかな」は、単元としての扱いはなく、授業外で扱うことになっている。考えるためのツールとともに、QRコンテンツには資料が用意されている。文章を通して深く考えることに重点を置いている。QRコンテンツでは、「朗読音声」「スライドショー(紙芝居)」「デジタルノート」を全ての教材に用意してある。この3つのコンテンツに加え、導入や週末で使える動画資料や、直感的に操作できる思考ツールが用意されている。	小学道徳 各教材には主題名の記載とともに、学習の4視点のうち、どれに該当するかがマークで示されている。巻末の資料には、2年で「マナー」、5年で「SDGs」が掲載されている。特に、学校生活に少し慣れてきた2年での「集団生活のマナー」は有効である。3年以上でタブレット端末の使い方を大きく取り上げている(5年P6・P7)。重点テーマをユニット教材として設定し、2つの教材と1つのコラムで構成されている。3年生の「いじめ問題」では、いじめの具体例を挙げられており、コラムでは「どうすればいじめをなくせるか考えてみよう」と呼びかける問いとともに深く学ぶことができるようにしている(3年P54～P63)。また、他者との関わりの中でよりよい答えを考えていくことができるように、教材内に体験的な学習や問題解決への手順に沿って考えられるように工夫されている。	道徳 全学年を通して、教材末に学習の手引きが設けられている。教材冒頭にキャラクターによる児童への呼びかけの言葉が示されており、「自分ならどうするだろう」、「どう考えるだろう」という主体的な姿勢で学習に取り組むことができる。「道徳が始まるよ」では、「道徳で学ぶ20のとびら」として道徳科の内容項目が示されている。対話的な学びを重視した内容だといえる。「教材との対話」「他者との対話」「自己対話」を一つの教材の中で行えるように問いの順序が意識されており、教科書に記載されている問いを用いれば、考えを深めていけるように組まれている。そこに問い返しを加えて授業を組み立てていけるようになっている。(6年)巻末に「学びの記録」として、児童自身が授業を3つの観点で振り返り、達成できたら1～4年はシールを貼ることで自身の学びを見つめるページを設けている。
ア、言語活動を充実するための工夫	2～6年の巻頭の「ちょっと話し合ってみよう!」には、ミニ教材とともに議論する際の文言例が掲載されている。「つながる広がる」では、4人のグループをつくり将来の夢についてコメントをもらうよう設定されている(例:しょうらいの夢を語ろう6年P84)。「どんな学びをするのかな?」では、気づく→考える→ひろげる・ふかめるという道徳の学び方についての解説があり、その流れを活用して「もんだいを見つけてかんがえよう」のページが設定されている(全学年、例:2年P6、P108)。	全学年で言語活動を適切に行うことができるように、巻頭に「こんな学び方をするよ」が設けられている。教材末の「学習のてびき」の「考えよう」「深めよう」には、言語活動が充実するよう話し合ったり自分の考えをまとめたりする活動を設けられている(6年P18、P38、P80、目次に「たいけん」と明記)。	4月第1教材には、「話し合うためのこつ」が示されている。図・役割演技・話し合いのキーワードなど考えるヒントを示すことで、様々な手立てを活用できるようにしている。発問の内容が基本的に①人間の弱みに触れる発問や主人公の気持ちに寄り添う発問②主発問(道徳的価値に迫る発問)③自分達の生活に返す発問で構成されており、3つ目の発問を通して、他者の考えに共感や意見を交流できる仕組みになっている。
イ、学習を見通し振り返りをつなぐための工夫 ②主体的・積極的に学びについて工夫	心に残った教材やこれからの生活に生かしたいことを書くことができる「学習の記録」が各学年巻末に設けられており、児童が自らを振り返って成長を実感するとともに、教師の評価にも活用することができる。各教材のデジタルノートや学習の記録のワークシートをダウンロードすることで、ICT端末を使って道徳科の学びを蓄積し、児童が成長を実感するとともに、教師の評価にも活用することができる。	教材の冒頭には「導入」を設け、目的をつかんでから学習に入れるようにしている。各学年の巻頭には「道徳ではこんな学び方をするよ」巻末には「1年間の学習を振り返ろう」が設けられており、6年間の学習を通して自分自身を深く見つめ、自分の成長を実感し、これからの課題や目標を見つけることができる。教材の最後に学習を振り返る「まなびチェック欄」があり、教科書に書き込めるようになっている。巻末には4つの学習の振り返り欄(学期ごとに1枚)と1年の学習を振り返る欄があり、切り取っての提出が可能である。	巻末には、学びの記録として、1時間ごとのふり返りを記録するページが設けられている。学期ごとに色分けされており、35回分記録することができる。巻末の「学びの記録」は切り離して使用することができるようになっている。中学年は観覧車のようなデザインにシールを貼って簡単に振り返ることができるように工夫されている。教科書のはじめには①「道徳のはじまるよ」が道徳開きの一授業として設定されている。その内容も発達段階に合わせて主題の言葉を変えている。話し合いのこつや、年間の流れをすくろく風に見通せる工夫がされており、子供たちどのように学んでいくのが共有しやすい。
ウ、自ら進んで他者と関わりをつなぐための工夫や体験的な活動を取り入れるための工夫 ③問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	各学年に実践活動や体験活動との関連を図った教材が配置されている(例:2年P106、5年P44)。役割演技したことを演じた側と見る側の両方から意見を交流できるようになっている。他者と関わる中で友達の良さに気づき、感謝の言葉を伝える経験をすることができるよう、「ありがとうシート」でやり取りする活動が設けられている(例:2年P104、4年P110)。全学年の「つながる広がる」では、物語と連携するページが設けられている。	「たいけん」には、モラルスキルトレーニングや役割演技などの体験的な学習を取り入れやすい教材が配置されている。4・6年以外の「たいけん」には、あいさつの教材が配置され体験的な学習を設定している(例:あいさつのしかた2年P16、場面に合わせたあいさつ5年P16)。	他者とともに考えを深める手立てとして、教材文のあとに話し合いの展開例が記載されている(6年P114・P115)。役割演技として、自分ならどのように返答するのか、アサーティブな考え方を基に自分も相手も気持ちよく過ごしていける方法について考える場面が設けられている(例:教えてあげる? 持つてあげる? 3年P44～P47)。1年では役割演技により実感を伴って気持ちに迫ることができるようにしている。
エ、個々の考えを深めるための工夫	教材末の「考えよう」では、道徳的価値について理解することができるように、中心発問には◎が掲載されている。全学年の教科書巻末「考えるためのツール」には、心のメーターや心のものさし、心の地図などが用意されている。4年生からは、さらに心情図が追加されている。教材が文章ではなく漫画のものがあ、考えやすいように工夫されている。	「学習のてびき」では、議論しながら自分の生き方について考えを深められるよう構成されており、それぞれの役になって演じてみる教材が用意されている。キャラクター「マナビ」により、導入部分で話題提示したり考えを深めるポイントを問いかけたりしている。教材末の「考えよう」では、教材内容を理解するための発問(○)と中心発問(★)が設定してある。教材だけに留まらず、実生活で生かせるよう考えを深めていくために、「深めよう」では物語の冒頭にある主題に迫る発問が用意されており、「つなげよう」では自分の生活に学びを返していくような発問が用意されている。	3ステップで考えが深まっていくよう問いを構造化されている。自由について迫っていく対話の流れが記載されている(例:「自由って何だろう6年P171～P173)。「学びの道具箱」には、「学び方を学ぶ」ための手立てとして、ピラミッドチャートやフィッシュボーンといった思考ツールが掲載されている(6年P204・P205)。また、中学年では表、くらげチャート、お話カードの活用方法が掲載されている(3年P172・P173)。教材が文章ではなく漫画のものがあ、考えやすいように工夫されている。
オ、問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫	全学年に問題解決的な学習と、役割演技や動作化など道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた教材が掲載されている(2年P94など)。「どんな学びをするのかな?」の中の「問題を見つけて考えよう」では、課題や問題に対して立ち向かい考えることができるよう、「学校をより良くするには」という例が示されている(4年P156)。	全学年で教材末に「かいかつ」という表示をつけた教材を設定している。身近にも起こりうる出来事を教材文として設定し、教材後の「問題を解決しよう」というコーナーにて自ら問題を見出し考えることができるような発問が設けられている(例:もうやらない! 2年P26、図書館はだれのもの5年P59など)。	お互いを大切にしながら友だちとの関係性を築くための活動が5月の終わりに教材として配置されている。3～6年に「考える準備体操」が、9月に配置されている(例:けんかをたけど2年P30、みんな、おかしーよ! 5年P38)。全学年の「心を通いつけよう」では、よりよいコミュニケーションについてトレーニングできるようにしている。各教材の「考えよう・話し合おう」には、物語を理解した上で、全体で考えたい問いが設けられている。
③他教科との連携の工夫	全学年において、他教科等と連携している教材が掲載されている(例:ヒヤリハット5年P24、今日からできるエンカ消費P83)。関連教材や教科名、具体的な方法について示されている(例:「命について考えた授業」より、命について書かれた本を紹介【国語】5年P126、QRコンテンツとして生き物の動画を掲載【理科など】4年P68)。また、リンクする教材名について示されている。	学習時期と教材内容の季節が一致するよう教材を配列している。巻末の学習内容一覧で関連する教科を示している。「まなびリンク」には、教材ごとにQRコンテンツとして、関連図書の紹介、参考になるウェブサイトなどが用意されている。「新渡戸稲造」「杉原千敏」「山中伸弥」などの人物教材では、他教科との関連を意識し、人物が成し遂げたことを紹介するとともに、当時の写真や、書物を紹介している。特に、5・6年では、人物の扱いが多い。	第2学年以上の教材末「つなげよう」では、他教科で学習する内容との関連付け、特別活動や学校行事との関連付け、関連する内容の図書などが示されている。他教科との連携について教材に明記されているわけではないが、国語や理科、社会との連携を意識した教材が配置されている(例として、「エルトゥールル号-友好のはじまり」や「五十五年目の恩返し」など)。最後のページには「他教科・領域との関わり」を記載している(6年P208)。
④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)	色分けによる判別を避け、デザインや文字を使って児童が情報を読み取ることができるように配慮されている。挿絵は文章の邪魔にならないよう控えめな掲載となっている。挿絵の中にも「ずかん」「うぐいす」など、わかりやすい表示がある。挿絵に合わせて文章の配置が工夫されている。紙面のカラーが見やすい。(真っ白ではない)	挿絵はデジタル的なものではなく、温かみのあるタッチで描かれたものが多い。イラストは小さめである。	紙面の色合いが見やすい(真っ白ではない)。表やグラフはその学年までに学習した他教科の内容を踏まえたものになっている。挿絵と写真のバランスがよく、見やすく配置されている。写真がメッセージ性を意識して、中央に大きく配置されている(例:クジラとプラスチック6年P66・P67、命の旅P70～P75)。挿絵が、命の連続性を感じ取ることができるように、細かく表現されている。(例:スチヌグスー命の祭り3年P166)。自分の生活や心の動きと挿絵と結びつけながら考えられるよう挿絵を大きくしている。挿絵には登場人物名を記載している。
⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)	UDフォントを使用している。1年・2年では教材本文を文節ごとに分ち書きされるとともに、文節で改行されている。教材末の「考えよう」など、児童への問いかけ文に文節改行が採用され、読みやすくなっている。6年では、文章量が多いが、4ページ以内にまとめるようにしている。全ての教材に「朗読音声」と「スライドショー(紙芝居)」が用意されており、障がいのある子どもや外国人児童など、子どもの特性に合わせて教材提示の方法を選択できる。	基本はUDフォントを使用し、ふりがな、発問や手紙の部分はゴシック体にするなど使い分けられている。文字の大きさは発達段階に応じ、できるだけ大きくしている。1年・2年の7月教材までは、分ち書きされており、2年の9月教材までは文節改行がされている。QRコンテンツとしてはほぼ全ての教材に解説が用意されており、教材文への理解を助けている。	光村教科書体が使われている。文字が小さい吹き出しにはUDフォントが使われている。文字の大きさは、発達段階、教材の内容によって配慮されている。1年生では、全て平仮名で表記されている。1年生の4月教材では、文字の学習をしていなくても考えることができるように文字を少なくしている。熟語の混ぜ書きを避けている。写真の上に文字が載る場合は、周りを白抜きできるようにしている(5年P54)。児童にとって馴染みの少ない言葉については、QRコンテンツによって画像や文章によって解説がなされている。
⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)	学習指導要領「総則」の道徳教育に関する配慮事項で示されている記述から、これまでの道徳教育の状況調査を踏まえ、全学年を通しての重点内容項目と、学年の段階を配慮した重点内容項目を設定している。重点内容項目では、2～3教材を配列している。現代的な課題について扱う5つのユニットを、指導に最適な時期を考えて、すべての学年で同じ時期に配列している(ただし、1年はのぞく)。1年から6年まで、学年ごとの発達の段階に合わせて教材を選び配列している。	「道徳で学習すること」「道徳の学び方」「本教材とコラム」「補充教材」「巻末資料」「ふり返りシート」で教科書が構成されており、1年間の学習の流れが見通せるようになっている。教材は、「視点と主題名」「導入」「教材文」「学びの手引き」「自己評価欄」で構成しており、1時間の学習の流れが見通せるようになっている。他教科や特別活動と連携しやすい時期に教材を配置し、学習効果が高まるようにしている。	学校生活の実態と児童の1年間の成長を考慮して、1年間を3つのまとまりに分けて構成している。「生命の尊さ」をテーマとした教材が、各学期1か所ずつ(年間3か所)位置づけられており、児童が「命」の大切さを考え、継続的に自らを大切にすることを考えられるよう意図した編集がなされている。教材とコラムとを組み合わせた「ユニット」が年間4か所(第1・2学年は2か所)に位置付けられており、地域・学校の実態に合わせた扱いができるように配慮されている。
⑦判りページ数	AB版 1年146、2年162、3年178、4年180、5年188、6年196	AB版 1年161、2年161、3年169、4年169、5年185、6年185	B5変型 1年135、2年167、3年185、4年193、5年197、6年215
⑧現代的な課題への対応	5つのユニット(いじめ、いのち、自分、情報モラル、安心・安全)がすべての学年に設定されている。いのちに重点が置かれている。「インフォデミック」「フィルターバブル」「エコチェーンバー」などの現代的な課題について、用語説明とともに考えることができるようになっている(例:6年P60)。	いじめ・情報モラルでは、ユニット化により全学年において重点テーマとして位置づけられている。LGBTQについて考えることができる教材として、偏った見方にとらわれないよう、お父さんペンギンの2羽が卵を温め子どもを育てる物語が記載されている(例:タンタンタンゴはパパふたり3年P124～P128)。他者への理解を促し、他者を尊重する心が養えるようにイラストに配慮している。新型コロナウイルス感染症などへの配慮した教材が掲載されている(例:雨あがりのあさに6年P56)。性別の偏りがなく、人物やキャラクターが配慮されている。SDGsに関連する教材として(例:食品ロスをどう防ぐ5年P112)、ジェンダーに配慮した教材(例:真琴と勇介6年P50)が設けられている。特に大切にしたいテーマにはマークが示されており、その教材と合わせて自分と向き合い考える内容のページが掲載されている(例:いじめをなくす4年P38～P39、日本のよさP114～P115)。	全巻を通して「みんな生きている」の詩が掲載されている。全学年を通してさまざまな内容項目から「いじめ問題」に結びつく教材とコラムを組み合わせたユニットが設定されている。また、5・6年生ではハンセン病や人種に関する差別問題なども扱っている。SDGsを自分のこととして考えることができるよう6年間17の目標すべてに触れられるようになっている。3年生では、「いじめをゆるさない心」「情報と向き合う」「自然とともに」「ともに生きる」という文言でユニット設定しており、コラムも掲載されている。中・高学年では「情報モラル」に関わる教材が取り上げられており、インターネット上のやり取りについて、家庭と連携し考えを深めていくことができる内容となっている。各学年のキャラクター、教材の設定、題材、挿絵では、性別の偏りがなく、人種・身体的特徴などについても多様な人々がいることを当たり前と感じられるように工夫されている。

13 道徳	116 日 文	208 光 文	224 学 研
<p>発行者・教科書名</p> <p>観点</p> <p>①教科目標から見た編集の適切さ・資力・能力の3つの柱の育成に向けた工夫</p>	<p>小学道徳 生きる力</p> <p>冒頭に「道徳の学び方」「道徳のとびら」では、オリエンテーションページとして、道徳科の意義や学び方などがわかりやすく示されている。「ぐっと深める」では、役割演技や問題解決的な学習として意見を交流しながら、対話をしやすいように授業展開の一部が載せられている(6年)。自分を認める心の育成のために、自己肯定感を高めるコラム「心のベンチ」が設定されている(例:自分をホメホメ作戦4年P128など)。QRコンテンツとしてすろくやクイズなどのアプリケーションが用意され、児童が楽しみながら学習活動を行う工夫がなされている。</p>	<p>小学道徳 ゆたかな心</p> <p>各教材には、冒頭に「導入」、末尾に「かんがえよう」「まとめよう」「ひろげよう」を設置し、1時間の授業の目的や流れを明確にしている。導入でもった問題を意識して学習に臨み、終末で学習内容を振り返ることで、開始時と終了時における考えや心の変容について実感できるように設定されている。絵や図を使って思考することを具体的に説明している。道徳の授業においてノート作りの重要性・有効性を訴えている。QRコンテンツの質が高く、関連した動画等にリンクしている。道徳用ノートを推奨している。目次には、「〇年生でとくに考えたいこと」として、「生命の尊さ」「いじめを生まない心」「相互理解」「寛容」を取り上げており、深い理解を促すことができるよう、それらに関する教材は複数連続で掲載されている。道徳授業で意識してほしいことや付けたい力が紹介されている(P2～P4)。「ひろげよう」では、思考から実行へと移すために「実行してみよう」と呼びかける問いが用意されている(6年)。</p>	<p>新版 みんなの道徳</p> <p>全学年の巻頭には、オリエンテーションとして道徳の学習を始める際に大切なことが紹介されている。「つながるわたし、ひろがるわたし」には、今の自分を記述するページがあり、巻末の「つながよう」「ひろげよう」に繋がっている。(心のノートのようなもの)巻末のQRコンテンツ一覧から、内容が分かるようになっている。「いのちの教育」を重点テーマに掲げ、多様性に気づき、認め合うことに関する教材とともに、「いじめ防止」では、考えを深めることができるよう、ユニット構成(いのち・多様性・未来)となっている。未来に向かってのユニットでは、未来をつくっていくためには自分達で行動することができるように教材を設けている。多くの人物教材が掲載されており、「羽生結弦」といった今も活躍している人物が題材となっている。</p>
<p>ア. 言語活動を充実するための工夫</p>	<p>協働的な学びを重視する観点からベアトワークやグループワークの学習形態が各所で示されている。付属の道徳ノートでは、考える・話す・聞く・書くについて、それぞれの活動が促されている。「見つめよう・生かそう」の発問の中には、「どんな考え方がたいせつか、学んだことを話し合おう」「失敗を許した経験について発表しよう」といった全体で共有したり、議論したりする場面が設定されている(6年P13・P17)。3年では、他者との意見交流が活発にできるように、「その時の気持ちを話し合ってみよう」と発問されている(3年P101)。</p>	<p>オリエンテーションでは話し合い活動についての方法を掲載している。道徳用ノートの活用例が提示されており、書いてまとめることによって理解を深めたり整理したりすることができるように示されている。本編の教材では題材と関連する本を読む読書活動や考えたいことをノートなどに書いて言語化する活動を提案している。自己の考えを整理したり、発表したりする際に活用できるよ、言葉のカード(対話ツール)を紹介している。4年には心情円、ウェビングなどの思考ツールを紹介し対話のヒントが示されている。「考えよう」では、物語の登場人物に自己関与できる発問が用意されており、その後の「まとめよう」「ひろげよう」で自身に視点を移して、自分事として考えられるようにしている(6年)。</p>	<p>話し合い活動や記述などの言語活動が教材の随所に取り入れられている。「心のパスポート」のページでは、教材をきっかけに、自身の身の回りのことや自分の考えについて問い、自分の思いを教科書に記入できるようにしている。「考えよう」の2つの問いには、「物語に寄り添う問い」と「自分自身に返す問い」が用意されており、後者は他者と考えを出し合いながら深めていくことができるものとなっている。教材文後にある「深めよう」の中には、話し合いが深まるように「かつどう」「さがそう」などの問いが設けられている。</p>
<p>イ. 学習を見通し振り返り振り返りを行うための工夫</p>	<p>各教材にはすべての内容項目を児童向けの言葉にした「キーワード」が記載され、また道徳的価値、教材に関わる導入の発問例が示されているため、見通しをもって学習することができる。付属の道徳ノートに記録を残していく。中はカラーになっており、内容項目の区分に合わせて色やマークを変えている。自由に記述できる欄も設けられているため、その授業で出た問いや話し合った内容をそこに記録できる。全学年の学び方には話し合ってみよう、動いてみよう、書いてみようという分け方で写真でわかりやすく表現されている(例:3年・6年P2～P5)。</p>	<p>オリエンテーションでは、「どうしてだろう」「なぜだろう」と子供が常に問いをもって授業に臨むことの重要性を示し、各教材においても導入での問いを持たせる活動や「考えよう」の問いかけを通して子供がただ教材を読むのではなく、自主的・主体的に問題について考える学習ができるような工夫をしている。「学びの足あと」には、授業の記録を残せる工夫がされており、授業を受けた後の気持ちを心の矢印で表現する枠が設けられている。また、一言その理由や、感じたこと、やってみたいことを書く欄があり、1枚のシートに自分の考えを残していくようになっている(巻末)。「どうとく」の時間は、こんな時間ですでは、まず「とく」を見つけようから始まっており、教科書や生活の中から問いを見つけ、そのことについて授業で考えたり話し合ったりする流れを説明している(3年P4、5)。</p>	<p>各学年巻頭に「つながるわたし ひろがるわたし」、巻末に「つながよう ひろげよう」を設け、児童が自身の成長をふりかえり、課題や目標を見つけることができるように工夫している。全学年の教材(1年P48以降)には、教材名ともにキーフレーズが載せられている(なお、見開き1ページ教材は除く)。「道徳の学習が始まるよ」では、「見つめよう、考えよう、生かそう」の3つのステップで考えを広げ、深めていく過程が紹介されている(5・6年P8、9)。巻末の「つながよう 広げよう」では、学習で心に残ったお話や出来事だけではなく、友達や先生の言葉や家の人に伝えたい言葉なども記録する欄が設けられていて、最後には次の学年になる自分へメッセージが書けるようになっている。</p>
<p>ロ. 主体的・積極的に学ぶ工夫</p>	<p>体系的な学習を取り入れることが効果的と考えられる教材のあとに「ぐっと深める」が挿入され、具体的な活動例や留意点が示されている(例:およげないりすさん2年P42、折れたタワー5年P82)。「心づかいと思いやり」のページには、体験を通して、思いやりについて考えてみようというあてで、役割演技や話し合いを行う場面が設定してある(6年P30・P31)。「ぐっと深める」では、ねらいとする道徳的価値理解を深めたり、教材に出てくる人物の思いに迫って考えたり、体験的に学んだりすることができるように役割演技が取り入れられている。「たとえば、次の場面をえんじてみましょう」という形で役割演技をしながら話し合う場面が設定されている(3年P24・P25)。また、「ブルラッシュ」では、教材をきっかけに「世界の遊び」について興味を持って調べたり、実際に実践して世界の国々に生きる人への理解を深めたりすることができる(4年P20)。</p>	<p>全学年とも見開き1ページに「みんなでやってみよう」を設置し、よりよい人間関係の構築に必要なコミュニケーションスキルを高めるための体験的な活動を提示している。全学年の「話し合い活動の手引き」では、言葉のカード(対話ツール)などが設けられている。実際にありそうな場面を例に、理不尽なお願(宿題見せて等)に対して、どのように返答するかをシミュレーションする場面や返答例を用意している(例:ナイスリターン(おたがい)に納得するには6年P30・P31)。「ドンマイ!ドンマイ!」で学んだことを生かしたシミュレーションが設定されており、互いに気持ちの良い関係を築けるよう相手の気持ちを考えて話し合う場面がある(例:ことばのキャッチボール(ナイスボールをなげよう)3年P28・P29)。</p>	<p>体験的な学習にあった教材が随所に取り入れられている(例:こだまごっこをしてみよう2年P81、二人の役を演じてみよう5年P63)。「深めよう」のページには、教材を自分事として考えるとともに、話し合い活動を通して、より良い選択を考える活動が設定されている(4年P67)。「心のパスポート」では、「2人になって考えよう」と物語の登場人物になりきって物語の続きを演じたり、見ていた人から演じた人の順番で考えたことを発表したりする場面を設けている(6年P92、5年P63など)。</p>
<p>ハ. 個々の考えを深めるための工夫</p>	<p>自発的な思考となるよう「導入」→「考えてみよう」→「生かそう」という流れで発問が設定されている。全学年、各物語の冒頭には、分かりやすい言葉でその話に関する主題とともに短い文章であらすじが掲載されている。「考えてみよう」という中心発問になる問いと「見つめよう・生かそう」と自分たちに返す問いが物語の最後に用意されている。「道徳ノート」によって児童が自分の成長を見つめられるようにしたり、教師が個々の考えについて把握し評価に役立てたりできるよう付属されている。QRコンテンツとして、教材の主人公が登場する動画や想像を膨らませるための画像などが用意されている。教材が文章ではなく漫画のものがあり、考えやすいように工夫されている。</p>	<p>教材の内容を自分事として考えられるよう、登場人物を同年代として設定し身近に起こり得ることを問題や課題としている(例:深く息を吸って4年P62)。「いろいろなやり方で考えてみよう」では、絵や図を使って考える方法や考えを深めるための方法(心情曲線、Yチャート、Xチャート、クラゲチャート、フィッシュボーン)、やってみて考える方法(役割演技)が記載されている(6年P6、P7)。指定された教材でフローチャート、ベン図、ウェビング、半同心円といった思考ツールの使用を勧めている(例:このお話の学習でつなごう3年P6・P7)。</p>	<p>「深めよう」では、「つかもう、探そう、ふみだそう」から「自身に訴えかける発問」「教材から考えを広げる発問」「これからの未来へとつなげる発問」の3つの発問で構成されており、ワークシートになっていることもある(6年P17など)。考えるきっかけのマークとともに、ふきだしが考えるヒントとして教材の途中に設けられている。教材が文章ではなく漫画のものがあり、考えやすいように工夫されている。</p>
<p>ニ. 問題解決的な学習や課題発見ができる教材の工夫</p>	<p>「ぐっと深める」には、効果的で問題解決的な学習方法として、「問題をつかむ活動」や「考える活動を促す発問」などが示されている(例:一りん車2年P24、これって不公平?5年P158)。教材のはじめには「導入の発問」、教材の最後には「考えてみよう(中心発問)」「見つめよう・生かそう」の3つの発問により、教材に入り込んで考え、学んだことから振り返って考えられるように単元が構成されている(全学年)。</p>	<p>オリエンテーションでは、道徳の授業で考えたことを日常生活に生かし、さらに生活の中で生まれた問いをもって道徳の授業で考えるという流れが表現されている。「考えよう」では、問題の解決に向けて取り組むことができるように、教材の最後として2つの問いかけが設けられている。「みんなでやってみよう」では、実際に友達との実演を通して体験的に問題解決の方法を探れるよう、教材をきっかけに自分達の日常へと考えをつなげるページが設けられている(例:言葉のキャッチボール4年P14)。重点課題の「へこんでも立ち直る力」では、自分の良いところを見つけるページが設けられている(例:自分の良いところを見つけよう1年P116)。「温かいまじゅう」では、「本当の礼儀」とはどんな礼儀かという問いが設けられている。また、「ひろげよう」では、本文に合わせて「本当の礼儀があらわれるようなあいさつをしてみよう」というシミュレーションが用意されている(6年P26～29)。</p>	<p>多様な観点から問題意識を喚起する工夫をしている(例:女性が医師になれる社会へ5年P98)。「ふかめよう」では、道徳的価値を多面的・多角的に学ぶことができるようになっている。「チョモランマ清掃登山隊」では、好奇心をかき立てられるように「世界で最もきたい山。」として、教材のタイトルの下にあるキーフレーズが掲載されている(6年P12)。</p>
<p>③他教科との連携の工夫</p>	<p>「ぐっと深める」では、児童の体験をもとに考えられるよう特別活動等での多様な実践活動や体験活動を生かした学習の展開例が示されている(「和太鼓調べ」5年、「何度でも」2年)。「心のベンチ」のページでは、各教科との関連(国語、社会等)が明記されている(6年P40、P66、P114、P148、P176)。</p>	<p>各学年の他教科での学習や特別活動を意識して教材の題材を精選している(わたしのものがたり2年P144、世界の文化遺産5年P82)、社会科との関連が多く、「鑑真和上」「杉原千蔵」といった人物教材を通して関連を図っている。また、SDGsとの関連は2ページに渡り紹介されており、教材と17の目標の関連が明記されている(6年)。</p>	<p>カリキュラムマネジメントを取り入れた年間指導計画を作成できるように配列を工夫している(例:しぜんのいのち2年P42→【生活】、ぼくがいるよ5年P32→【家庭】)。「心のパスポート」では、「おすすめの本」として関連図書が紹介されている(6年P68、105)。他教科との関連は明示されていないが、一覧が教師用資料に掲載されている。</p>
<p>④写真・挿絵・記号・図等のわかりやすさ(大きさ、カラーユニバーサルデザインなど)</p>	<p>人物紹介の挿絵が分かりやすい。写真が使われているページが多く、物語もノンフィクションのものが多い。どのページにも優しいタッチの挿絵が写真が使われている(6年)。命の連続性を意識しやすいように挿絵が工夫されている(例:いのちのまつりヌチヌグスズー3年P10～P11)。4つの視点を、区別のつきやすい4色と単純でわかりやすいアイコンで示している。</p>	<p>登場人物の紹介や場面状況を描いたイラスト、実物写真などが配置されている。学校などを舞台とした教材では挿絵が掲載され、地域や職業、社会に関わる内容については、写真やグラフなどの資料が掲載されている。文章だけでなく、漫画も取り入れられている(例:「雨のバス停留所」で4年P108)。写真よりも挿絵の割合が多い。文章理解に集中できるように挿絵は小さめに設定されている。家族愛について考えることができるように、アニメ「ちびまる子ちゃん」を題材にした教材が配置されている(3年P120～P123)。</p>	<p>本文との関連付けられるよう図表や挿絵、写真が配列されている。紙面のカラーが見やすい。(真っ白ではない)裏表紙のQRコードより、教科書の全てのQRコンテンツを一度に見ることができる。挿絵の大きさと本文とのバランスが良い。また、QRコンテンツには、教材の内容の写真や実際に働いている動画等が用意されている(巻末に記載あり)。実際の大きさの写真を使っている(例:みんなあかちゃんだったよ1年P36)。挿絵に出てくる登場人物をタイトルの部分に紹介している。</p>
<p>⑤表記・表現のわかりやすさ(字体、文字の大きさなど)</p>	<p>UDフォントを使用している。文字が太く、行間が広い。学年に合わせて文字の大きさを変えている。注釈、ふりがながにも読みやすいフォントを使用している。当該学年以上の漢字には読み仮名をつけている。脚注欄では、難解な語句の解説や教材の読み取りのために必要な補足説明がなされている。全ての教材にQRコードが用意され、読み物教材には朗読音声がある。</p>	<p>1～3年には総振り仮名に、4年からは当該学年以上の漢字に振り仮名をつけている。教材の文章量に伴い、文字サイズは小さいが、少ないページ数でまとめられている。</p>	<p>UDフォントを使用している。見出しや本文は児童の立場に立て、平易で理解しやすく記述している。余白を適度に確保したゆとりある紙面構成になっている。適切な文字の大きさのため見やすい。</p>
<p>⑥単元(教材の配列)の適切さ(関連付け、時期など)</p>	<p>発達段階への配慮とともに、生活目標や学校行事、他教科等の学習内容、伝統的な行事の実施時期などとの関係を考慮して教材が配列されている。学年ごとに児童や学級の実情をふまえ、1学期には学級づくりや学校生活・集団生活の充実(低学年)、オリエンテーションや「よりよい人間関係」の形成(3～6年)、3学期には振り返り、深化、発展(自学年や中学校段階との連携を含む)を意識した内容項目や教材が配置されている。</p>	<p>各学年とも、複数時間で構成された重点課題として「いじめ防止」「生命の尊さ」「人間・人間関係」の3つが設定されている。教材の内容がわかりやすく、かつ考える時間を十分に取れるよう、発達段階に応じて学年ごとの教材の文章量に配慮している。また、学習時期と教材内容の季節が一致するように教材を配列している。</p>	<p>最重要テーマを「いのちの教育」とし、内容項目「生命の尊さ」はすべての学年において3教材配置している。様々な分野で活躍する先人たちに関係する教材などが掲載されている(例:5年P98)。</p>
<p>⑦判り・ページ数</p>	<p>AB版 1年154、2年170、3年186、4年190、5年186、6年194、どうとくの一と1～3年46、道徳ノート4～6年46</p>	<p>AB版 1年162、2年178、3年186、4年190、5年194、6年194</p>	<p>AB版 1年142、2年150、3年158、4年166、5年162、6年170</p>
<p>⑧現代的な課題への対応</p>	<p>「いじめ防止」がもっとも重要なテーマとしてユニット化されており、学級の状況に応じ授業展開できるような工夫されている。また、「人との関わり」について、学期に1回ずつ実施できるよう年間3回配置されており、繰り返し行うことができるようにしている。「スマホ依存症」について取り上げられており、節度ある生活を送るために、情報機器を使う際の注意喚起を行っている(例:カスミと携帯電話6年P36～P39)。また、情報機器を使う際の注意点として、Q&A形式で子どもたちに問いかけられている(例:めざせ!情報モラルの達人6年P40、P41)。SDGsで考えようのページでは、17の目標が明記されている(3年P182)。よりよい社会について考えられるように、福祉や平和・人権教育、キャリア教育、防災など、様々なテーマの教材が設けられている(1年P96～P99、4年P166～P169、6年P50～P53、5年P124～P127など)。教材の挿絵には、様々な特徴を持った子供が登場し、人種、ジェンダーに配慮したキャラクターが設定されている。</p>	<p>「SDGs」「情報モラル」では、全学年でコラムを設置している。全学年に「いじめをうまない心」が重点主題とされており、いじめの防止などに主体的に取り組むことができるように配慮している。ゲームやスマホの良し悪し、付き合い方などを考えられるように、1年生から「情報モラル」を扱う教材が設けられている。「情報モラル」を考えるページでは、事前の教材「本当にだいじょうぶ?」に続き、「スマホ依存」として、小学6年生と中学3年生のスマホや携帯電話の使用時間が取り上げられている(6年P44～P48)。「インターネットのじょうほうはかならず正しい?」では、「インターネットの誤情報」への注意喚起として、タブレットでの調べ学習などで情報を集める時は、本など複数の情報源から内容の正しさを確認することが薦められている(3年P46、P47)。「いじめ問題」では、スマホのグループトークが取り上げられており、身近に潜む危険への気づきや自分が気を付けるべきことを考える機会としている(例:グループ外し4年P66)。インターネットの誤情報についての注意喚起として、タブレットでの調べ学習などで情報を集める時、本など複数の情報源から内容の正しさを確認するよう投げかけている(例:インターネットのじょうほうはかならず正しい?3年P46、P47)。</p>	<p>巻頭では、自分を取り巻く社会(現代的課題)が取り上げられており、自分自身との繋がりを探ることができるようにしている。一目で見やすいよう、マークを作成している。「会話のゆけえ」では、SNSでのメッセージのやり取りを題材として、テキストコミュニケーションの問題点を取り上げている。また、その話と連動して私たちと情報というページでも情報モラルについて考えを深められるようになっている(6年P114～P117)。各学年で自己肯定感や心の弱さと向き合うことなどについて触れ、悩みや葛藤などの心の揺れ、人間関係の理解など、深く考えることができる教材や特設ページが随所に設けられている(例:すれちがい5年P24、ひみつつのグループトーク5年P68)。</p>

令和6年度西宮市立中学校・義務教育学校後期課程使用教科用図書

種 目	第 1 学 年			第 2 学 年			第 3 学 年		
	番号 略称	記号番号	教科書名	番号 略称	記号番号	教科書名	番号 略称	記号番号	教科書名
国 語	38 光村	国語 704	国語 1	38 光村	国語 804	国語 2	38 光村	国語 904	国語 3
書 写	15 三省堂	書写 702	現代の書写 一・二・三	(前年度給与したものを使用)			(前々年度給与したものを使用)		
社 会	地 理	2 東書	地理 701	新しい社会 地理			(前年度給与したものを使用)		
	歴 史	2 東書	歴史 705	新しい社会 歴史			(前年度給与したものを使用)		
	公 民							2 東書	公民 901
地 図	46 帝国	地図 702	中学校社会科地図	(前年度給与したものを使用)			(前々年度給与したものを使用)		
数 学	61 啓林館	数学 705	未来へひろがる数学 1	61 啓林館	数学 805	未来へひろがる数学 2	61 啓林館	数学 905	未来へひろがる数学 3
理 科	61 啓林館	理科 705	未来へひろがるサイエンス 1	61 啓林館	理科 805	未来へひろがるサイエンス 2	61 啓林館	理科 905	未来へひろがるサイエンス 3
音 楽	一 般	27 教芸	音楽 702	中学生の音楽 1			(前年度給与したものを使用)		
				27 教芸	音楽 803	中学生の音楽 2・3上	(前年度給与したものを使用)		
	器楽合奏	27 教芸	器楽 752	中学生の器楽	(前年度給与したものを使用)			(前々年度給与したものを使用)	
美 術	9 開隆堂	美術 701	美術 1 発見と創造	9 開隆堂	美術 801	美術 2・3 探求と継承	(前年度給与したものを使用)		
保 健 体 育	224 学研	保体 704	中学保健体育	(前年度給与したものを使用)			(前々年度給与したものを使用)		
技 術 ・ 家 庭	9 開隆堂	技術 704	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	(前年度給与したものを使用)			(前々年度給与したものを使用)		
	9 開隆堂	家庭 703	技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生	(前年度給与したものを使用)			(前々年度給与したものを使用)		
英 語	15 三省堂	英語 703	NEW CROWN English Series 1	15 三省堂	英語 803	NEW CROWN English Series 2	15 三省堂	英語 903	NEW CROWN English Series 3
特別の教科道徳	224 学研	道徳 706	新・中学生の道徳 明日への扉 1	224 学研	道徳 806	新・中学生の道徳 明日への扉 2	224 学研	道徳 906	新・中学生の道徳 明日への扉 3

令和6年度西宮市立中学校・義務教育学校後期課程使用教科書（特別支援学級〔知的障害者用〕）

種 目	第 1 学 年 ～ 第 3 学 年								
	番号 略称	記号番号	教科書名	番号 略称	記号番号	教科書名	番号 略称	記号番号	教科書名
国 語	2 東書	国語C-721	国語 ☆☆☆☆	2 東書	国語C-722	国語 ☆☆☆☆			
数 学	17 教出	数学C-721	数学 ☆☆☆☆	17 教出	数学C-722	数学 ☆☆☆☆			
音 楽	2 東書	音楽C-721	音楽 ☆☆☆☆	2 東書	音楽C-722	音楽 ☆☆☆☆			

令和6年度西宮市立中学校・義務教育学校後期課程使用教科書（特別支援学級〔聴覚障害者用〕）

種 目	第 1 学 年 ～ 第 3 学 年								
	番号 略称	記号番号	教科書名	番号 略称	記号番号	教科書名	番号 略称	記号番号	教科書名
言語指導	17 教出	国語B-721	国語 言語編						

令和6年度西宮市立小・中・義務教育学校使用 特別支援学級用一般図書一覧

	発行者		図書		教科等											学年				障害種別			
	発行者コード	発行者略称	図書コード	図書名	生活	国語	社会	算数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的	肢病
1	01-1	あかね書房	E01	けんちゃんとおそぼう1のってのって	◎	○										◎	◎					◎	◎
2	01-1	あかね書房	001	単行本さわってあそぼうふわふわあひる	◎											◎				◎		◎	
3	01-1	あかね書房	H02	かぼくん・くらしのえほん2かぼくんのおかいもの	◎	○	◎							◎		◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎
4	01-1	あかね書房	G04	からだのえほん4からだにもしもし	◎									◎		◎				◎	○	◎	
5	02-1	岩崎書店	F08	絵本図鑑シリーズ8やさいのずかん	◎									◎			◎					◎	
6	06-1	偕成社	R01	あかちゃんのあそびえほん(1)ごあいさつあそび	◎									◎		◎						◎	
7	06-1	偕成社	R04	あかちゃんのあそびえほん(4)ひとりであんなにできるかな	◎											◎						◎	
8	06-1	偕成社	R06	あかちゃんのあそびえほん(6)いいおへんじできるかな	◎									◎		◎						◎	
9	14-5	世界文化社	A01	写真でわかるなぜなに1どうぶつ	◎	◎			◎	◎						◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○
10	07-2	金の星社	001	おてつだいの絵本	◎							◎		◎		○	○	◎	◎		◎	◎	◎
11	06-1	偕成社	T01	エリック・カールの絵本はらぺこあおむし	◎	◎		◎	○							◎	◎			◎	◎	◎	◎
12	06-1	偕成社	T07	エリック・カールの絵本できるかな?—あたまからつまさきまで—	◎	○							◎			◎	○					◎	○
13	06-1	偕成社	Y01	ともだちだいすき(2)おべんとうなあに?	◎	◎								○		◎	◎			◎		◎	○
14	06-1	偕成社	Z01	子どものマナー図鑑(1)ふだんの生活のマナー	◎		◎							◎			◎	◎	◎		◎	◎	
15	06-2	学研	N01	ほんとおおきさほんとおおきさ動物園	◎	◎										◎	◎			◎	◎		
16	13-2	鈴木出版	A05	知育えほんマークのずかん	◎	○	◎				○	○		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17	08-1	くもん出版	B01	生活図鑑カードたべものカード	◎	◎										◎	◎			◎		◎	
18	08-1	くもん出版	B02	生活図鑑カードくだものやさいカード1集	◎	◎										◎	◎			◎		◎	
19	08-2	グランママ	001	ぼくとわたしのせいかつえほん	◎	○										◎	◎	◎			◎	◎	
20	10-1	講談社	504	創作絵本かぞえてみよう	◎			◎								◎	◎	◎	◎			◎	
21	10-5	小峰書店	B01	りかのこうさく1ねんせい	◎				◎		◎					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
22	10-8	合同出版	B01	絵でわかるこどものせいかつずかん1みのまわりのきほん	◎								◎	◎		◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎
23	12-2	小学館	B02	21世紀幼稚園百科2とけいとじかん	◎			◎									◎	◎	◎			◎	○
24	12-7	女子栄養大	001	新・こどもクッキング	◎							◎					◎	◎	◎		◎		◎
25	14-4	成美堂出版	006	作ってみよう!リサイクル工作68	◎						◎					○	◎	◎	◎			◎	
26	20-1	童心社	H01	14ひきのシリーズ14ひきのあさごはん	◎	◎		○								◎	◎	◎				◎	◎
27	20-1	童心社	H02	14ひきのシリーズ14ひきのびくにつく	◎	◎		○								◎	◎	◎				◎	◎
28	27-1	ひかりのく	C12	こどものずかんMio12きせつとしげん	◎				◎							◎	◎	◎	○			◎	○
29	27-1	ひかりのく	K09	新装版KIDS2112たべものひゃっか	◎							◎				◎	◎	◎		◎		◎	
30	27-1	ひかりのく	D01	202シリーズたべもの202	◎	○						◎				◎	◎	◎		◎		◎	
31	27-3	ひさかた	A01	あかちゃんのための絵本はみがきしゅわしゅわ	◎											◎	◎					◎	
32	28-1	福音館	K01	日本傑作絵本シリーズおふろだいすき	◎												◎	◎				◎	
33	28-1	福音館	B09	幼児絵本シリーズやさいのおなか	◎			◎	◎							◎	◎	○	○			◎	◎
34	28-1	福音館	E16	かがくのとも絵本みんなうんち	◎											◎	◎						◎
35	28-1	福音館	H56	こどものとも絵本はじめてのおつかい	◎	◎											◎	◎	◎			◎	
36	28-1	福音館	K04	ぐりとぐらの絵本ぐりとぐらの1ねんかん	◎	◎										◎	◎					◎	
37	28-1	福音館	B08	幼児絵本シリーズやさい	◎	○			◎							◎	◎	◎		◎		◎	◎
38	28-1	福音館	B06	幼児絵本シリーズくだもの	◎	○			◎							◎	◎			◎		◎	

	発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				
	発行者コード	発行者略称	図書コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的	肢病
39	28-1	福音館	L01	みぢかなかがくシリーズ町の水族館・町の植物園	◎		◎										◎	◎	◎		◎	◎	
40	28-1	福音館	E02	かがくのとも絵本たべられるしょくぶつ	◎				◎									◎	◎	◎	◎	◎	◎
41	28-1	福音館	G04	福音館の科学シリーズ道ばたの四季	◎				◎					○		◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
42	28-1	福音館	E14	かがくのとも絵本しんぶんしでつくろう	◎					◎						◎	◎			○		◎	◎
43	28-1	福音館	G09	福音館の科学シリーズあそびのレシピ	◎					◎							◎	◎	◎				◎
44	28-3	ブロンズ新	537	だるまさんが	◎	◎										◎	◎				○	◎	
45	28-3	ブロンズ新	538	だるまさんの	◎	◎										◎	◎					○	◎
46	28-3	ブロンズ新	530	だるまさんと	◎	◎										◎	◎					○	◎
47	28-7	福村出版	A05	シリーズ生活を学ぶ5遠くへ行きたいな	◎		◎										◎	◎	◎	○	◎	◎	
48	76-16	パイインタ	544	はじめてのなんどもかけるひらがなぶっく	◎	◎										◎	◎	◎	○		◎	◎	◎
49	28-1	福音館	578	福音館の科学シリーズ植物あそび	◎				◎	○						◎	◎	○	○		○	◎	◎
50	29-1	平凡社	B02	新版はじめましてにほんちず	◎		◎											◎	◎				◎
51	28-3	ブロンズ新	A02	らくがきえほんあ・い・う・え・お		◎				○						◎	◎	◎	○	○		◎	○
52	07-2	金の星社	535	音のでるとけいえほんいまなんじ?	◎			◎								◎	◎	○	○	○		◎	○
53	30-2	ポプラ	C08	ペーパーランド8おりがみえあそび	◎					◎						◎	◎	◎					◎
54	01-1	あかね書房	A02	もじのえほんかたかなアイウエオ		◎										◎	◎	◎	◎			◎	
55	02-1	岩崎書店	E01	五味太郎のことばとかずの絵本漢字の絵本		◎												◎	◎			◎	◎
56	06-1	偕成社	E01	「おれたち、ともだち！」絵本ともだちや		◎								◎			◎	◎	◎		◎	◎	◎
57	06-1	偕成社	P02	赤ちゃん版ノタン(2)ノタンもぐもぐもぐ	○	◎										◎	◎					◎	◎
58	06-1	偕成社	T04	エリック・カールの絵本くまさんくまさんにみてるの?		◎				○						◎	◎					◎	◎
59	06-1	偕成社	H01	日本むかし話おむすびころりん		◎											◎	◎					◎
60	06-1	偕成社	O05	五味太郎・言葉図鑑(5)つなぎのことば		◎											◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
61	06-1	偕成社	O06	五味太郎・言葉図鑑(6)くらしのことば		◎													◎		◎		◎
62	06-1	偕成社	O10	五味太郎・言葉図鑑(10)なまえのことば		◎										◎	◎	◎		◎		○	
63	06-2	学研	522	こどもずかん0さい～4さいこどもずかん英語つき		◎										◎						◎	
64	06-2	学研	523	こどもずかん0さい～4さいこどもずかん英語つきよくばりバージョン		◎									◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
65	08-1	くもん出版	C01	書きかたカード「ひらがな」		◎										◎	◎	◎	◎			◎	◎
66	08-1	くもん出版	D01	ひらがなカード		◎										◎	◎	◎		○	◎	◎	◎
67	08-1	くもん出版	A03	もじ・ことば3やさしいひらがな1集		◎										◎	◎	◎				◎	
68	08-1	くもん出版	A01	もじ・ことば1はじめてのひらがな1集		◎										◎						◎	◎
69	08-1	くもん出版	525	ゆびなぞりカードひらがな		◎										◎	◎					◎	◎
70	08-1	くもん出版	526	反対ことばカード		◎										◎	◎					◎	
71	08-1	くもん出版	808	あきびんごの創造性を育てる○つけドリルたべもの博士		◎										◎	◎					◎	
72	08-2	グランまま	006	ことばえほん	○	◎										◎	◎	◎	◎			◎	○
73	10-4	こぐま社	B05	こぐまちゃんえほん第3集しろくまちゃんのほっとけーき	○	◎										◎	◎	◎		○		◎	◎
74	10-4	こぐま社	D01	ことばあそびの絵本ぶたたぬきつねねこ		◎										◎	◎	◎				◎	◎
75	10-5	小峰書店	C01	くまたんのはじめてシリーズよめるよめるよあいうえお		◎										◎	◎	◎				◎	
76	16-4	太郎次郎社	C03	子どもがしあげる手づくり絵本あいうえおあそび上ひらがな50音		◎													◎	◎		◎	
77	20-4	戸田デザイン	003	あいうえおえほん		◎										◎	◎	◎				◎	◎

	発行者		図 書		教 科 等													学 年				障 害 種 別			
	発行者 コード	発行者略称	図書 コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的	肢病		
78	20-4	戸田デザイン	007	よみかた絵本		◎											◎	◎	◎			◎	◎		
79	20-5	同成社	A01	ゆっくり学ぶ子のための「こくご」1(改訂版) (ひらがなのことば・文・文章の読み)		◎											◎	◎	◎	◎	◎	◎			
80	20-5	同成社	A02	ゆっくり学ぶ子のための「こくご」2(改訂版) (かたかな・かん字の読み書き)		◎											◎	◎	◎	◎	◎	◎			
81	20-5	同成社	A03	ゆっくり学ぶ子のための「こくご」3(改訂版) (文章を読む、作文・詩を書く)		◎												◎	◎	◎	◎	◎			
82	20-5	同成社	B01	ゆっくり学ぶ子のための「こくご」入門編1 (改訂版)(表象形成・音韻形成・発声・発音)		◎										◎	◎	◎			◎	◎			
83	20-5	同成社	B02	ゆっくり学ぶ子のための「こくご」入門編2 (改訂版)(ひらがなの読み書き)		◎										◎	◎	◎			◎	◎			
84	20-7	東洋館	002	くらしに役立つ国語		◎												◎			◎	◎	◎		
85	27-2	評論社	B01	しかけ絵本の本棚コロちゃんはどこ？	○	◎										◎						◎	○		
86	27-3	ひさかた	C04	スキンシップ絵本かたかなアイウエオ		◎										◎	◎					◎	◎		
87	28-1	福音館	H26	こどものとも絵本おおきなかぶ		◎								◎			◎	◎				◎	○		
88	30-2	ポプラ	J01	クーとマーのおぼえるえほん1ぼくのいろな あに		◎											◎	◎					◎		
89	40-3	リーブル	001	あっちゃんあがつくたべものあいうえお		◎										◎	◎	◎	◎		○	◎	◎		
90	40-3	リーブル	002	しりとりしましょ！たべものあいうえお		◎										◎	◎	◎	◎		○	◎			
91	78-9	文英堂	546	シグマベストきくきくドリルSTEP1		◎										◎						◎	○		
92	78-9	文英堂	547	シグマベストきくきくドリルSTEP2		◎										◎	◎					◎	○		
93	06-1	偕成社	S01	安全のしつけ絵本(1)きをつけようね	○		◎									◎	◎	◎	◎	○			◎		
94	06-1	偕成社	Z03	子どものマナー図鑑(3)でかけるときのマ ナー			◎							◎			◎	◎	◎			◎	◎		
95	10-1	講談社	558	決定版心をそだてるはじめての日本の歴史 名場面101			◎											◎				◎			
96	12-2	小学館	C01	ドラえもんちずかん1につぼんちず			◎										◎	◎	◎			◎	◎		
97	12-2	小学館	C02	ドラえもんちずかん2せかいちず			◎										◎	◎				◎	◎		
98	14-4	成美堂出版	003	いちばんわかりやすい小学生のための学習 世界地図帳			◎											◎	◎			◎	○		
99	14-4	成美堂出版	004	いちばんわかりやすい小学生のための学習 日本地図帳			◎									○	◎	◎				◎	○		
100	20-4	戸田デザイン	005	につぼんちず絵本			◎										◎	◎	◎	◎		◎	◎		
101	20-4	戸田デザイン	006	せかいちず絵本			◎										◎	◎	◎						
102	20-7	東洋館	001	くらしに役立つ社会			◎											◎			◎	◎	◎		
103	27-2	評論社	C01	ピーター・スピアーの絵本1せかいのひとび と			◎											◎	○			◎			
104	27-2	評論社	A01	スカーリーおじさんのはたらく人たち			◎							◎			◎	◎			◎				
105	27-3	ひさかた	507	せかいのこつきえほん			◎							◎				◎				◎			
106	28-1	福音館	G05	福音館の科学シリーズぼくらの地図旅行			◎											◎	◎			◎			
107	28-1	福音館	M06	みぢかなかがくシリーズ町たんけん			◎							◎			◎	◎	◎			◎			
108	01-1	あかね書房	B02	あかねえほんシリーズかたちのえほんまる・ さんかく・しかくさん				◎								◎	◎	◎			◎	◎	◎		
109	01-1	あかね書房	I02	あかね書房の学習えほんおかあさんだいす き1. 2. 3				◎								◎	◎	◎			◎	◎	◎		
110	02-1	岩崎書店	E04	五味太郎のことばとかずの絵本かずの絵本		○		◎								◎	◎	◎	◎			◎	◎		
111	04-1	絵本館	D02	五味太郎の絵本かずのえほん1・2・3				◎									◎	◎		○	○	◎	◎		
112	08-1	くもん出版	D02	とけいカード				◎								◎	◎	◎	◎			◎	◎		
113	10-1	講談社	H05	ブルーナのアイディアブックミッフィーの1か ら10まで				◎								◎						◎	○		
114	10-4	こぐま社	E01	こぐまちゃんえほん別冊さよならさんかく		○		◎								◎	◎	◎				◎			
115	10-5	小峰書店	C02	くまたんのはじめてシリーズおいしいおいし い1・2・3				◎								◎	◎					◎			

	発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				
	発行者コード	発行者略称	図書コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中・高	視覚	聴覚	知的	肢病
116	12-2	小学館	B06	21世紀幼稚園百科6かずあそび1・2・3				○								○	○	○				○	
117	12-2	小学館	Z01	デコボコえほんかずをかぞえよう!				○								○	○	○	○	○	○	○	○
118	20-4	戸田デザイン	002	1から100までのえほん				○									○					○	
119	20-4	戸田デザイン	009	とけいのえほん				○									○	○	○			○	○
120	20-5	同成社	C01	ゆっくり学ぶ子のための「さんすう」1(量概念の基礎、比較、なかま集め)				○									○	○	○	○		○	
121	20-5	同成社	C02	ゆっくり学ぶ子のための「さんすう」2(1対1対応、1～5の数、5までのたし算)				○									○	○	○	○	○	○	○
122	20-5	同成社	C03	ゆっくり学ぶ子のための「さんすう」3(6～9のたし算、ひき算、位取り)				○									○	○	○	○	○	○	○
123	20-5	同成社	C04	ゆっくり学ぶ子のための「さんすう」4(くり上がり、くり下がり、2けたの数の計算)				○									○	○	○	○	○	○	○
124	20-5	同成社	C05	ゆっくり学ぶ子のための「さんすう」5(3けたの数の計算、かけ算、わり算)				○											○	○	○	○	○
125	20-7	東洋館	003	くらしに役立つ数学				○											○		○	○	○
126	27-3	ひさかた	B02	ミーミとクークのえほんミーミとクークの1・2・3				○								○	○					○	○
127	27-3	ひさかた	C05	スキンシップ絵本かずのえほん				○								○	○	○	○		○		○
128	28-1	福音館	610	安野光雅の絵本はじめてであうすうがくの絵本2				○										○				○	
129	28-4	文化出版局	E07	どうぶつあれあれえほん第4集かくしたのだから				○								○	○	○				○	
130	16-3	大日本絵画	506	とけいつきしかけえほんピーター・いまんじ?	○			○								○	○	○	○			○	
131	30-2	ポプラ	N02	絵本・いつでもいっしょ2どうぶつなんびき?				○								○	○					○	
132	32-1	民衆社	A02	さんすうだいすきあそぶ・つくる・しらべる2年				○										○				○	
133	02-1	岩崎書店	C04	かいかたそだてかたずかん4やさいのうえかたそだてかた					○			○						○			○	○	○
134	02-1	岩崎書店	F12	絵本図鑑シリーズ12のはらのずかんー野の花と虫たちー					○					○				○			○	○	○
135	10-1	講談社	001	米村でんじろうのDVDでわかるおもしろ実験!!					○		○	○						○	○	○			
136	20-4	戸田デザイン	010	昆虫とあそぼう					○					○			○	○		○	○	○	○
137	20-7	東洋館	004	くらしに役立つ理科					○									○		○	○	○	○
138	27-1	ひかりのく	I01	改訂新版体験を広げることものずかん1どうぶつえん					○					○			○	○	○		○	○	
139	28-1	福音館	G01	福音館の科学シリーズ昆虫					○								○	○	○			○	○
140	28-1	福音館	G03	福音館の科学シリーズ地球					○									○				○	
141	10-1	講談社	525	講談社の動く図鑑MOVE植物	○				○							○	○	○	○		○	○	○
142	17-1	チャイルド	535	チャイルドブックこども百科ふしぎ、ふしぎ!かがくあそび図鑑	○				○		○					○	○	○	○			○	○
143	06-1	偕成社	004	10+1人の絵本作家オリジナルソング集うたのパレット						○							○	○	○	○			
144	08-1	くもん出版	G03	CD付き楽器カード						○							○	○	○	○	○	○	○
145	71-1	永岡書店	548	きいてうたって24曲どうようたのえほん	○				○							○	○	○	○	○	○	○	○
146	27-1	ひかりのく	F01	改訂新版どうようえほん1					○							○	○	○	○			○	○
147	27-1	ひかりのく	F02	改訂新版どうようえほん2					○							○	○	○	○			○	○
148	27-1	ひかりのく	F03	改訂新版どうようえほん3					○							○	○	○	○			○	○
149	27-1	ひかりのく	001	たのしいてあそびうたえほん					○							○				○		○	○
150	27-1	ひかりのく	002	どうようでおえかきできるどうようNEW絵かきうたブック					○							○	○				○	○	○
151	27-1	ひかりのく	013	あそびうたのほんCDつき					○							○	○			○		○	○
152	40-1	理論社	A01	あいうえおうさま		○	○									○	○	○		○	○	○	○
153	02-1	岩崎書店	A07	あそびの絵本クレヨンあそび						○						○	○	○		○		○	○

	発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				
	発行者 コード	発行者略称	図書 コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的	肢病
154	02-1	岩崎書店	A17	あそびの絵本えのぐあそび						◎						◎	◎	◎		○		○	◎
155	06-1	偕成社	T03	エリック・カールの絵本(ぬりえ絵本)わたしだけのほらぺこあおむし						◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎
156	06-1	偕成社	003	かこさとしうつくしい絵						◎							◎	◎	◎				
157	06-2	学研	O01	あそびのおうさまBOOKぬって						◎						◎	◎	◎	◎	○		◎	◎
158	06-2	学研	O02	あそびのおうさまBOOKはって						◎						◎	◎	◎	◎	◎		◎	
159	10-3	国土社	B14	たのしい図画工作14こすりだし・すりだし						◎									◎				◎
160	12-2	小学館	N02	あーとぶっくひらめき美術館第2館						◎							◎	◎				◎	
161	17-1	チャイルド	001	ぬったりかいたりらくがきBOOK						◎								◎		◎		◎	
162	27-1	ひかりのく	I08	改訂新版体験を広げるこどものずかん8あそびのずかん					○	◎							◎	◎	○		◎		
164	30-2	ポプラ	A02	あそびのひろば2やさしいてづくりのプレゼント						◎							◎	◎	◎			◎	◎
165	30-2	ポプラ	A04	あそびのひろば4はりえあそび						◎							◎	◎	◎			◎	
166	30-2	ポプラ	A08	あそびのひろば8らくがきあそび						◎							◎	◎				◎	◎
167	07-2	金の星社	F01	ひとりのできるもん！1たのしいたまご料理							◎						◎	◎		◎	◎	◎	◎
168	07-2	金の星社	F04	ひとりのできるもん！4うれしいごはん、パン、めん料理							◎						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
169	07-2	金の星社	F05	ひとりのできるもん！5すてきなおかし作り							◎						◎	◎		◎	◎	◎	◎
170	15-3	草思社	001	みんなのためのルールブックあたりまえだけど、とても大切なこと							◎	○	◎				◎	◎		◎	◎	◎	◎
171	28-6	文研出版	509	まかせて！おてつだい1わくわくしよくじ							◎						◎	◎				◎	
172	21-2	ナツメ社	001	子どもの生きる力を育てるせいかつの絵じてん	◎	◎					○	◎	○				◎	◎		◎	◎	◎	○
173	06-1	偕成社	Q06	子どもの生活(6)じょうぶなからだになれるよ！								◎	◎				◎	◎	◎				
174	07-2	金の星社	E01	やさしいからだのえほん1からだのなかはどうなっているの？					○			◎					◎	◎		◎			
175	12-2	小学館	B11	21世紀幼稚園百科11からだのふしぎ								◎	◎				◎	◎	◎				◎
176	27-1	ひかりのく	I09	改訂新版体験を広げるこどものずかん9からだとけんこう					○			◎						◎		◎	◎	◎	
177	27-2	評論社	B25	しかけ絵本の本棚からだのなかとそと					○			◎	◎				◎	◎		◎	◎		
178	28-1	福音館	E13	かがくのとも絵本きゆうきゆうばこ新版								◎					◎	◎	◎		◎	◎	
179	05-3	旺文社	B02	学校では教えてくれない大切なこと(2)友だち関係(自分と仲良く)										◎			◎	◎		◎	○		
180	05-3	旺文社	B06	学校では教えてくれない大切なこと(6)友だち関係(気持の伝え方)										◎			◎	◎		◎	○		
181	01-1	あかね書房	I07	あかね書房の学習えほんえいごえほんぞうさんがっこうにい											◎			◎	◎	◎	◎		
182	01-1	あかね書房	I03	あかね書房の学習えほんことばのえほんABC											◎			◎	◎	◎	◎		
183	02-1	岩崎書店	E02	五味太郎のことばとかずの絵本絵本ABC												◎			◎	◎		◎	◎
184	11-4	三省堂	C01	親子でうたう英語うたの絵じてん												◎			◎	◎		◎	◎
185	14-4	成美堂出版	005	CDつき楽しく歌える英語のうた												◎			◎	◎	○	◎	◎
186	14-4	成美堂出版	007	CDつき小学生の英語レッスン絵でみて学ぼう英会話												◎			◎	◎	◎	◎	◎
187	20-4	戸田デザイ	001	和英えほん												◎			◎	◎		◎	
188	20-4	戸田デザイ	004	ABCえほん												◎			◎		◎	◎	◎

(参考資料)

令和6年度使用西宮版一覧から外した図書

発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				外した理由		
発行者コード	発行者略称	図書コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的		肢病	
06-2	学研	519	ほんとおおきさ ほんとおおきさ水族館	◎											◎	◎			◎	◎	◎	○	令和5年度用一般図書契約予定一覧に掲載されていないため。	
06-2	学研	518	ほんとおおきさ もっと！ほんとおおきさ動物園	◎	◎										◎	◎			◎	◎	◎	○	令和5年度用一般図書契約予定一覧に掲載されていないため。	
07-2	金の星社	533	音のでる絵本おとのでるあいうえおのえほん	◎	◎										◎	○	○	○			◎	○	令和5年度用一般図書契約予定一覧に掲載されていないため。	
21-1	永岡書店	009	お手本のうた付き！どうようたのえほん2						◎						◎	◎					◎		令和5年度用一般図書契約予定一覧に掲載されていないため。	
20-3	東京書店	521	わくわく音あそびえほんヒュルヒュルドカーンおまつりたいこ！						◎						◎	◎			◎		◎	◎	令和5年度用一般図書契約予定一覧に掲載されていないため。	
28-6	文研出版	508	まかせて！おてつだい わくわくそうじ・かたづけ								◎					◎	◎				◎		令和5年度用一般図書契約予定一覧に掲載されていないため。	

令和6年度使用西宮版一覧に加えた図書

発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				加えた理由		
発行者コード	発行者略称	図書コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的		肢病	
152	40-1	理論社	A01	あいうえおうさま		◎	◎								◎	◎	◎		○	◎	◎		各ページに1つのひらがなが書かれており、五十音を学びやすい。文字で表記されている以外にも、そのひらがなで始まる言葉のイラストが書かれており、言葉を広げていくことができる。韻を踏んでおり、音読の練習に適している。	
51	28-3	ブロンズ新	A02	らくがきえほんあ・い・う・え・お		◎				○					◎	◎	◎	○	○		◎	○	言葉遊びで文字を覚えることができる。余白が広く描きやすい。ユニークなイラストで子どもの興味を引きやすい。	
145	71-1	永岡書店	548	きいてうたって24曲どうようたのえほん	○				◎					○	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	童謡からアニソン、英語の歌までバラエティに富んだ内容となっている。カラオケ機能がついており歌唱をする等、意欲を持って取り組むことができる。選曲ボタンを自分で押して音楽を楽しむことができる。	
172	21-2	ナツメ社	001	子どもの生きる力を育てるせいかつの絵じてん	◎	◎					○	◎	○				◎	◎	◎	◎	◎	○	社会生活をしていく上で大切な生活習慣や礼儀作法について学ぶことができる。イラストや写真をたくさん使用しており、基本の生活動作を分かりやすく習得できる。「おうちのかたへ」というコメントがあり、家庭学習にも生かすことができる。	
9	14-5	世界文化社	A01	写真でわかるなぜなに1どうぶつ	◎	◎			◎	◎					◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	カタカナにもルビが振られており、読みやすい。1枚の写真に動物のしぐさが分かりやすく掲載されている。動物に関する豆知識が質問形式で分かりやすく丁寧に説明されている。	
16	13-2	鈴木出版	A05	知育えほんマークのずかん	◎	○	◎			○	○		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		道路標識や案内標識、環境を守るマークなどがテーマ別に分かりやすく構成されている。マークを知ること、安全マナーや思いやり、環境など社会への関心を高めることができる。絵や文字が大きくはっきりしており、見やすい。	

令和6年度使用西宮版一覧で「教科等」「学年」「障害種別」を変更した図書

発行者		図 書		教 科 等										学 年				障 害 種 別				変更点とその理由	
発行者コード	発行者略称	図書コード	図 書 名	生活	国語	社会	算・数	理科	音楽	図・美	技・家	体・保	道徳	外国語	小低	小中	小高	中学校	視覚	聴覚	知的		肢病
令和6年度使用西宮版一覧で「教科等」「学年」「障害種別」を変更した図書はありません。																							

令和5年度一般図書契約予定発行者

発行者コード	発行者略称	発行者名	変更	発行者コード	発行者略称	発行者名	変更
01-1	あかね書房	株式会社 あかね書房		51-34	アノニマ	中央出版 株式会社(アノニマ・スタジオ)	
02-1	岩崎書店	株式会社 岩崎書店		51-35	朝日学生	株式会社 朝日学生新聞社	
04-1	絵本館	株式会社 絵本館		52-2	岩波書店	株式会社 岩波書店	
05-1	大阪教育図	大阪教育図書 株式会社		52-4	教養池田	株式会社 池田書店	
05-3	旺文社	株式会社 旺文社		52-7	いかだ社	株式会社 いかだ社	
06-1	偕成社	株式会社 偕成社		52-15	一声社	株式会社 一声社	
06-2	学研	株式会社 学研プラス		52-16	イースト	株式会社 イースト・プレス	
06-4	開隆堂出版	開隆堂出版 株式会社		52-21	ヴォーグ社	株式会社 イー・アンド・ジークリエイツ(アップルミンツ)	□ ○
07-2	金の星社	株式会社 金の星社		53-5	WAVE	株式会社 WAVE出版	
07-4	教芸	株式会社 教育芸術社		54-20	えほんの社	株式会社 えほんの社	
07-5	教育画劇	株式会社 教育画劇		54-21	エスコR	株式会社 エスコアール	
08-1	くもん出版	株式会社 くもん出版		54-22	mpi	株式会社 mpi松香フォニックス	
08-2	グランママ	株式会社 グランママ社		54-26	エイデル	株式会社 エイデル研究所	
10-1	講談社	株式会社 講談社		54-27	絵本塾出版	株式会社 絵本塾出版	
10-2	好学社	株式会社 好学社		54-29	MDN	株式会社 エムディエヌコーポレーション	
10-3	国土社	株式会社 国土社		55-1	大月書店	株式会社 大月書店	
10-4	こぐま社	株式会社 こぐま社		55-12	音楽センター	株式会社 音楽センター	
10-5	小峰書店	株式会社 小峰書店		55-15	音楽之友社	株式会社 音楽之友社	
10-8	合同出版	合同出版 株式会社		55-19	大泉書店	株式会社 大泉書店	
10-9	こばと	有限会社 KOBATO		55-21	沖縄時事	合資会社 沖縄時事出版	
10-10	ココヨ	ココヨ 株式会社		55-22	桜雲会	社会福祉法人 桜雲会	
11-1	さえら	株式会社 さえら書房		56-3	カワイ出版	株式会社 全音楽譜出版社カワイ出版部	
11-4	三省堂	株式会社 三省堂		56-7	河出新社	株式会社 河出書房新社	
12-2	小学館	株式会社 小学館		56-13	かもがわ	株式会社 かもがわ出版	
12-7	女子栄養大	女子栄養大学出版部		56-21	岳陽舎	株式会社 岳陽舎	
12-10	視覚デザイ	株式会社 視覚デザイン研究所		56-24	学研みらい	株式会社 学研教育みらい	
13-2	鈴木出版	鈴木出版 株式会社		56-27	べん習字	株式会社 学文社(日本べん習字)	
14-3	育成会	一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会		56-28	カドカワ	株式会社 KADOKAWA	
14-4	成美堂出版	成美堂出版 株式会社		56-29	かんき出版	株式会社 かんき出版	
14-5	世界文化社	株式会社 世界文化社		56-33	カエル	株式会社 カエルちゃんオフィス	
15-3	草思社	株式会社 草思社		56-34	学林舎	有限会社 学林舎	
16-3	大日本絵画	株式会社 大日本絵画		56-35	カンゼン	株式会社 カンゼン	
16-4	太郎次郎社	株式会社 太郎次郎社エディタス		56-36	化学同人	株式会社 化学同人	
17-1	チャイルド	株式会社 チャイルド本社		56-38	ネコパブ	カルチュア・エンタテインメント 株式会社(ネコ・パブリッシング)	○
20-1	童心社	株式会社 童心社		57-11	教育図書	教育図書 株式会社	
20-2	ドレミ楽譜	株式会社 ドレミ楽譜出版社		57-12	教育出版	教育出版 株式会社	
20-3	東京書店	株式会社 東京書店		57-22	喜楽研	株式会社 喜楽研	
20-4	戸田デザイ	有限会社 戸田デザイン研究室		57-26	技術評論社	株式会社 技術評論社	
20-5	同成社	株式会社 同成社		57-31	紀伊國屋	株式会社 紀伊國屋書店	
20-7	東洋館	株式会社 東洋館出版社		57-36	木楽舎	株式会社 木楽舎	
21-2	ナツメ社	株式会社 ナツメ社		57-40	教育評論社	株式会社 教育評論社	
22-3	日本教育研	株式会社 日本教育研究出版		58-3	クレヨンハ	株式会社 クレヨンハウス	
25-1	のら書店	有限会社 のら書店		58-7	群羊社	株式会社 群羊社	○
27-1	ひかりのく	ひかりのくに 株式会社		58-8	グラフィク	株式会社 グラフィック社	
27-2	評論社	株式会社 評論社		58-10	くおん出版	株式会社 日研(くおん出版事業部)	
27-3	ひさかた	株式会社 ひさかたチャイルド		58-11	くろしお	株式会社 くろしお出版	
27-4	PHP	株式会社 ピーエイチピー研究所		59-5	K・M・P	有限会社 ケイ・エム・ピー	
28-1	福音館	株式会社 福音館書店		59-7	幻冬舎	株式会社 幻冬舎	○
28-2	婦人之友	株式会社 婦人之友社		59-12	経済界	株式会社 経済界	
28-3	ブロンズ新	株式会社 ブロンズ新社		60-2	佼成出版	株式会社 佼成出版社	
28-4	文化出版局	学校法人 文化学園文化出版局		60-3	弘文社	株式会社 弘文社	
28-6	文研出版	文研出版		60-11	光文書院	株式会社 光文書院	
28-7	福村出版	福村出版 株式会社		60-20	コンセル	株式会社 コンセル	
28-8	フレーベル	株式会社 フレーベル館		60-22	子供の未来	有限会社 子どもの未来社	
29-1	平凡社	株式会社 平凡社		60-24	語学春秋社	株式会社 語学春秋社	
30-2	ポプラ	株式会社 ポプラ社		60-29	交通新聞	株式会社 交通新聞社	
32-1	民衆社	株式会社 民衆社		60-32	コスミック	株式会社 コスミック出版	
33-1	むぎ書房	有限会社 むぎ書房		60-34	あか図	あかつき教育図書 株式会社	
36-1	山と溪谷社	株式会社 山と溪谷社		60-40	コロロ発達	株式会社 コロロ発達療育センター	
40-1	理論社	株式会社 理論社		60-43	弘文堂	株式会社 弘文堂	
40-3	リーブル	株式会社 リーブル		61-7	三省堂書店	株式会社 三省堂書店	
51-1	あいうえお	株式会社 あいうえお館		61-8	三修社	株式会社 三修社	
51-4	アリス館	株式会社 アリス館		61-11	サンマーク	株式会社 サンマーク出版	
51-5	アルク	株式会社 アルク		61-15	サーベル	株式会社 サーベル社	
51-6	朝日新聞	株式会社 朝日新聞出版		61-22	埼玉福祉会	社会福祉法人 埼玉福祉会	
51-8	アーニ出版	有限会社 アーニ出版		62-3	集英社	株式会社 集英社	
51-10	あすなろ	株式会社 あすなろ書房		62-4	少年写真新	株式会社 少年写真新聞社	
51-18	アプリコッ	アプリコット出版 株式会社		62-6	新日本	株式会社 新日本出版社	
51-19	明石書店	株式会社 明石書店		62-7	秀学社	株式会社 秀学社	
51-29	アーバン	有限会社 アーバン		62-8	主婦と生活	株式会社 主婦と生活社	

発行者コード	発行者略称	発行者名	変更
62-11	新潮社	株式会社 新潮社	
62-12	主婦の友	株式会社 主婦の友社	
62-13	新興出版社	株式会社 新興出版社啓林館	
62-20	新学社	株式会社 新学社	
62-22	新星出版社	株式会社 新星出版社	
62-23	晶文社	株式会社 晶文社	
62-38	旬報社	株式会社 旬報社	
62-43	ジアース	株式会社 ジアース教育新社	
62-47	シンコーM	株式会社 シンコーミュージック・エンタテイメント	
62-49	シルバーバ	株式会社 シルバーバック	○
62-50	実務教育出	株式会社 実務教育出版	
62-54	Jリサーチ	有限会社 ジェイ・リサーチ出版	
62-56	JTB	株式会社 JTBパブリッシング	
62-59	至光社	有限会社 至光社	
62-63	小学館クリ	株式会社 小学館クリエイティブ	
62-70	ジャムハウ	株式会社 ジャムハウス	
62-71	祥伝社	株式会社 祥伝社	
62-72	柴田書店	株式会社 柴田書店	
62-73	出版ワーク	株式会社 出版ワークス	
63-3	瑞雲舎	株式会社 瑞雲舎	○
63-8	数研出版	数研出版 株式会社	
63-9	水王舎	株式会社 水王舎	
63-10	スリーエ	株式会社 スリーエネットワーク	
63-11	すばる舎	株式会社 すばる舎	
64-2	清風堂書店	株式会社 清風堂書店	
64-3	全音楽譜	株式会社 全音楽譜出版社	
64-6	正進社	株式会社 正進社	
64-9	西東社	株式会社 西東社	
64-13	誠文堂新光	株式会社 誠文堂新光社	
64-18	青春出版	株式会社 青春出版社	
64-22	全国障害者	全国障害者問題研究会	
65-2	増進堂	株式会社 増進堂	
65-5	総合科学	株式会社 総合科学出版	
65-6	創元社	株式会社 創元社	
65-13	騒人社	株式会社 騒人社	
65-16	そうえん社	株式会社 そうえん社	○
66-5	大修館書店	株式会社 大修館書店	
66-6	大和書房	株式会社 大和書房	
66-10	高橋書店	株式会社 高橋書店	
66-11	大日本図書	大日本図書 株式会社	
66-20	玉川大学出	玉川大学出版部	
66-23	竹書房	株式会社 竹書房	
67-3	汐文社	株式会社 汐文社	
67-6	中央法規	中央法規出版 株式会社	
69-2	帝国書院	株式会社 帝国書院	
69-11	点字学習	点字学習を支援する会	
70-2	童話屋	株式会社 童話屋	
70-3	徳間書店	株式会社 徳間書店	
70-9	東京法令	東京法令出版 株式会社	
70-12	東京書籍	東京書籍 株式会社	
70-13	童話館出版	株式会社 童話館出版	
70-27	トヤマ出版	トヤマ出版 株式会社	
70-33	東京堂出版	株式会社 東京堂出版	
70-34	子供図書館	公益財団法人 東京子ども図書館	
71-1	永岡書店	株式会社 永岡書店	
71-5	ナート	株式会社 ナート	
71-6	ナガセ	株式会社 ナガセ	
71-7	玉光堂	株式会社 玉光堂	
71-8	難聴児支援	難聴児支援教材研究会	
72-7	日本文芸社	株式会社 日本文芸社	
72-8	日東書院	株式会社 日東書院本社	
72-13	西村書店	株式会社 西村書店	
72-16	漢字能力検	公益財団法人 日本漢字能力検定協会	
72-21	日本習字普	株式会社 日本習字普及協会	
72-24	NHK出版	株式会社 NHK出版	
72-31	日本図書	株式会社 日本図書センター	
72-37	日本トアカ	株式会社 日本トータルアカデミー	
72-38	日本能率協	株式会社 日本能率協会マネジメントセンター	
74-3	ネオテリッ	株式会社 ネオテリック	
75-1	農文協	一般社団法人 農山漁村文化協会	

発行者コード	発行者略称	発行者名	変更
76-4	白泉社	株式会社 白泉社	
76-12	博雅堂	株式会社 博雅堂出版	
76-13	オウル社	有限会社 ハッピーオウル社	
76-16	パイインタ	株式会社 パイインターナショナル	
77-13	BL出版	ビーエル出版 株式会社	
77-16	ビリケン	有限会社 ビリケン商会(ビリケン出版)	
77-22	ビジネス社	株式会社 ビジネス社	
77-23	美術エデュ	株式会社 美術出版エデュケーショナル	
78-2	富山房	有限会社 富山房	
78-7	ぶどう社	株式会社 ぶどう社	
78-9	文英堂	株式会社 文英堂	
78-12	文溪堂	株式会社 文溪堂	
78-13	文理	株式会社 文理	
78-15	ブティック	株式会社 ブティック社	
78-16	扶桑社	株式会社 扶桑社	
78-18	フォーラム	株式会社 フォーラム・A企画	
78-20	双葉社	株式会社 双葉社	
78-34	プレジデ社	株式会社 プレジデント社	
78-36	文響社	株式会社 文響社	
79-6	ベネッセ	株式会社 ベネッセコーポレーション	
79-9	ベストセラ	株式会社 ベストセラーズ	
79-10	ベレ出版	有限会社 ベレ出版	
80-6	ほるぶ	株式会社 ほるぶ出版	
80-11	ボトス出版	ボトス出版 有限会社	
80-12	保育社	株式会社 保育社	
80-13	本の泉社	株式会社 本の泉社	
80-14	ぼーぐなん	株式会社 ぼーぐなん	
80-15	北海道新聞	株式会社 北海道新聞社	
81-7	マール社	株式会社 マール社	
81-15	マガジン社	株式会社 マイクロマガジン社	○
82-3	三起商行	三起商行 株式会社	
82-4	光村教育	光村教育図書 株式会社	
82-5	光村図書	光村図書出版 株式会社	
82-6	みくに出版	株式会社 みくに出版	
82-10	光村推古	光村推古書院 株式会社	
82-14	ミシマ社	株式会社 ミシマ社	
82-15	三輪書店	株式会社 三輪書店	
82-16	ミネルヴァ	株式会社 ミネルヴァ書房	
83-3	むさし書房	クイックターンプロジェクト	
84-1	明治図書	明治図書出版 株式会社	
84-4	メイツ出版	株式会社 メイツユニバーサルコンテンツ	
84-5	明治書院	株式会社 明治書院	
84-7	メディアバル	株式会社 メディア・バル	
86-6	ヤマハHD	株式会社ヤマハミュージックエンターテインメントホールディングス	○
87-8	ゆまに	株式会社 ゆまに書房	
87-11	UD絵本	特定非営利活動法人ユニバーサルデザイン絵本センター	
87-14	唯学書房	有限会社 唯学書房	
88-6	幼年教育	幼年教育出版 株式会社	
88-7	こぐま会	株式会社 幼児教育実践研究所(こぐま会)	
89-2	ラボ教育	株式会社 ラボ教育センター	
90-11	リヴォルヴ	特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所	
90-13	リベラル社	株式会社 リベラル社	
92-1	黎明書房	株式会社 黎明書房	
93-3	ロクリン社	株式会社 ロクリン社	
T181	東点(一般)	社会福祉法人 東京点字出版所(一般)	
T182	ライト(一般)	社会福祉法人 日本ライトハウス(一般)	
T216	支援セ(一般)	社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター(一般)	
T217	日点(一般)	社会福祉法人 日本点字図書館(一般)	
181	東点	社会福祉法人 東京点字出版所	
182	ライト	社会福祉法人 日本ライトハウス	
196	ヘレン	社会福祉法人 東京ヘレン・ケラー協会	

※ 変更欄(令和3年度使用教科書事務執行管理システム掲載からの変更)

○… 発行者名変更

○… 新規発行者

義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員

高	木	史	人	武庫川女子大学	教授
田	中	由	紀	西宮市P T A協議会	副会長
西	井	美	和	西宮市P T A協議会	会計
河	合	純	孝	西宮市立鳴尾北小学校	校長
牧	野	天	志	西宮市立夙川小学校	校長
北	村	一	朗	西宮市立鳴尾東小学校	主幹教諭
平	野	佳	子	西宮市立北六甲台小学校	主幹教諭
木	田	重	果	西宮市教育委員会学校教育課	課長
桑	原	美	和	西宮市教育委員会学校教育課	係長

以上 9 名

「令和5年度教科書展示会」における意見より**【展示会について】**

- ・参考になった（子供が小1）。
- ・色々な教科書がみられる機会でありがたいです。
- ・イスやテーブルなどが近くにあるほうが、いろいろな教科書を見やすかったと思いました。
- ・各教科書会社の内容について比較ができ、よくわかりました。
- ・小学校の教科書を見る機会がないので、比べて見ることができ興味深かったです。
- ・各社の教科書が一度に閲覧できる機会があり、とてもありがたいです。指導要領改訂から数年がたち、現行の冊子から新しい冊子にどのような意図で紙面が変わっているのか興味深く読むことができました。ありがとうございました。
- ・いろいろな教科書が見られて良かったです。
- ・各社の教科書を一同に見比べることができました。ありがとうございます。
- ・参考になりました。ありがとうございました。
- ・このような機会を設定して頂きありがとうございました。
- ・児童や生徒が実際に使用している教科書を手に取ってみる事ができる展示会は必要だと思いました。

【教科書全般について】

- ・小四と中二の孫がいるので興味深く見せて頂きました。教科書は昔から面白く楽しいのが一番と思っています。「自分は何が好きなのか」「自分は何をしたいのか」を考えさせるのが大切。親や周りの人が『そっと導く』ことが必要だと常日頃考えています。枠にはめないで、自由にのびのび育てたいと思います。
- ・59年前よりも易しくなっている。
- ・カラフルで立派な教科書にびっくり。
- ・子どもが使う新しい教科書、とても素敵になっていておどろきました。カラーで見やすく、とても楽しそうです。また、昔より大きくなっていたり、QRコードが入っていたりして、時代に応じて変わっていると思いました。1つ気になることは、道徳で細かい学び方の手順をのせているところがありますが、やりすぎな感じもしています。
- ・今後、子供がどのような学習をするのか参考になった。又、字も見やすく読みやすいし、イラスト等も多く子供が興味を持つと感じた。ページ数が少ないような気がするが、今は体験させる学習の方が重視されている気がする。
- ・年長児の子供とききました。小1の教科書を中心に見ましたが、思ったより考えさせられる問題が多かったです。勉強についていけるよう、今から対策していかないといけないのかなと思いました。
- ・数10年と教科書というものにはノータッチだったが、久々に見て、自分の時代と様変わりしているのに驚いた。見やすく分かりやすい気がします。
- ・最近の教科書は大きく写真も多く、カラーページも多く、楽しい作りになっていて、とてもうらやましく思いました。
- ・むかしの教科書と比べて、色々新しいことが多いなと感じました。
- ・たくさんの人に見てもらいたい。
- ・時代や社会にあったものが増えてきたように感じた。
- ・（低学年）小学生の教科書はカラーでとても取りくみやすそうでした。

- ・息子（中学生）と娘（小学生）の学習内容が知りたく拝見させていただきました。教科書自体も分厚く、また内容も濃くなっており読みごたえがありました。
- ・自分の子供の頃よりカラーページが増えていて驚いた。懐かしい気分になりよかったです。
- ・小4の母です。オールカラーで見やすく、つい次の頁をめくりたくなるデザインです。ただ、もう少し落ち着いた色の方が目が疲れない、集中できるかと思います。下の子が療育に通っております。集中力があまりないのでどこを見たらよいかわかりにくいかと思いました。
- ・自身が学生時代に使っていた教科書から、単元や内容も大きく変わっていて驚いた。また、カラーとなっており、子供の学習に役立つと思った。
- ・親世代と学びの内容が全く違うことがよく分かった。ビジュアル重視になり、イラストや写真もたくさんあるが、レイアウトなどがすっきりせず、分かりにくさも感じた（どの社も同傾向）。デジタル教科書も親も確かめる機会が欲しい。
- ・自分が学生時代、勉強がとても苦手で頑張らなかったのですが、時代も変わり、年を重ねることで学ぶことの大切さや楽しさを改めて感じるようになりました。最近の学生の方々がどのような教科書を使い学ばれているのか…自分の学び直しの参考にもできたら…と、この企画を知り、寄らせていただきました。ものすごい種類の科目、知らない科目もあり、大変興味深く拝見いたしました。また、子供達が恐ろしく重たい”カバン”を日々背負っている理由も少し理解できました。私たちの時よりも教科書のサイズが大きく厚く重くなっていますね…。
- ・小学校、中学校、特別支援学校と分類わけされており、非常に見やすい展示会でした。私自身が使っていたものだけでなく、様々な出版社の教科書があり、飽きないものでした。今では新課程となり、教育業界は常に変化し続けています。その変化に対応し、のみこまれないように工夫を施している教科書は奥深く面白いものだと気づかされました。このような展示会があってこそこの気づきであったと思います。ありがとうございました。
- ・デザインが私が小学生の頃より変わっていた。使っていたものも、中が変わっていたりと驚きました。
- ・30年以上前と比較して、文字が少なくなったと感じる。
- ・なつかしかった。道德の教科化に伴い、「教科書」的な教科書は増えていて驚きでした。現代的な表紙のものが多かったです。
- ・QRコードの使い方などいろいろ勉強になりました。
- ・新しい教科書にたくさんの工夫がされていて驚いた。
- ・QRコードが使用できる教科書にちょっと感動！！時代の流れを実感しました。
- ・教科書の内容は、それぞれ充実していると思うが、教科書をもっと軽くするか、単元ごとの小冊子にするなど、かばんに入れて、毎日持ち運ぶことを考慮してほしい。
- ・各会社ごとに違いがあるが、最終的には授業者が授業しやすいもの、また生徒たちにわかりやすく教えることができる教科書が良いと思う。
- ・今回からQRコードがつくという事で、何コか見ました。興味のある人がインタビューなど見たり聞いたりするのは良いなと思いましたが、すべてにおいては要らないのではと思いました。教科書がすべて大きく厚みもあって子供たちが毎日持っていくのは大変だと感じます。6年社会科の教科書の文字も大きすぎないかと思いました。文教出版の消費税の記述とか気になりました。道德が導入された時に問題になった「かぼちゃのつる」など相変わらずのっているのだなと思い残念に思いました。
- ・ジェンダーや性の多様性に関する記事際について見に来ました。LGBTについて書いているものや、夫婦別姓などについて考えるなど参考になりました。

- ・ジェンダーやLGBTQの記述が少しずつ増えていてよかったです。
- ・現在の教科書の学習内容及び表現が知れて学べました。
- ・会社員です。これからの社会人になる子供たちがSDGsやLGBTについてどのように学ぶのが興味をもちました。ありがとうございました。
- ・楽しそうなイラスト、充実した内容の教科書が多いんだなと思いました。（重そうですが…）
- ・1年生の算数の初期指導用のものが別冊になっている会社があり指導のしやすさにつながると感じた。また薄いので荷物の軽減にもつながりそうです。国・算・理・社で、5～6年または3年以上で、上・下の区別がなくなっている。中・高学年にとって荷物が重くなる原因となっているが、何とかならないものかと思う。
- ・昨年に引き続き、東館の健康ポイント測定の帰りに立ち寄りしました。半世紀前の少年時代を思い出し懐かしかったです。AIの教育界への浸透には驚かされました。
- ・各社の違いと時代のニーズの取り込み方の軽重が興味深かったです。
- ・どの校種、教科においても児童・生徒が意欲をもって学習できるような工夫がされている。

【社会について】

- ・音楽の教科書で新しい歌があって興味深かった。英語の教科書で内容が濃くなっているような気がした。歴史の教科書で出版社によって、書き方が違うのが興味深かった。懐かしい気持ちになったり、興味深かったりして、とても良いイベントだと感じた。なかなかない機会なので来て良かった。
- ・カラーの教科書で、歴史は資料集のようでした。参考になりました。
- ・高等学校の教科書数学と中学校の歴史がよくできています。
- ・（社会科）ざっと全体を見ましたが、とてもカラフルで楽しく学べるよう、私の時の教科書のイメージとは進んでいました。イラスト、マンガ、カラー写真ふんだんに。取り上げていることから、今の感染症、ウクライナのことなど、又、手塚治虫、黒柳徹子、中村哲さんなど今の子ならよく知っている人々をとりあげていました。帝国書院の地図帳まですっかり変わっていたのにはおどろき、東書はそれ以上でした。東書の6年生は歴史と政治、国際と2冊に分かれていて、熱心に作られたことが伺え詳しくかったです。ただ、中身、書き方では戦争のところは日がいいた意見が多く、加害の事実をもっと載せないと「日本の進出」と書いて「侵略」したということが子供にわかりにくいと思います。文教出版が自衛隊のことを嫌に詳しく1Pとって、写真も随所に載せて、少し政府よりか？外国と比べようとアメリカ、中国、ブラジルと比べているのは良いと思います。特に今、中国を敵視する動きなので、文教（？）は韓国とも比べていいです。憲法にも「あたらしい憲法の話」や「自由民権→憲法草案など」最近の研究成果が大分反映されていると思います。道徳の6年のも東書がいろんな人を取りあげていいと思うが、感想文を書かされたり、子供にとってはしんどくなるので、せっかくな話の押し付けになるのでは？と思いました。SDGsも全部のっていて、やはり時代は進んでいると思うので、先生たちが本当に「これがいい、教えやすい」と思うのを自由に選べるような制度にしたらいい。どうして少数者の検定制度にするのでしょうか。
- ・「文教出版小学社会6」に消費税のことが書かれていましたが、実際と違う内容になっているように思います。すべての教科書、昔とちがって盛りだくさんな資料におどろいています。QRコードについてもびっくりしています。子どもたちはついていけるのでしょうか？
- ・国語の新しい読み物が増えた印象です。変わらず読ませたいもの「海の命」や宮沢賢治の作品も含まれておりホッとしました。本の紹介、書き順などどこに何があるのか調べやすいものが良いと感じた。社会…見開きの頁毎に何を考えるのかが記載されている。写真などを大きく豊富に使っているものが良い。高学年は分冊ではなく、見通せるよう1冊が良い。

・初めて展示会で閲覧しました。時間が限られているので中学校の社会（歴史、公民）に目を通しました。私の時代と違って、カラー写真、多くの挿絵にはおどろきました。感じたことは各社ともに明治から平成にかけて色濃く国の意思が反映されている表記を見にしました。ある出版社さんは、そもそも歴史の意味を書き、納得すると共に感心したのですが、関東大震災に起きた虐殺が抜け落ちたりして残念な部分もありました。平成になるまで昭和の教科書は事実を客観的に表記していて、現在展示しているものよりはるかに理解しやすいものでした。あった事を伝える教科書であってほしいものです。

【その他の教科の教科書について】

・英語を中心には意見しましたが、昔と様変わりしていて驚きました。会話を存分に導入していること、時事問題が多いこと、色刷りの美しさ、子供達が興味をひくようなイラストの数々、羨ましく思いました。グローバル化を意識してよい人材が育つのに役立ててほしいです。（元英語教師）

・今頃の音楽はどんな曲を選んでいらっしゃるのか知りたかった。昔から親しんできているのもあったのでホッとしました。

・光村図書 国語 二上 三上 を見させて頂きました。これまでのものより色がよく使われているように思いました。三上「引用するとき」に関しては、これまでのものより、出典の書き方が分かりやすく説明されているように感じました。また SDG s 関連の本紹介（本の世界をひろげよう）が増えていて今の時代にあった本が掲載されていると思いました。

・近年の筆者の入れ代わりが参考になった。（国語）英語は出版社により会話重視と文法重視になっており選択に迷う。

・来年度、子供が利用する教科書が事前に見る事が出来て良かったです。来年4年生ですが、国語の教科書を見ると難しい漢字がたくさんあり、覚えられるだろうか心配にもなりました。表紙のイラストがとてもステキでした。

・国語や英語の文献が大変興味深く知的好奇心を大いに刺激する内容だと思いました。

・「音楽のおくりもの」は写真が大きくてきれい（ふじさんとかこいのぼり）。英語の教科書はどれも多様性などが配慮されていてよい。

・久しぶりに教科書をじっくりと読めて良かったです。英語の教科書を見て、今の小学生はこんなことを学んでいるんだと感心しました。

・数IIIの教科書で航空機の位置を双曲線の定義から求める話は面白かった。

・音楽の教科書でどんな曲がのっているのか楽しみです。

・小学校の理科の教科書しか見ていませんが、各出版社により説明の仕方に特徴があって興味深く拝見しました。写真がどんどんきれいになって、最新の情報が取り入れられていることに感心しました。子どもたちが楽しく学んでくれるといいですね。

・小学校算数に興味があり見ました。1年生向けに副読本が付いているものがありましたが、スタート時にこちらの方が使いやすいなと思いました。

・パソコンがあたり前の世の中、文章を書いていると、ふと漢字が出てこない時があります。今、世界的に chatGPT の是非が問われています。国語教育が全ての科目の基本です。このままうかつに進化すると、新しい時代の文盲が発現しかねません。しっかり教育をお願いします。

・はじめて来てみました。いくつもの教科書会社が集まり、内容比較ができ、おもしろかったです。国語ではもっと文が変わるのかと思っていましたが、あまり変わっていないので、ずっとこれからも引き継がれる名作を学んでいるのだと改めて感じました。勉強の方法が変わり、説明なども書いていたので、時代にあった学びをするためにも、もっと学んでいかなければならないと感じました。

- ・自分が小学校の時に使っていた国語の教科書に心を奪われました。子供の時の記憶が思い浮かびました。教科書は子供が使う身近な本ですので、今後もこれまでのように子供のことを考えて採択していただけたらありがたいです。
- ・小学校「生き方」の本 いいこと書いてありますね。歴史は東日本震災あたりまでですね。来年あたりコロナ感染のこと、ウクライナのことなどが出てくるのでしょうか。楽しみです。
- ・小学校英語の教科書の難易度の高さに驚いた。小中で教材、学習内容の連携の必要性を改めて感じた。中学校入学時すでに英語につまずきを感じている生徒が多いと感じている。デイジー教科書を見ることができて良かった。
- ・普段見ることができない小学校の教科書を見ることができて学びになりました。中学校の共通教材が小学校の教科書にも掲載されていることがわかり、疑問がうまれました。(ex.花、交響曲第5番、荒城の日など)
- ・共通教材が小学校にも入っているのを多くの教科書を比べて初めて気付いた。作る時の参考にしてもらいたい。(入っているのはおかしいということ) 道徳はかなり違う印象を受けた。選ぶ会社によって、カラーが違うので、選択にはかなり気を使うと感じた。
- ・道徳について、小中がまとめて閲覧ができ、教材の流れがわかった。
- ・中学校の理科の教科書を見ました。記載内容、構成、大きさ等から、大日本図書が採択されるとよいなと思います。

【その他】

- ・パソコンのマナーについて早くから教えてもよいのでは…。
- ・紙媒体の教材と PC や映像、web のコンテンツなどと組み合わせた授業風景も欲しかった。将来は PC 端末やタブレットに教科書が統一されるのか。実際に手で触れる学習とバーチャルな体験がどのように生かされていくのかに興味がある。
- ・手に取って教科書は意見することができ、懐かしく感じました。デジタル教科書が導入されつつありますが、近い将来、教科書、鉛筆、ランドセルがいなくなる時代がくるのでしょうか？ 淋しい感じもあります。
- ・一教科が分割されていてこんなにたくさん勉強しているの？
- ・教科書も貸し出し図書になれば家でゆっくり見られるのにと思いました。
- ・教育、特に道徳方面の教科書を中心に見させてもらいました。教科書メーカーの特色もありますが、選定は教師目ではなく、将来の子供達の為を思って選定してほしいものです。
- ・小5から英語がある。時代が変わった。
- ・特別支援の教科書を見たくて来ました。今、市立小学校の支援級に子供が行っていますが、通常の教科書を配られても全く活用していません。特別支援の教科書は字も大きく読みやすくいいと思います。このような教科書があることを最近知ったので、子供の学校でもぜひ活用していただきたいと思いました。